令和７年度入学生用

２年次（令和８年度開講）

履　修　要　項

(syllabus)

児童教育学科

鹿児島女子短期大学
Kagoshima Women's College

令和7年度入学生　教 育 課 程

別表 第1 児童教育学科教育課程表

区分	ページ番号	授業科目	授業形態	履修方法 卒業履修単位数 必修	選択	開講学期単位数 1前	1後	2前	2後	備考
一般教養科目		**わたしを知る・わたしを創る**								
		心と思想の探求（人間の心に迫り人間を知る）								
		日本語表現の基礎	講義		2	2	2			
		倫理学	講義		2	2	2			
		心理学	講義		2	2	2			
		健康の探求（健康な心と体をつくる）								
	7	体育講義	講義		1			1		幼教免・小教免・保育士証必修
	9	体育実技	実技		1				1	幼教免・小教免・保育士証必修
		社会を知る・社会につながる								
		社会の探求（社会に目を向ける）								
		社会学	講義		2	2	2			
		日本国憲法	講義		2		2			幼教免・小教免必修
		歴史学	講義		2	2	2			
		総合教養Ⅰ	講義		2	2				
		総合教養Ⅱ	講義		2		2			
		AI社会論 ○	講義		2	2	2			デジタル教育プログラム選択必修
		キャリアの探求（職業を考え人生を設計する）								
	13	キャリアガイダンス	演習	2		1			1	
		世界を知る・世界を広げる								
		異文化の探求（海外に目を向ける）								
		海外事情	演習		2		2			海外研修
		公共人類学	講義		2	2	2			
		英語の文学とメディア	講義		2	2	2			
		アメリカ文学	講義		2	2	2			
		英語演習Ⅰ	演習	2		2				英語・中国語・韓国語・日本語演習のいずれかのⅠ・Ⅱを連続選択履修
		中国語演習Ⅰ	演習			2				
		韓国語演習Ⅰ	演習			2				
		日本語演習Ⅰ	演習			2				
		英語演習Ⅱ	演習	2			2			＊日本語演習は留学生対象科目 参照:別表5 留学生特別科目教育課程表
		中国語演習Ⅱ	演習				2			
		韓国語演習Ⅱ	演習				2			
		日本語演習Ⅱ	演習				2			
		自然界の探求（いろいろな世界に目を向ける）								
		数学基礎	講義		2	2	2			
		理科基礎	講義		2	2	2			
		分子からみた生物	講義		2	2	2			
		SDGs論	演習		2		2			
		データサイエンス概論 ○	講義		2	2	2			デジタル教育プログラム選択必修
	15	データサイエンス演習 ◎	演習		2			2		デジタル教育プログラム・プラス選択必修
	17	AIプログラミング ◎	演習		2				2	デジタル教育プログラム・プラス選択必修
最低修得単位数				6	10					
卒業最低修得単位数 16										

注: ○から1科目選択必修（デジタル教育プログラム）
◎から1科目選択必修（デジタル教育プログラム・プラス）

区分	ページ番号	授業科目	授業形態	履修方法								開講学期単位数				備考
				卒業履修単位数		小教免修得単位数		幼教免修得単位数		保育士証修得単位数						
				必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	1前	1後	2前	2後	
専門科目（教員免許に関する科目等）	21	国　語(書写を含む)	講　義		2	2									2	
	23	社　　会	講　義		2		2								2	
	25	算　　数	講　義		2	2								2		
	27	理　　科	講　義		2		2								2	
	29	生　　活	講　義		2	2								2		
		音　　楽	演　習		2	2						2				
		図画工作	演　習		2	2						2				
	31	家　　庭	講　義		2		2								2	
	33	体　　育	演　習		2	2								2		
	35	外国語	演　習		2	2								2		
		国語科指導法	演　習		2	2						2				
		社会科指導法	演　習		2	2						2				
		算数科指導法	演　習		2	2						2				
	37	理科指導法	演　習		2	2								2		
	39	生活科指導法	演　習		2	2									2	
		音楽科指導法	演　習		2	2							2			
		図画工作科指導法	演　習		2	2							2			
	41	家庭科指導法	演　習		2	2									2	
	43	体育科指導法	演　習		2	2									2	
	45	外国語指導法	演　習		2	2									2	
	47	幼児と健康	演　習		1			1		1					1	
	49	幼児と人間関係	演　習		1			1		1				1		
	51	幼児と環境	演　習		1			1		1				1		
	53	幼児と言葉	演　習		1			1		1			1(小幼保)	1(幼保)		
		幼児と表現	演　習		2			2		2		2				
	55	保育内容総論	演　習		2			2		2					2	
	57	保育内容(健康)の指導法	演　習		2			2		2				2		
	59	保育内容(人間関係)の指導法	演　習		2			2		2					2	
		保育内容(環境)の指導法	演　習		2			2		2			2			
		保育内容(言葉)の指導法	演　習		2			2		2		2				
		保育内容(表現)の指導法	演　習		2			2		2			2			
		教育原理	講　義	2		2		2		2		2				
		保育原理	講　義		2			2		2		2				
		教職概論	講　義	2		2		2		2		2				
		教育制度論	講　義	2		2		2			2		2			
		教育心理学▲	講　義	2		2		2		2		2				
		特別支援教育・保育	講　義	2		2		2		2			2			
	61	教育課程・保育計画の意義と編成・評価	講　義	2		2		2		2				2		
	63	道徳教育の指導法	演　習		2	2									2	
	65	総合的な学習の時間の指導法	演　習		2	2									2	
	67	特別活動の指導法	演　習		2	2								2		
		教育の方法・技術	講　義	2		2							2			
	69	保育の方法・技術	講　義					2		2				2		
		情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	講　義		1	1							1			
		生徒指導・進路指導	講　義		2	2							2			
	71	幼児理解	講　義		2			2		2					2	

注:　▲印＝ピアヘルパー認定試験受験資格必修

区分	ページ番号	授業科目	授業形態	履修方法 卒業履修単位数 必修	卒業履修単位数 選択	小教免修得単位数 必修	小教免修得単位数 選択	幼教免修得単位数 必修	幼教免修得単位数 選択	保育士証修得単位数 必修	保育士証修得単位数 選択	開講学期単位数 1前	1後	2前	2後	備考
専門科目（教員免許に関する科目等）	73	教育相談▲	講義	2		2		2		2				2		
		幼稚園教育実習Ⅰ指導	講義		1		1	1					1			
		幼稚園教育実習Ⅰ	実習		2	2		2					2			
	75	小学校教育実習指導	講義		1	1		3						1		
	77	小学校教育実習	実習		2	2								2		
	79	幼稚園教育実習Ⅱ指導	講義		1									1		
	81	幼稚園教育実習Ⅱ	実習		2									2		
	83	保育・教職実践演習	演習	2				2		2					2	
	85	小学校教職実践演習	演習			2									2	
		社会福祉	講義	2		2		2		2		2				
		情報機器演習	演習	2		2		2		2		2				
	87	教師と法	講義		2		2							2		
	89	子どもと人権	講義		1		1		1		1			1		
	91	環境教育演習	演習		1		1								1	
	93	カウンセリング入門▲	講義		1		1		1		1				1	
	95	生涯学習論	講義		2		2								2	
	97	家族関係論	講義		2		2		2		2				2	
		子どもと音楽Ⅰ	演習		2				2		2	2				
		子どもと音楽Ⅱ	演習		2				2		2		2			
	99	子どもと音楽Ⅲ	演習		2				2		2			2		
	101	子どもと音楽Ⅳ	演習		2				2		2				2	
	103	子どもと造形Ⅰ	演習		2				2		2			2		
	105	子どもと造形Ⅱ	演習		2				2		2				2	
	107	子どもと運動・身体表現	演習		2				2		2				2	
	109	読書と豊かな人間性	講義		2		2		2		2				2	司書教諭必修
専門科目（保育士証に関する科目等）		子ども家庭福祉	講義		2					2			2			
		保育者論	講義		2					2			2			
	111	子ども家庭支援論	講義		2					2				2		
		社会的養護Ⅰ	講義		2					2			2			
	113	社会的養護Ⅱ	演習		1					1				1		
		保育の心理学	講義		2					2		2				
	115	子ども家庭支援の心理学	演習		2					2					2	
		子どもの保健	講義		2					2		2				
		子どもの健康と安全	演習		1					1			1			
	117	子どもの食と栄養	演習		2					2				2		
		子どもの理解と援助	演習		1					1			1			
	119	子育て支援	演習		1					1					1	
		乳児保育Ⅰ	講義		2					2		2				
		乳児保育Ⅱ	演習		1					1			1			
		保育所実習Ⅰ指導	演習		1					1			1			
		保育所実習Ⅰ	実習		2					2			2			
	121	施設実習Ⅰ指導	演習		1					1				1		
	123	施設実習Ⅰ	実習		2					2				2		
	125	保育所実習Ⅱ指導	演習		1					3				1		保育士証はいずれかの実習指導及び実習を選択必修
	127	保育所実習Ⅱ	実習		2									2		
	129	施設実習Ⅱ指導	演習		1									1		
	131	施設実習Ⅱ	実習		2									2		
最低修得単位数計				22	24	70		50		74	2					
卒業最低修得単位数		必修 22		選択 24				合計 46								

別表　第1の2　司書教諭養成科目

（〇印は専門科目と重なる）

ページ番号	授業科目	授業形態	履修方法単位数 必修	履修方法単位数 選択	開講学期単位数 1前	開講学期単位数 1後	開講学期単位数 2前	開講学期単位数 2後	備考
133	学校経営と学校図書館	講　義	2				2		
135	学校図書館ﾒﾃﾞｨｱの構成	講　義	2				2		
137	学習指導と学校図書館	講　義	2					2	
(109)	〇読書と豊かな人間性	講　義	2					2	
139	情報メディアの活用	講　義	2					2	
	最低修得単位数		10						
	最低修得単位数総計　［司書教諭（小教免＋10）　96　］								

一般教養科目

科目名	体育講義	**科目ナンバー**	**AJ023013**
担当者	萩原　香織		
科目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目		
施工規則に定める科目区分または事項等	体育		
授業形式	講義		
配当年次	2年	**科目群**	一般教養科目
開講期	前期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	1単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	必修：小教免、幼教免、保育士証		

授業の概要	短大生活において充実した生活を送り、さらに生涯にわたって豊かな人生を送るために、心身の健全な育成と健康の増進が不可欠である。本講義では健康づくりに重要なライフスタイルの獲得に向けて、運動、栄養、休養といった多角的な視点から概説する。また、現代社会におけるスポーツの重要性を理解し、健康増進や社会的発展に寄与・貢献できる基礎的な理解を深める。			
授業の到達目標	１．健康についての基礎的な理解を深めることができる。２．スポーツについての基礎的な理解を深めることができる。３．健康とスポーツにおける相互関係の理解を深めることができる。			
ディプロマポリシー（DP）	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○	◎	○	○
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	オリエンテーション（運動及び健康についての概念）	萩原
第2回	運動と健康を考える①（運動生理と筋活動）	萩原
第3回	運動と健康を考える②（トレーニングとダイエット）	萩原
第4回	運動と健康を考える②（こころの健康）	萩原
第5回	スポーツをめぐる現状と今日的課題	萩原
第6回	女性と運動を考える①（女性の身体の仕組み）	萩原
第7回	女性と運動を考える②（妊娠と出産）	萩原
第8回	生涯スポーツと健康スポーツ　まとめ	萩原
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	参考文献等をよく読んでおく。日々、スポーツや健康のニュースや話題に触れるようにする。	学習合計時間(h)	15
事後学習	講義内容を振り返り、健康を維持できるよう運動や食事等について理解を深める。	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	課題（授業ごとの小レポート・小テスト等）を課した場合、求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	木曜日　15:00～16:00　研究室（体育館202号室）		

テキスト	適宜資料を配布する。
参考文献等	『もっとなっとく使えるスポーツサイエンス』　征矢英昭他　講談社　2017年　2,000円（税抜き）（ISBN 978-4062806640）『JOAオリンピック小事典』　日本オリンピック・アカデミー　メディアバル　2016年　1,800円（税抜き）（ISBN 978-4896101607）
成績評価基準	健康に関する理解を深め、積極的に健康管理ができるようになること。
成績評価の方法	毎回授業後に実施する小レポート（50%）、小テスト（30%）、受講態度（20%）で評価する。
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	体育実技	**科目ナンバー**	**AJ024018**
担当者	安方　惇		
科目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目		
施工規則に定める科目区分または事項等	体育		
授業形式	実技		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	**科目群**	一般教養科目
開講期	後期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	1単位	**担当形態**	クラス分け
免許・資格情報	必修：小教免、幼教免、保育士証		

授業の概要	身体を動かす機会の少なくなった今日、余暇時間等におけるスポーツ・レクリエーション活動の必要性が高まっている。そこで、生涯スポーツとして親しまれている種目を実践することにより、スポーツの楽しさや健康・体力への効果を理解するとともに、運動習慣の形成を図り、生涯にわたり主体的にスポーツ・レクリエーション活動に参加できる態度を養う。
授業の到達目標	１．スポーツの「楽しさ」を理解できる。 ２．身体活動が健康に及ぼす影響を理解できる。 ３.「楽しむ」「認め合う」「協調する」を意識してスポーツを実践することができる。

ディプロマポリシー（DP）	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○	◎		○

※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）

授業計画		**担当者**
第1回	オリエンテーション・レクリエーション	安方
第2回	ニュースポーツ①（ルール説明、基礎練習・簡易ゲーム）	安方
第3回	ニュースポーツ②（ルール説明、基礎練習・簡易ゲーム）	安方
第4回	ゴール型スポーツ①（ルール説明、基礎練習・簡易ゲーム）	安方
第5回	ネット型スポーツ①（基礎練習・簡易ゲーム）	安方
第6回	ネット型スポーツ②（応用練習・対抗戦）	安方
第7回	ニュースポーツ③（ルール説明、基礎練習・簡易ゲーム）	安方
第8回	ゴール型スポーツ②（ルール説明、基礎練習・簡易ゲーム）	安方
第9回	ネット型スポーツ③（基礎練習・簡易ゲーム）	安方
第10回	ニュースポーツ④（ルール説明、基礎練習・簡易ゲーム）	安方
第11回	個人・チームスポーツの実践①（応用練習・ゲーム企画・実施）	安方
第12回	個人・チームスポーツの実践②（応用練習・ゲーム企画・実施）	安方
第13回	個人・チームスポーツの実践③（応用練習・ゲーム企画・実施）	安方
第14回	個人・チームスポーツの実践④（応用練習・ゲーム企画・実施）	安方
第15回	個人・チームスポーツの実践⑤（応用練習・ゲーム企画）	安方

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
		○		○	

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	日常生活において、身体運動やスポーツを実施できるようにする。	学習合計時間(h)	30
事後学習	ルール等を理解して、身体運動やスポーツを実施できるようにする。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	授業時などにおいて適宜対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	事前に連絡の上、調整する。授業終了時の質問等は随時受け付ける。		

テキスト	特になし
参考文献等	実施する種目についてWeb上で検索し、ルール等の事前事後学習として利用すること。
成績評価基準	スポーツ活動の楽しさを理解するとともに、積極的に健康管理に関われるようにする。
成績評価の方法	授業への取り組み態度（60%） 授業において「楽しむ」「認め合う」「協調する」を意識し、他者と協力しながら主体的にスポーツ活動へ取り組む姿勢を評価する。 スポーツ活動への実践力（20%）
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	体育実技	**科目ナンバー**	**AJ024018**
担当者	川畑　和也		
科目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目		
施工規則に定める科目区分または事項等	体育		
授業形式	実技		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	**科目群**	一般教養科目
開講期	後期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	1単位	**担当形態**	クラス分け
免許・資格情報	必修：小教免、幼教免、保育士証		

授業の概要	身体を動かす機会の少なくなった今日、余暇時間等におけるスポーツ・レクリエーション活動の必要性が高まっている。そこで、様々なスポーツ種目に取り組むことにより、スポーツの「楽しさ」や健康に及ぼす影響を理解し、各自が生涯にわたり、積極的にスポーツ・レクリエーション活動に関わることができるようにする。
授業の到達目標	１．スポーツの「楽しさ」を理解できる。２．身体活動が健康に及ぼす影響を理解できる。　３.「楽しむ」「認め合う」「協調する」を意識してスポーツを実践することができる。

ディプロマポリシー（DP）	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○	◎		○
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	オリエンテーション・レクリエーション	川畑
第2回	ニュースポーツ①（ルール説明、基礎練習・簡易ゲーム）	川畑
第3回	ニュースポーツ②（ルール説明、基礎練習・簡易ゲーム）	川畑
第4回	ゴール型スポーツ①（ルール説明、基礎練習・簡易ゲーム）	川畑
第5回	ネット型スポーツ①（基礎練習・簡易ゲーム）	川畑
第6回	ネット型スポーツ②（応用練習・対抗戦）	川畑
第7回	ニュースポーツ②（ルール説明、基礎練習・簡易ゲーム）	川畑
第8回	ゴール型スポーツ②（ルール説明、基礎練習・簡易ゲーム）	川畑
第9回	ネット型スポーツ③（基礎練習・簡易ゲーム）	川畑
第10回	ニュースポーツ④（ルール説明、基礎練習・簡易ゲーム）	川畑
第11回	個人・チームスポーツの実践①（応用練習・ゲーム企画・実施）	川畑
第12回	個人・チームスポーツの実践②（応用練習・ゲーム企画・実施）	川畑
第13回	個人・チームスポーツの実践③（応用練習・ゲーム企画・実施）	川畑
第14回	個人・チームスポーツの実践④（応用練習・ゲーム企画・実施）	川畑
第15回	個人・チームスポーツの実践⑤（応用練習・ゲーム企画）	川畑

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
		○		○	

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	日常生活において、身体運動やスポーツを実施できるようにする。	学習合計時間(h)	30
事後学習	ルール等を理解して、身体運動やスポーツを実施できるようにする。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	授業時などにおいて適宜対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	事前に連絡の上、調整する。授業終了時の質問等は随時受け付ける。		

テキスト	特になし
参考文献等	実施する種目についてWeb上で検索し、ルール等の事前事後学習として利用すること。
成績評価基準	スポーツ活動の楽しさを理解するとともに、積極的に健康管理に関われるようにする。
成績評価の方法	受講態度等（70%） 小レポート（30%）
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	キャリアガイダンス（二年生）	**科目ナンバー**	**AJ034004**
担当者	中村　礼香		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	演習		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	**科目群**	一般教養科目
開講期	後期	**卒業の選択・必修**	必修
単位数	1単位	**担当形態**	複数
免許・資格情報	―		

授業の概要	キャリアガイダンスの目的は、職業選択を通してあなたらしい生き方を見つけることです。この授業では、自分の過去をふりかえり、今を見つめ、将来を考えることで「自立した自分らしい生活設計」を作り上げられることを目的にしています。2年後期のキャリアガイダンスでは、実習体験や就職活動を通して、職業人としての自分自身の生き方を考えていきます。			
授業の到達目標	就職活動や実習を通して自己理解を深め、職業選択に生かし、卒業後の職業生活について理解する			
ディプロマポリシー（DP）	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○	○	◎	○
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	保育者のキャリア形成について	A
第2回	実習の振り返り(1年生へ伝える)	A
第3回	進路支援ガイダンス1	A
第4回	進路についての個別面談1	A
第5回	進路についての個別面談2	A
第6回	働くための法律	A
第7回	多様なキャリア形成	A
第8回	進路支援ガイダンス2	A
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
		○			○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	1年次の生活・学習内容・実習を振り返り、将来の進路について情報を集める	学習合計時間(h)	15
事後学習	自分の目指す進路に関わらせ、講義の内容を振り返る	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	提出された課題に対しては、ホーム指導教員が適宜対応する		
質問・相談方法	オフィスアワーにて対応		
オフィスアワー	井上(責任者)		

テキスト	学科独自に作成した資料、進路支援ガイド(本学作成)、キャリア形成ガイドブック(鹿児島市)
参考文献等	特になし
成績評価基準	自己理解を深め、働くことや職業の意義をふまえた上で、目指す職業について理解し、準備を進めていること。
成績評価の方法	受講態度(30%)　レポート(70%)
ＧＰＡ基準	
備考	COC関連科目　教員(A)：村若・宇都・松崎・横峯・井上・内田・中村・平本・松下・篠原・今村・水谷・檜林・瀧井・青木・小沢・萩原担当教員ごとのオフィスアワーを、オリエンテーションで配布

科目名	データサイエンス演習	**科目ナンバー**	**AA043014**
担当者	村田　和也		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	演習		
配当年次	2年	**科目群**	一般教養科目
開講期	前期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	―		

授業の概要	「データサイエンス演習」では、データサイエンスの基礎とその実践を段階的に学ぶ。現代社会においてデータサイエンスがいかに求められているか、その重要性や有用性について、実際の事例を通して理解を深める。特にAI時代において多様化する事象やデータに対応するため、統計手法や解析方法の基礎を紹介する。前半ではExcelを用いたデータ分析の基礎を学び、後半ではBIツール（Tableau）を用いて課題発見から分析・改善までの一連のプロセスを実践する。さらに、鹿児島市のオープンデータなどの実データを活用した演習を通して、地域課題の発見・分析・提案に取り組む。これらの活動を通じて、データの理解から可視化、意思決定支援までを行う実践的な能力の習得を目指す。			
授業の到達目標	次のような内容を理解し、実際にデータを使って分析することを目的としています。1.データの理解やそのリテラシーの養成。2.データサイエンスを行う流れを理解する。3.データを加工し、可視化するツールを把握する。			
ディプロマポリシー（DP）	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連				
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	ガイダンス：授業の導入と概要	村田
第2回	エクセルを用いたデータ分析演習（１）データマネジメント	村田
第3回	エクセルを用いたデータ分析演習（２）パレート分析	村田
第4回	エクセルを用いたデータ分析演習（３）クロス集計分析	村田
第5回	エクセルを用いたデータ分析演習（４）度数分布と基本統計量	村田
第6回	エクセルを用いたデータ分析演習（５）相関・予測と回帰分析	村田
第7回	BIツールを用いたデータ分析演習（１）BIツール「Tableau」のインストールと使用方法	村田
第8回	BIツールを用いたデータ分析演習（２）課題発見と絞り込み	村田
第9回	BIツールを用いたデータ分析演習（３）課題における原因の特定	村田
第10回	BIツールを用いたデータ分析演習（４）対策の検討・実行	村田
第11回	BIツールを用いたデータ分析演習（５）改善に向けた分析	村田
第12回	BIツールを用いたデータ分析演習（６）分析の目的・課題の整理	村田
第13回	実データを用いたデータ分析演習（１）地域課題の発見とデータ設計	村田
第14回	実データを用いたデータ分析演習（２）可視化と課題分析	村田
第15回	実データを用いたデータ分析演習（３）分析結果のまとめと提案	村田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○	○	○	○

担当教員の実務経験と授業の関連	テキスト解析の経験を活かす。		
事前学習	今日の社会におけるデータサイエンスの重要性を理解し、日常的に統計に関心を持つように心がけること。毎回の授業では、理解を助けるための様々な情報を提供するので、考察するなど予習を行うこと。	学習合計時間(h)	30
事後学習	毎回の授業については復習を徹底し、理解を深めること。必要に応じ課題等を課す。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	レポートやプレゼンテーションに対する講評		
質問・相談方法	授業時間内、オフィスアワー、メールによる対応		
オフィスアワー	昼休み(月?木)、事前に連絡があると尚良		

テキスト	特になし。必要な場合は適宜配布する。
参考文献等	「日本統計学会公式認定統計検定データサイエンス基礎対応 データアナリティクス基礎」日本統計学会(著) 日本能率協会マネジメントセンター 2023年 ¥2640 978-482072594||「BIツールを使ったデータ分析のポイント」黒木賢一, 下山輝昌(著) 秀和システム 2023年 ¥2640 978-
成績評価基準	
成績評価の方法	授業内課題100% (その他:課題提出における参加度や意欲を加算)
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	AIプログラミング	**科目ナンバー**	**AA044017**
担当者	村田　和也		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	演習		
配当年次	2年	**科目群**	一般教養科目
開講期	後期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	―		

授業の概要	「AIプログラミング」ではプログラミングにおける基本的な内容を扱う。特に、機械学習で利用されるPythonを用いて、プログラミングの考え方を養う。プログラミングの基礎からアプリケーション開発の基礎、AI・機械学習を用いたアプリケーション開発を通して、プログラミングの役割を学び、興味・関心を広げる。また、AIに関する理解も同様に深める。			
授業の到達目標	1. 社会におけるプログラミングの役割や重要性を理解する。2. Javascript等のフロントエンド開発言語でプログラミングの基礎や考え方を習得する。3. WEBデザインを通して自らの手でコーディングをする。4. シナリオ型の対話型AIの開発を通して、その仕組みを学び、オリジナルのAIを開発する。			
ディプロマポリシー（DP）	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連				
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	ガイダンス :講義の流れと概要	村田
第2回	Python基礎演習①：データの種類と計算	村田
第3回	Python基礎演習②：文字列操作とリスト	村田
第4回	Python基礎演習③：ライブラリと分岐処理	村田
第5回	Python基礎演習④：反復処理	村田
第6回	Python基礎演習⑤：関数の作成とライブラリ作成	村田
第7回	Python演習①：アプリケーション作成①	村田
第8回	Python演習②：アプリケーション作成②	村田
第9回	AIプログラミング①：機械学習とライブラリ	村田
第10回	AIプログラミング②：手書き文字予測	村田
第11回	AIプログラミング③：画像認識アプリケーション作成	村田
第12回	AIプログラミング④：APIキーの利用とChatGPTを利用したアプリケーション開発①	村田
第13回	AIプログラミング⑤：APIキーの利用とChatGPTを利用したアプリケーション開発②	村田
第14回	AIプログラミング⑥：APIキーの利用とChatGPTを利用したアプリケーション開発③	村田
第15回	授業の総括	村田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
			○	ー	○

担当教員の実務経験と授業の関連	AIを用いた予測やPython,SPSSを用いた統計処理の経験を活かす。		
事前学習	今日の社会におけるプログラミングの重要性を理解し、日常的にWEBサイト等に関心を持つように心がけること。毎回の授業では、理解を助けるための様々な情報を提供するので、考察するなど予習を行うこと。	学習合計時間(h)	30
事後学習	毎回の授業については復習を徹底し、理解を深めること。必要に応じ課題等を課す。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	レポートやプレゼンテーションに対する講評		
質問・相談方法	授業時間内、オフィスアワー、メールによる対応		
オフィスアワー	昼休み(月?木)、事前に連絡があると尚良		

テキスト	特になし。必要な場合は適宜配布する。
参考文献等	講義内にて参照
成績評価基準	
成績評価の方法	授業内課題100% (その他:課題提出における参加度や意欲を加算)
ＧＰＡ基準	
備考	

専 門 科 目

科目名	国語（書写を含む）	**科目ナンバー**	**J小1401**
担当者	小沢　貴雄		
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小)		
施工規則に定める科目区分または事項等	教科に関する専門的事項・国語		
授業形式	講義		
配当年次	2年	**科目群**	専門科目［教員免許］
開講期	後期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	必修：小教免		

授業の概要	小学校国語科で扱われる教材について国語学、国文学などの学問的視点から分析し、グループ討議などを踏まえて、それらの教材がどのような価値を持っているかについて理解することを目指します。また、学年、発達段階も踏まえて、それらの教材を授業化する視点について身に付けることを目指します。			
授業の到達目標	1．小学校国語科の各領域・各事項及び書写の目的・内容の学習価値を理解する2．学習内容にふさわしい国語科の教材開発ができる3．教材の持つ価値について、保・幼・小連携の視点から分析できる			
ディプロマポリシー(DP)	1 教育・保育に必要な専門性　教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力　教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性　教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	—
DPとの関連	◎	○		
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	○ガイダンス ○保育内容「言葉」から小学校国語科へ	小沢
第2回	○学習指導要領の読み方 ○ワークショップ「ICTコンテンツの活用方法」を学ぶ	小沢
第3回	○生成AIの活用方法 ○学習材の価値，扱い方を学ぶ	小沢
第4回	○生成AIと「書くこと」 ○学習指導要領本体と解説について	小沢
第5回	○３領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」）の指導事項と言語活動例について ○学習指導案の在り方，書き方	小沢
第6回	○学習指導案の項目について ○学習指導案の作成	小沢
第7回	○「話すこと・聞くこと」で指導すること，指導の最終目標 ○「話すこと・聞くこと」に関する学習材分析	小沢
第8回	○「書くこと」で指導すること，指導の最終目標 ○「書くこと」に関する学習材分析	小沢
第9回	○「読むこと」で指導すること，指導の最終目標 ○「読むこと」に関する学習材分析	小沢
第10回	○３領域と〔知識及び技能〕の関連について ○模擬授業	小沢
第11回	○漢字の指導と評価について ○韻文の創作 ○模擬授業	小沢
第12回	○創作した韻文を毛筆を使用し，書の作品とする （書写の指導に関して） ○模擬授業	小沢
第13回	○国語の評価全般について ○「主体的に学習に取り組む態度」の評価について ○模擬授業	小沢
第14回	○椋鳩十作品（「大造じいさんとがん」等）について学ぶ ○模擬授業	小沢
第15回	○模擬授業 ○振り返り，まとめ	小沢

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○			○

担当教員の実務経験と授業の関連	中学校，高等学校，特別支援学校で国語科教員として指導していた経験を有し，高等学校までの内容を踏まえ，社会人としてふさわしい国語・言葉の力を身に付けられるよう，指導することができる。		
事前学習	・ことばドリル、お伝と伝じろう、わかる国語 読み書きのツボ(NHK for school)などの国語科教育に関連する番組を視聴する。・小学校で使用されている国語教科書を図書館で借り、どのような教材があるのか読む。	学習合計時間(h)	30
事後学習	・授業内容の振り返りと感想をまとめる	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合(定期試験を含む)、求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	講義終了後及びオフィスアワー等で対応する		
オフィスアワー	水曜日の１～２コマ目（9：10～12：20）　研究室(西館405号室)		

テキスト	・文部科学省『小学校学習指導要領(平成二十九年告示)解説　国語編』東洋館出版社，2018　￥162　(ISBN-10: 4491034621) ・国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語』　東洋館出版社，2020,
参考文献等	『国語教育指導用語辞典(第五版)』　田近洵一・井上尚美・中村和宏編　教育出版　2018　￥4,000　(ISBN-10: 4316804618)『あらゆる教材を「図解」する！小学校国語科教材研究シートの活用』　「ことばの学び」を開く会・香月正登　東洋館出版社　2013　￥1,900　(ISBN-10:
成績評価基準	小学校国語科の各領域・各事項及び書写の目的・内容の学習価値を理解したうえで、学習内容にふさわしい国語科の教材について、保・幼・小連携の視点から分析できる。
成績評価の方法	○模擬授業の内容（指導案含む）(40%) ○レポートなどの課題（小テスト等含む）(40%) ○リフレクションシート等(20%)
ＧＰＡ基準	
備考	単位互換［KRICE］提供科目　※ 授業の内容・順番を一部変更する場合があります。

科目名	社会	**科目ナンバー**	**J小1402**
担当者	松﨑　康弘		
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小)		
施工規則に定める科目区分または事項等	教科に関する専門的事項・社会		
授業形式	講義		
配当年次	2年	**科目群**	専門科目［教員免許］
開講期	後期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	選択：小教免		

授業の概要	社会科指導法で学んだ基礎的な理論等を踏まえ、地域や子どもの実態に応じて社会科の具体的な教材開発ができることを目的とする。「実践研究・教材開発」では様々なテーマと提示し、その実践事例について検討・討論するとともに、自分ならどのような実践を行うか考える。「フィールドワーク」では、県や市町村の産業についての学習で対象となりうる場に赴き、地域と教育の関係を理解する。			
授業の到達目標	1. 様々な教材の有用性を理解している　2. 体験をとおして地域と教育の関係を理解している　3. 授業内容を応用して自分なりの教材を構想できる			
ディプロマポリシー(DP)	1 教育・保育に必要な専門性　教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力　教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性　教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	—
DPとの関連	◎			
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	イントロダクション(本科目の目的の理解)	松﨑
第2回	実践研究・教材開発1(マンガの教材化)	松﨑
第3回	実践研究・教材開発2(恋愛の教材化)	松﨑
第4回	実践研究・教材開発3(CMの教材化)	松﨑
第5回	実践研究・教材開発4(食育と社会科)	松﨑
第6回	実践研究・教材開発5(法教育)	松﨑
第7回	実践研究・教材開発6(地名教育)	松﨑
第8回	実践研究・教材開発7(地域の歴史教材)	松﨑
第9回	調べ学習・見学体験学習の実践研究	松﨑
第10回	フィールドワーク実施（フィールドワーク先＝鹿児島県の地域性理解）	松﨑
第11回	フィールドワーク1(鹿児島県内の農業)	松﨑
第12回	フィールドワーク2(鹿児島県内の水産業)	松﨑
第13回	フィールドワーク3(鹿児島県内の地域学習)	松﨑
第14回	フィールドワークの振り返りと授業構想	松﨑
第15回	総括（社会科の教材開発の在り方について考える）	松﨑

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○	○	○	

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	指導要領解説の該当部分を読んでおくこと。	学習合計時間(h)	30
事後学習	各テーマに応じた教材探しを指示するので、収集すること。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	水曜日・金曜日　12：20～13：10　研究室(西館411号室)		

テキスト	『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説　社会編』　文部科学省　日本文教出版　2018年　142円(税抜き)　(ISBN978-4-536-59009-9)※社会科指導法で購入済み。
参考文献等	『日韓交流授業と社会科教育』　谷川彰英編著　明石書店　2005年ほか
成績評価基準	・様々な教材の有用性を理解できていること。　・授業内容を応用して自分なりの教材を構想し発表できること。
成績評価の方法	最終レポート(50%)　発表(20%)　ミニレポート(30%)
ＧＰＡ基準	
備考	COC科目　フィールドワークは日曜日または祝日を使い、一日かけて行う。5000円程度の費用を要する。

科目名	算数	科目ナンバー	J小1303
担当者	内田　豊海		
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小)		
施工規則に定める科目区分または事項等	教科に関する専門的事項・算数		
授業形式	講義		
配当年次	2年	科目群	専門科目［教員免許］
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2単位	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：小教免		

授業の概要	子どもは生まれながらにして(遺伝的に)数学能力を有しています。この授業では、それがいかに発達し、教育によっていかに伸びるのかを知ることをスタートとします。子どもの内にある能力を、外の世界の出来事と結びつけ、深めることで子どもはどのように数学的能力を身に付けるかを、実際に、主体的にアクティブラーニングを用いた数学的活動やICTの活用を通し体験・学習しながら考察していきます。最終的には、幼児期での学習が、小学校以降、どのように発展するかを見据えながら、子どもの成長に携うことを目指します。			
授業の到達目標	1．算数教育の意義を理解する2．学びの目的に応じ様々な教授法があることを理解し、それをもとに授業を創造する力を育成する			
ディプロマポリシー(DP)	1 教育・保育に必要な専門性　教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力　教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性　教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	—
DPとの関連	◎	○	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	ガイダンス　授業の内容と算数教育の歴史	内田
第2回	算数を学習することの意義	内田
第3回	子どもの発達と算数の関係	内田
第4回	算数科授業を見るための視点の整理	内田
第5回	教材開発のための視点の整理	内田
第6回	数学的活動を経験する	内田
第7回	実習での授業実践を振り返る	内田
第8回	算数教育における反省的実践家	内田
第9回	ICTの活用とSTEAM学習	内田
第10回	算数科における学びの個別・協働化	内田
第11回	算数化におけるプロジェクト学習	内田
第12回	教科横断的視点と生涯教育	内田
第13回	社会的オープンエンドアプローチ	内田
第14回	評価の目的と方法	内田
第15回	算数を勉強することの意義の再検討	内田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○			○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	各時間に対応する学習指導要領を事前に読んでおく	学習合計時間(h)	30
事後学習	授業内容に即した発展的問題を課題として提示する	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	提出された課題の添削および返却		
質問・相談方法	授業後およびオフィスアワーに直接尋ねる		
オフィスアワー	月曜日　13:00~16:00(西館412号室)		

テキスト	特になし
参考文献等	『小学校教師のための算数と数学15講』溝口達也編　ミネルヴァ書房　2019年　(ISBN978-4624084289) 2376円
成績評価基準	学習目標に対して適切に教授法を選択し授業を創造することのできる能力を評価する
成績評価の方法	最終レポート(70%)　　小レポート(30%)
ＧＰＡ基準	
備考	単位互換［KRICE］提供科目

科目名	理科	科目ナンバー	J小1404
担当者	横峯　孝昭		
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小)		
施工規則に定める科目区分または事項等	教科に関する専門的事項・理科		
授業形式	講義		
配当年次	2年	科目群	専門科目［教員免許］
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2単位	担当形態	単独
免許・資格情報	選択：小教免		

授業の概要	小学校学習指導要領に示されている理科の目標を理解し、各学年における目標、それに対応する学習内容について理解を深めることを目的とする。また、理科指導法で深めた知識をもとにここに教材研究を学ぶ。			
授業の到達目標	1. 小学校理科の目標・内容を理解する2. ものづくりを模擬授業を通して考え、実践力を養う			
ディプロマポリシー(DP)	1 教育・保育に必要な専門性　教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力　教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性　教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	—
DPとの関連	◎		○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション	横峯
第2回	小学校理科の全体目標	横峯
第3回	小学校理科の単元	横峯
第4回	学習指導案の作成について(小学校教科書をもとに過去の授業についてお互いに討論しよう)	横峯
第5回	理科教材の考え方　物理編	横峯
第6回	理科教材の考え方　化学編	横峯
第7回	理科教材の考え方　生物編	横峯
第8回	理科教材の考え方　地学編	横峯
第9回	理科教材の考え方　総括	横峯
第10回	ものづくりについて考える(仮説実験授業とは)	横峯
第11回	各々の教材研究について(思案)	横峯
第12回	各々の教材研究について(試行錯誤)	横峯
第13回	各々の教材研究について(提示)	横峯
第14回	各々の教材研究について(評価)	横峯
第15回	総括	横峯

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○			○	○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	理科としての知識は中学校までの一般常識があれば十分である。その点を踏まえて事前に勉強しておくと良い。ものづくりのための教材研究を学年ごとに考える努力をしてもらいたい。	学習合計時間(h)	30
事後学習	講義毎に行う実験の理論について、児童に説明するとしたらというシミュレーションをしてほしい	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合求めに応じて個別に対応する		
質問・相談方法	講義の前後、オフィスアワーで対応する		
オフィスアワー	月曜日　16:30～18:00　研究室(西館401号室)		

テキスト	小学校学習指導要領　文部科学省　平成29年3月　201円 (ISBN978-4-491-03460-7)小学校学習指導要領解説　理科編　文部科学省　平成29年3月　111円　(ISBN978-4-491-03463-8)ものづくりハンドブック1～10「楽しい授業」編集委員会(仮説社)
参考文献等	授業中に適宜資料を配布する
成績評価基準	ものづくりについてしっかりと教材研究ができる
成績評価の方法	講義中に課す課題の達成によって評価する(100%)
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	生活	**科目ナンバー**	**J小1305**
担当者	松﨑　康弘		
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小)		
施工規則に定める科目区分または事項等	教科に関する専門的事項・生活		
授業形式	講義		
配当年次	2年	**科目群**	専門科目［教員免許］
開講期	前期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	必修：小教免		

授業の概要	生活科の「学習材開発」にスポットを当て、グループ討論やフィールドワークも含め体験的に学ぶことを目指す。また、地域や環境を生かした「遊びを通した学び」を実践できることを目指す。			
授業の到達目標	1．生活科を実践できる知識・技能を習得する　2．地域を見つめ、環境を教育に生かそうとする意識をもつ			
ディプロマポリシー(DP)	1 教育・保育に必要な専門性　教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力　教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性　教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	—
DPとの関連	◎			
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	イントロダクション(学習材開発の観点)	松﨑
第2回	「学校と生活」の学習材開発	松﨑
第3回	「家庭と生活」の学習材開発	松﨑
第4回	「地域と生活」の学習材開発	松﨑
第5回	「公共物や公共施設の利用」の学習材開発	松﨑
第6回	「季節の変化と生活」の学習材開発	松﨑
第7回	「自然や物を使った遊び」の学習材開発	松﨑
第8回	「動植物の飼育・栽培」の学習材開発	松﨑
第9回	「生活や出来事の伝え合い」の学習材開発	松﨑
第10回	「自分の成長」の学習材開発	松﨑
第11回	「まち探検」の実践(公園の活用)	松﨑
第12回	自然体験(甲突川を探検し教材化を図る)	松﨑
第13回	探検結果の教材化１(探検すごろくの構想)	松﨑
第14回	探検結果の教材化２(探検すごろくの作成・実践)	松﨑
第15回	総括(生活科の学習材開発の在り方)	松﨑

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○	○	○	

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	学習指導要領解説の該当部分を読んでおく。	学習合計時間(h)	30
事後学習	レポート作成に向けて総復習を行う。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	水曜日・金曜日　12：20～13：10　研究室(西館411号室)		

テキスト	『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説　生活編』　文部科学省　東洋館出版社　2018年　134円(税抜き)（ISBN：978-4-491-03464-5）
参考文献等	『MINERVAはじめて学ぶ教科教育10　初等生活科教育』　片平克弘・唐木清志編著　ミネルヴァ書房　2018年　ほか
成績評価基準	・生活科を実践できる基本的な知識・技能を有している。
成績評価の方法	授業テーマごとに課すミニレポート(100%)
ＧＰＡ基準	
備考	単位互換［KRICE］提供科目

科目名	家庭	科目ナンバー	J小1408
担当者	担当者未定		
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小)		
施工規則に定める科目区分または事項等	教科に関する専門的事項・家庭		
授業形式	講義		
配当年次	2年	科目群	専門科目［教員免許］
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2単位	担当形態	単独
免許・資格情報	選択：小教免		

授業の概要	家庭科の目標・内容を基に科学的な根拠や実践的・体験的な活動を考慮し、多様化する家庭生活に対応できるよう、基礎的内容を中心に学習を進める。主に下記授業計画に示した内容について学習し、生活者としてよりよい家庭生活が送れるように問題や課題を主体的に発見、解決することを目標とする。また、家族の協力により柔軟に楽しく家庭生活を送ることができることを理解し、指導にいかせるよう導く。実習での指導法や注意点について検討するために実際に調理実習を行う。			
授業の到達目標	1. 家庭生活に必要な基礎知識や指導法を習得する2. 家庭生活の変容を認識し、環境に合わせた指導法について考える3. 基本的な調理操作を行うことにより、注意への意識を高めた授業計画を作成できる			
ディプロマポリシー(DP)	1 教育・保育に必要な専門性教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	—
DPとの関連	◎	○		
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	家庭科の目標および内容	未定
第2回	家族・家庭生活について	未定
第3回	家族・家庭生活についての課題・実践	未定
第4回	食事の役割	未定
第5回	調理の基礎　ゆでる・炒める	未定
第6回	調理の基礎　米飯・味噌汁	未定
第7回	調理計画・調理の工夫	未定
第8回	栄養を考えた食事	未定
第9回	作成した献立での調理実習	未定
第10回	実習を行う際の注意点	未定
第11回	衣服の着用と手入れ	未定
第12回	布を用いた小物製作	未定
第13回	快適な住まい方	未定
第14回	消費生活と環境	未定
第15回	総まとめ・補足説明等	未定

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○	○	○	

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	次回の授業範囲についてテキストを読む。日頃から家庭生活を自主的に営み、快適な家庭生活とは何か考える。	学習合計時間(h)	30
事後学習	ワークシートへの記入やレポート提出をすることで、授業の復習を行う。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	提出した課題に対し評価し、可能であれば早めに返却する。		
質問・相談方法	毎時授業時に質問を受け付ける。相談は、オフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	授業の前後講義室		

テキスト	『小学校学習指導要領解説　家庭編』　文部科学省　株式会社東洋館出版社　最新版　90円　(ISBN：978-4-491-02374-8)『わたしたちの家庭科5・6』開隆堂　最新版　(ISBN：978-4-304-08086-9)
参考文献等	適宜プリントを配布
成績評価基準	家庭生活に必要な基礎的知識や指導法を習得し、より快適な家庭生活を送る方法を積極的に考え、的確な指導ができると判断された場合は、合格とする。
成績評価の方法	課題・レポート(90%)、受講態度(10%)により総合的に評価する。
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	体育	**科目ナンバー**	**J小1309**
担当者	萩原　香織		
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小)		
施工規則に定める科目区分または事項等	教科に関する専門的事項・体育		
授業形式	演習		
配当年次	2年	**科目群**	専門科目［教員免許］
開講期	前期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	必修：小教免		

授業の概要	幼児期および児童の発育発達に即した運動の内容について、実技を通じて理解を深める。また、実践力と指導および援助の能力を培う。取り扱う内容は、小学校学習指導要領の体育科の内容として示されている内容を中心とし、主に種々の運動遊びや、体つくり運動、器械運動系、陸上運動系、ボール運動系、表現運動系などから取り扱う。			
授業の到達目標	1. 運動遊びや運動の特性について理解し、積極的に取り組むことができる。2. グループで話し合い、ルールや場の工夫を行うことができる。3. 運動遊びや各種運動の基礎的な技能を身につけることができる。4. 運動遊びや運動の指導法について理解を深めることができる。			
ディプロマポリシー(DP)	1 教育・保育に必要な専門性　教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力　教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性　教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	—
DPとの関連	◎	○		
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	オリエンテーション(体育および運動遊びの意義について)	萩原
第2回	幼児期の運動遊び	萩原
第3回	体つくり運動：体ほぐしの運動	萩原
第4回	体つくり運動：多様な動きをつくる運動	萩原
第5回	陸上運動系	萩原
第6回	表現運動系：表現リズム遊び	萩原
第7回	表現運動系：リズムダンス	萩原
第8回	表現運動系：フォークダンス	萩原
第9回	ボール運動系：ボールゲーム、鬼遊び	萩原
第10回	ボール運動系：ゴール型ゲーム、ネット型ゲーム	萩原
第11回	ボール運動系：ベースボール型ゲーム	萩原
第12回	器械運動系：マット運動1(前転、後転、開脚前転・後転等の基本的な技)	萩原
第13回	器械運動系：マット運動2(技のつなぎ)	萩原
第14回	器械運動系：ICTを用いた振り返り	萩原
第15回	運動遊びや運動の指導法・まとめ	萩原

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○		○	○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	参考文献等をよく読んでおく。	学習合計時間(h)	30
事後学習	講義内容を振り返り、実技試験に向け練習を行う。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	授業時などにおいて適宜対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	木曜日　15:00～16:00　研究室(体育館202号室)		

テキスト	適宜資料を配布する。
参考文献等	『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説　体育編』　文部科学省　東洋館出版社　2018年　162円(税抜き)　(ISBN 978-4491034676)『新版　体育科教育学入門』　高橋健夫他　大修館書店　2016年　2,400円(税抜き)(ISBN 978-4469267013)
成績評価基準	1. 運動遊びや運動の特性について理解し、積極的に取り組むことができる。2. グループで話し合い、ルールや場の工夫を行うことができる。3. 運動遊びや各種運動の基礎的な技能を身につけることができる。4. 運動や運動遊びの指導法について理解を深めることができる。
成績評価の方法	実技試験(50%)、授業内での発表(30%)、受講態度(20%)で評価する。
ＧＰＡ基準	
備考	単位互換［KRICE］提供科目

科目名	外国語	**科目ナンバー**	**J小1310**
担当者	勝久　愛		
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小)		
施工規則に定める科目区分または事項等	教科に関する専門的事項・外国語		
授業形式	演習		
配当年次	2年	**科目群**	専門科目［教員免許］
開講期	前期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	必修：小教免		

授業の概要	小学校における外国語活動・外国語科の指導に必要とされる英語運用能力を、実際の授業場面を想定した活動を通して身に付けることを目的とします。児童やALTとのやり取り、教材の活用、説明や指示といった指導場面で求められる英語の技能を中心に扱い、その背景となる英語学、第二言語習得、異文化コミュニケーションに関する基礎的な理論や知識についても理解を深めます。			
授業の到達目標	1. 小学校における外国語活動・外国語科の授業場面を想定し、児童やALTとのやり取り、発表、教材の提示などに必要な英語の聞く力、話す力（やり取り・発表）、読む力、書く力、仲介する力を身に付けること 2. 小学校外国語教育における指導を支えるために必要な、英語に関する基礎的な知識（音声、語彙、文構造、正書法等）や第二言語習得の基礎理論、教材（絵本、子ども向けの歌や詩等）、異文化理解について理解すること			
ディプロマポリシー（DP）	1 教育・保育に必要な専門性　教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力　教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性　教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	—
DPとの関連	◎	○		
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	オリエンテーション：小学校外国語教育の目標と教師に求められる資質・能力	勝久
第2回	英語の学習経験を振り返る：第二言語習得理論の視点	勝久
第3回	教材としての歌・メディアを「聞く」、観る	勝久
第4回	英語の音声の基礎知識–分節音に焦点化して	勝久
第5回	英語の音声の基礎知識–超分節音に焦点化して	勝久
第6回	教師として発音する、「話す（発表する）」	勝久
第7回	物語を「読む」、「書く」（絵本教材の体験）	勝久
第8回	英語の語彙と文法の基礎知識-意味論と語用論	勝久
第9回	英語の語彙と文法の基礎知識-正書法、形態素、統語論	勝久
第10回	物語を吟味しながら「読む」、「書く」（絵本教材の分析）	勝久
第11回	児童やALTと「話す（やりとりする）」	勝久
第12回	コミュニケーション能力とコミュニケーション方略	勝久
第13回	ALTと児童を「仲介する」、児童の理解を促進する	勝久
第14回	共通語としての英語と異文化コミュニケーション	勝久
第15回	授業の振り返り	勝久

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○	○		○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	授業の内容をより深く理解できるよう、英語運用に関わる基本的な事項(文法、語彙・表現等)について学習をする。	学習合計時間(h)	30
事後学習	授業内容をふりかえり、学んだことを整理する。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	コメントシートに対し、必要に応じて教員からのコメントをつけて返却する。または次回以降の授業の際に口頭でフィードバックを行う。		
質問・相談方法	非常勤講師のため、相談はメールで随時受け付け、必要に応じて対面での対応を行う。		
オフィスアワー	メールにて随時行う。（megumikatsuhisa812[at]gmail.com　※[at]をアットマークに変えて入力してください。）		

テキスト	資料は授業内に随時配布する。
参考文献等	・CLILで習得する 小学校英語指導の基礎／金森 強／2024／ミネルヴァ書房／／9784623097081 ・小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編／文部科学省／2017
成績評価基準	1. 小学校における外国語活動・外国語科の授業場面を想定し、児童やALTとのやり取り、発表、教材の提示などに必要な英語の聞く力、話す力（やり取り・発表）、読む力、書く力、仲介する力を身に付けていること
成績評価の方法	定期試験(50%)　小レポート(20%)　提出物(30%)
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	理科指導法	**科目ナンバー**	**J小1325**
担当者	横峯　孝昭		
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小)		
施工規則に定める科目区分または事項等	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		
授業形式	演習		
配当年次	2年	**科目群**	専門科目［教員免許］
開講期	前期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	必修：小教免		

授業の概要	学習指導要領に示された各学年の目標・内容。指導上の留意点、評価の方法を学ぶ。また、学習指導案の作成及び模擬授業を通して実践力を高められるよう講義する。			
授業の到達目標	1. 小学校理科の教育目標、それぞれの区分における育てるべき資質・能力を理解しすることができる。2. 見通しを持った観察や実験を行う段階で、児童の学習への構造化の一貫性を考慮した授業内容について理解する。3. 模擬授業を通して授業改善の視点について理解する。			
ディプロマポリシー(DP)	1 教育・保育に必要な専門性　教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力　教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性　教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	—
DPとの関連	◎	○		
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	オリエンテーション(小学校理科の全体目標)	横峯
第2回	小学校の各学年の目標(小学校理科教科書を用いて、学習評価を含む)	横峯
第3回	小学校理科の区分(A区分、B区分の取り扱い)	横峯
第4回	学習指導案の作成について	横峯
第5回	小学校理科の基本的な考え方と情報機器を用いた実践例　物理編	横峯
第6回	小学校理科の基本的な考え方と情報機器を用いた実践例　化学編	横峯
第7回	小学校理科の基本的な考え方と情報機器を用いた実践例　生物編	横峯
第8回	小学校理科の基本的な考え方と情報機器を用いた実践例　地学編	横峯
第9回	小学校理科の導入について(提示)	横峯
第10回	小学校理科の導入について(考察)	横峯
第11回	第3学年の内容の模擬授業の実施と討論	横峯
第12回	第4学年の内容の模擬授業の実施と討論	横峯
第13回	第5学年の内容の模擬授業の実施と討論	横峯
第14回	第6学年の内容の模擬授業の実施と討論	横峯
第15回	総括(中学校理科への接続について)	横峯

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○				○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	小学校「理科」の教科書及び学習指導要領に目を通し、内容を振り返ってもらいたい。	学習合計時間(h)	30
事後学習	講義毎に配布する資料に目を通し、内容理解に努めてほしい。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合求めに応じて個別に対応する		
質問・相談方法	講義の前後、オフィスアワーで対応する		
オフィスアワー	月曜日　16:30～18:00　研究室(西館401号室)		

テキスト	『小学校学習指導要領』　文部科学省　平成29年3月　201円 (ISBN：978-4-491-03460-7)　『小学校学習指導要領解説　理科編』　文部科学省　平成29年3月　111円　(ISBN978-4-491-03463-8)
参考文献等	授業中に適宜資料を配布する
成績評価基準	指導案作成を最終的に求める。特に単元計画の立案についてが評価の対象となる。
成績評価の方法	最終レポート課題　小学校理科学習指導案の作成(100%)
ＧＰＡ基準	
備考	単位互換［KRICE］提供科目

科目名	生活科指導法	**科目ナンバー**	**J小1426**
担当者	松﨑　康弘		
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小)		
施工規則に定める科目区分または事項等	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		
授業形式	演習		
配当年次	2年	**科目群**	専門科目［教員免許］
開講期	後期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	必修：小教免		

授業の概要	前半は学習指導要領の読み込みや実践事例の分析を通して、生活科の目標・内容・評価等について理解を深める。後半はグループごとの模擬授業の作成・実施・討論・振り返りを通して、生活科の実践力を高める。			
授業の到達目標	生活科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された生活科の学習内容について理解を深め、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。			
ディプロマポリシー(DP)	1 教育・保育に必要な専門性　教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力　教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性　教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	―
DPとの関連	◎			
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	イントロダクション(本授業の目的説明、学生の生活科教育体験の振り返り。)	松﨑
第2回	「学校、家庭及び地域の生活に関わること」の目標及び内容と指導上の留意点	松﨑
第3回	「身近な人々、社会及び自然と触れ合ったり関わったりすること」の目標及び内容と指導上の留意点(指導要領(4)～(6)の内容)	松﨑
第4回	「身近な人々、社会及び自然と触れ合ったり関わったりすること」の目標及び内容と指導上の留意点(指導要領(7)～(8)の内容)	松﨑
第5回	「自分自身を見つめること」の目標及び内容と指導上の留意点	松﨑
第6回	生活科の学習評価の考え方	松﨑
第7回	背景となる心理学や人文・社会・自然諸科学を踏まえた教材研究の在り方	松﨑
第8回	子どもや学校、地域の実態を視野に入れた授業設計	松﨑
第9回	生活科における情報機器及び教材の効果的な活用	松﨑
第10回	模擬授業テーマに向けた授業設計及び学習指導案の作成	松﨑
第11回	「学校、家庭及び地域の生活に関わること」の模擬授業の実施と振り返り	松﨑
第12回	「身近な人々、社会及び自然と触れ合ったり関わったりすること」の模擬授業の実施と振り返り1(主に指導要領(4)～(6)の内容)	松﨑
第13回	「身近な人々、社会及び自然と触れ合ったり関わったりすること」の模擬授業の実施と振り返り2(主に指導要領(7)・(8)の内容)	松﨑
第14回	「自分自身を見つめること」の模擬授業の実施と振り返り	松﨑
第15回	生活科教育の全体目標を踏まえた総括	松﨑

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○	○		○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	指導要領解説の該当部分を読んでおくこと。	学習合計時間(h)	30
事後学習	定期試験に向けて総復習を行うこと。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	水曜日・金曜日　12：20～13：10　研究室(西館411号室)		

テキスト	『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説　生活編』　文部科学省　東洋館出版社　2018年　134円(税抜き)（ISBN：978-4-491-03464-5)※「生活」で購入済み。
参考文献等	『MINERVAはじめて学ぶ教科教育10　初等生活科教育』　片平克弘・唐木清志編著　ミネルヴァ書房　2018年　ほか
成績評価基準	・生活科の目標や内容を理解している。　・生活科の授業設計及び実践をできる基礎的な能力を有している。
成績評価の方法	定期試験(100%)※定期試験はレポートで代替することがある。
ＧＰＡ基準	
備考	単位互換［KRICE］提供科目

科目名	家庭科指導法	**科目ナンバー**	**J小1429**
担当者	大倉　洋代		
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小)		
施工規則に定める科目区分または事項等	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		
授業形式	演習		
配当年次	2年	**科目群**	専門科目［教員免許］
開講期	後期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	必修：小教免		

授業の概要	家庭科の独自性を踏まえ、総合的性格を持つ「生活」を対象とする教科のため、「課題を解決するために工夫し創造できる能力」と「実践的態度」の育成を重視する。さらに他教科との学習状況を十分把握して、関連付けながら学習を進める。			
授業の到達目標	1．家庭科教育の変遷を辿り、時代による家庭科教育の内容や特徴を理解する。　2．児童の生活をより良くしようとする実践的な態度を育てるための指導力を育成する。　3．生活を科学的にみつめる生活知と科学知を育成する。4．家族や地域社会の人々と共生できる人間像を養う。5．教師としての基本的資質，使命感，教育的情熱を育成する。			
ディプロマポリシー(DP)	1 教育・保育に必要な専門性　教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力　教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性　教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	―
DPとの関連	◎	○	○	○
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	学校家庭科の歴史的変遷(男女共に学ぶ教科としての展開まで)	大倉
第2回	小学校家庭科の特徴(児童の発達段階と関連して)	大倉
第3回	小学校家庭科の学習指導要領	大倉
第4回	小学校家庭科の指導案作成について指導案の書き方	大倉
第5回	小学校家庭科の指導内容1(家庭生活と家族で家族をどのように教えるか)	大倉
第6回	小学校家庭科の指導内容2(身近な消費生活と環境において目指す持続可能な社会とは)	大倉
第7回	小学校家庭科の指導方法(児童の活動を主体とした授業展開及びICTの活用)	大倉
第8回	指導方法(生活に必要な知識と技能の定着について)	大倉
第9回	小学校家庭科の指導案作成教材研究の方法(教材研究のための資料収集)	大倉
第10回	模擬授業1(日常の食事と調理の基礎を事例に)	大倉
第11回	模擬授業2(快適な衣服と住まい作りを事例に)	大倉
第12回	小学校家庭科の評価(真正な教科を行うために、自己評価の活用)	大倉
第13回	授業改善の方法(反省的に実践することについてカリキュラム評価，授業評価の視点から)	大倉
第14回	家庭科をとりまく課題(食育、金銭教育、環境教育との関連など)	大倉
第15回	まとめ・小学校家庭科を教えるために他の教科との関連、体験的な活動の重要性について理解する	大倉

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○		○	○	○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、身近な生活に活用できるようにする。	学習合計時間(h)	30
事後学習	自分と家族などとのかかわりを考えて実践する喜びを味わい、家庭生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	授業と生活の結合、理論と実践の統一、具体性の原理、わかりやすさの原理、知識・能力の定着化の原理など、授業改善の視点として参考にする。		
質問・相談方法	個人指導の実施		
オフィスアワー	金曜日 16:15～18:10 非常勤講師室及び講義室(本館402号室)		

テキスト	『小学校指導要領解説　家庭編』　文部科学省　東洋館出版社　2018年　(ISBN-13: 978-4491034669)『わたしたちの家庭科　小学校5・6』　開隆堂　(ISBN-13: 978-4304080647)
参考文献等	『小学校家庭科の指導』　中間美佐子・多々納道子著　　建帛社　　(ISBN-13：978-4767920986)
成績評価基準	実践的・体験的な学習活動で「知識・理解」、「関心・意欲・態度」、「相違・工夫」等の観点を見取ることにより、学習への関心の高まりや思考の深まりができたと理解し、評価において6割以上の得点を合格とする。
成績評価の方法	定期試験60分(40%)、毎時間の課題レポート(40%)、授業中の討議，発表への参加態度等(20%)による総合評価
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	体育科指導法	**科目ナンバー**	**J小1430**
担当者	萩原　香織		
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小)		
施工規則に定める科目区分または事項等	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		
授業形式	演習		
配当年次	2年	**科目群**	専門科目［教員免許］
開講期	後期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	必修：小教免		

授業の概要	小学校体育授業を行う上での基礎となる理論に裏付けられた実践を通して、体育科の学習指導の在り方について自らの課題を持ち教師としての資質向上を目指す。また、体育科教育の学問的性格及び体育科の目標論、内容論、方法論、評価論などについて理解を深める。			
授業の到達目標	1. 小学校体育科の目標及び内容並びに全体構造を理解することができる。2. 学習指導要領解説体育編に示された運動領域について理解することができる。3. 各運動領域の内容及び機能的特性・構造的特性・効果的特性を理解することができる。4. 体育の授業づくりの視点を明確にし児童の実態に即した単元計画を立案し、指導案の作成ができる。5. 模擬授業を行い自らの実践を省察することができる。			
ディプロマポリシー(DP)	1 教育・保育に必要な専門性　教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力　教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性　教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	—
DPとの関連	◎	○	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	オリエンテーション(授業のねらいと目的の確認)、学校体育の現状	萩原
第2回	体育科教育の歴史的変遷	萩原
第3回	体育科の目標論	萩原
第4回	学習指導要領の内容1(体つくり運動、水泳)	萩原
第5回	学習指導要領の内容2(陸上運動)	萩原
第6回	学習指導要領の内容3(表現運動)	萩原
第7回	学習指導要領の内容4(器械運動)	萩原
第8回	学習指導要領の内容5(ボール運動)	萩原
第9回	単元計画と学習指導案の作成について	萩原
第10回	模擬授業のグループ分けと指導案の制作	萩原
第11回	模擬授業の実践1(体つくり運動・表現運動・器械運動)	萩原
第12回	模擬授業の実践2(器械運動)	萩原
第13回	模擬授業の実践3(陸上運動)	萩原
第14回	模擬授業の実践４(ボール運動)	萩原
第15回	模擬授業の実践と振り返り	萩原

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○		○	○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	模擬授業に向けて各自事前に指導案を作成し、練習を行うこと。	学習合計時間(h)	30
事後学習	講義内容を振り返り、学んだ内容について復習すること。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	課題(授業ごとの小レポート・小テスト等)を課した場合、求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	木曜日　15:00～16:00　研究室(体育館202号室)		

テキスト	『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説　体育編』　文部科学省　東洋館出版社　2018年　162円(税抜き）（ISBN 978-4491034676）
参考文献等	『新版　体育科教育学入門』　髙橋健夫他　大修館書店　2016年　2,400円(税抜き)(ISBN 978-4469267013)
成績評価基準	体育科の目標及び内容を理解し、体育の基礎理論及び体育科独自の教師像を理解することができる。学習指導案の作成、模擬授業の実践を通して指導に関する基礎的能力を身に付ける。
成績評価の方法	定期試験(70%)、模擬授業の実践(30%)で評価する。
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	外国語指導法	**科目ナンバー**	**J小1431**
担当者	勝久　愛		
科目	教科及び教科の指導法に関する科目(小)		
施工規則に定める科目区分または事項等	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		
授業形式	演習		
配当年次	2年	**科目群**	専門科目［教員免許］
開講期	後期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	必修：小教免		

授業の概要	小学校における外国語活動・外国語科の指導に必要な知識と技能について、実際の授業場面を想定した活動を通して理解を深めることを目的とします。授業では、話すこと・聞くこと、読むこと・書くことの指導や教材分析、発問の工夫、学習環境の整備など、指導に直結する具体的な技術を段階的に扱います。あわせて、第二言語習得や指導・学習に関する理論、異文化理解に関する考え方についても、実践との関連の中で整理をします。また、受講者同士で協働的に指導計画を立て、マイクロティーチングや模擬授業、その振り返りを行うことで、授業計画・実践・省察を往還しながら指導力の向上を図ります。授業外では、授業内容の整理や実際の指導への応用について小レポートにまとめ、理解を深めます。			
授業の到達目標	1. 小学校における外国語活動・外国語科の役割や目標、主教材、多様な指導環境および指導法について理解すること 2. 児童とのやりとり、発問の工夫、文字言語の出会わせ方など、授業場面を想定した基本的な指導技術を身に付けること 3. 教材研究、指導案作成、ICTの活用、学習状況の評価に関する知識を活用し、マイクロティーチングや模擬授業とその振り返りを通して、外国語指導に必要な実践的な指導力を身に付けること			
ディプロマポリシー(DP)	1 教育・保育に必要な専門性　教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力　教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性　教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	―
DPとの関連	◎	○		
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	オリエンテーション：模擬授業体験と小学校外国語教育の目標	勝久
第2回	話すこと・聞くことの指導と音声指導	勝久
第3回	読むこと・書くことの指導と文字指導	勝久
第4回	題材選定と指導案作成（動機づけ・CLIL）	勝久
第5回	教材分析と発問の設計	勝久
第6回	学習環境の整備（ICT活用・ユニバーサルデザイン・協同学習）	勝久
第7回	学習環境の整備（ティーム・ティーチング・小中連携）	勝久
第8回	指導・学習に関する理論（第二言語習得・PPP・TBLT）	勝久
第9回	TBLTとマイクロティーチング	勝久
第10回	外国語活動・外国語科の授業分析（動画視聴）	勝久
第11回	外国語活動・外国語科における目標と評価	勝久
第12回	異文化コミュニケーション能力と異文化理解教育	勝久
第13回	外国語活動・外国語科の模擬授業（前半）	勝久
第14回	外国語活動・外国語科の模擬授業（後半）	勝久
第15回	最終課題作成と振り返り	勝久

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○	○		○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	授業の中でより質の高い実践を行えるよう、英語運用に関わる基本的な事項(文法、語彙・表現等)や英語教育の理論について学習をする。	学習合計時間(h)	30
事後学習	授業内容をふりかえり、学んだことを整理する。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	コメントシートに対し、必要に応じて教員からのコメントをつけて返却する。または次回以降の授業の際に口頭でフィードバックを行う。		
質問・相談方法	非常勤講師のため、相談はメールで随時受け付け、必要に応じて対面での対応を行う。		
オフィスアワー	メールにて随時行う。（megumikatsuhisa812[at]gmail.com　※[at]をアットマークに変えて入力してください。）		

テキスト	資料は授業内に随時配布する。
参考文献等	・小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編／文部科学省／2017 ・小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック／文部科学省
成績評価基準	1. 小学校における外国語活動・外国語科の役割や目標、主教材、多様な指導環境および指導法について理解していること 2. 児童とのやりとり、発問の工夫、文字言語の出合わせ方など、授業場面を想定した基本的な指導技術を身に付けていること
成績評価の方法	各授業の振り返り（10回分）20% 模擬授業の指導案とパフォーマンス30% 最終課題50%
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	幼児と健康	**科目ナンバー**	**J共1411**
担当者	宇都　弘美		
科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施工規則に定める科目区分または事項等	領域に関する専門的事項・健康		
授業形式	演習		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	**科目群**	専門科目［教員免許］
開講期	後期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	1単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	必修：幼教免、保育士証		

授業の概要	保育所保育指針及び幼稚園教育要領に示す5領域「健康」の位置づけをもとに、遊びを通した学習の重要性を理解する。また子どもの健康に関する現代的課題が、身体、心、運動など広範囲にわたることを理解し、健康教育のあり方について学ぶ。			
授業の到達目標	1. 子どもの健康問題に関する現代的課題について学習し、教育現場の実情を理解する　2. 乳幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達など幼児の基本的な理解ができるようになる　3. 子どもの健康に関するさまざまな知識を身につけ、子どもとの積極的関わりができるようになる			
ディプロマポリシー(DP)	1 教育・保育に必要な専門性　教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力　教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性　教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	—
DPとの関連	◎	○		
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	領域「健康」の位置づけ　幼稚園教育要領・保育所保育指針における「健康」の内容	宇都
第2回	子どもの健康問題に関する現代的課題(主として体の発達、生活習慣を中心に)	宇都
第3回	子どもの健康問題に関する現代的課題(主として運動発達と基礎的運動能力を中心に)	萩原
第4回	子どもの遊びの発展にみる心や社会性の発達(映像資料などを利用する)	萩原
第5回	遊びの分類とその特徴(学生自身の幼児期における遊びの振り返り)	萩原
第6回	生活活動における安全の理解(感染症と衛生管理)	宇都
第7回	生活活動における安全の理解(園内生活や活動における安全管理)	宇都
第8回	学習指導案にみる「健康」教育の在り方について	萩原
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○			○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	保護者や祖父母などへの聞き取りなど、必要に応じて指示する2〜3回おきに小レポートを課す場合がある	学習合計時間(h)	15
事後学習	子どもの健康のとらえ方や遊びの特性をとらえることができるようにする	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、必要に応じて個別に対応する		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する		
オフィスアワー	水曜日〜金曜日　　12:20〜13:10 研究室(体育館)		

テキスト	『子どもの姿からはじめる領域・健康』　秋田喜代美他　みらい　2021　2530円　(ISBN10： 9784860155285)
参考文献等	『「幼稚園教育要領ハンドブック』　無藤隆監修　Gakken　2017　1,600　(ISBN：978-4-05-800810-2)『保育所保育指針ハンドブック』　汐見稔幸監修　Gakken　2017　1,700　(ISBN：978-4-05-800806-6)『幼保連携型認定こども園教育・保育要領ハンドブック』　無藤隆監修　Gakken
成績評価基準	子どもの健康問題に関する現代的課題及び教育現場の実情を理解する　乳幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達など理解する
成績評価の方法	定期試験(70%)、　授業での小テスト(30%)
ＧＰＡ基準	
備考	単位互換［KRICE］提供科目

科目名	幼児と人間関係	**科目ナンバー**	**J共1312**
担当者	今村　幸子		
科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施工規則に定める科目区分または事項等	領域に関する専門的事項・人間関係		
授業形式	演習		
配当年次	2年	**科目群**	専門科目［教員免許］
開講期	前期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	1単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	必修：幼教免、保育士証		

授業の概要	1．乳幼児をとりまく現代的問題とその背景を説明する。2．人間関係の発達および社会性の発達について心理学的な理論を説明する。			
授業の到達目標	1．乳幼児期の重要性を理解するとともに、現代の乳幼児の人間関係に関わる諸問題を理解し、それに対する幼稚園・保育所・認定こども園の役割について説明できる2．乳幼児期の人間関係形成における保育士の役割と技術について説明できる3．自己の発達とともに、社会性の発達を促す仲間関係の影響について説明できる4．家族や地域との関わりにおける人間関係の発達とその意味を説明できるなお授業では、課題の達成のために、討議、グループワーク、発表などの活動を取り入れ、情報機器による情報検索や保育での活用方法を学ぶ			
ディプロマポリシー（DP）	1 教育・保育に必要な専門性　教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力　教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性　教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	—
DPとの関連	◎		○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	人とのかかわりから見る乳幼児期の発達について理解する	檜林
第2回	領域「人間関係」のねらいと内容について理解する	檜林
第3回	乳児期の子どもを取り巻く人間関係について理解する	檜林
第4回	1歳から3歳未満の子どもに関する人間関係について理解する	檜林
第5回	3歳以上児の人間関係形成の過程について理解する	檜林
第6回	幼児期における社会性・道徳性の育ちについて就学後の育ちとの関係を踏まえて理解する	今村
第7回	家庭や地域との連携について理解する	檜林
第8回	人間関係形成を支える保育者の役割について理解する	檜林
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
		○			○

担当教員の実務経験と授業の関連	認定こども園での実務経験を活かし、幼児期特有の人間関係の発達等について教授する		
事前学習	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと日頃から、ネットや文献等で子どもに関する情報を得ておくこと	学習合計時間(h)	15
事後学習	テキストや授業時に配布したプリントを復習しておくこと	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	課題を出した場合、求めに応じて対応する		
質問・相談方法	授業前後やオフィスアワー等で対応する		
オフィスアワー	楢林：金曜日　14：40～17:55　研究室(西館403号室) 今村：木曜日12：20～13：10　研究室(西館311号室)		

テキスト	『ワークで学ぶ保育内容「人間関係」』　菊池篤子　みらい　2018年　2､200円(税抜き)　(ISBN：978-4-86015-466-0)『幼稚園教育要領解説』　文部科学省　フレーベル館　2018年　240円(税抜き)　(ISBN：978-4577814475)『保育所保育指針解説』　厚生労働省　フレーベル館　2018年
参考文献等	特になし
成績評価基準	幼児期の大人との関係性や中間関係の重要性を理解すること自己の発達とともに社会性の発達を促す仲間関係の影響や家族や地域との関わりにおける人間関係の発達を理解しているか
成績評価の方法	定期試験(80%)、ミニレポート提出及び授業参加態度(20%)、 状況によりレポートによる代替の可能性がある
ＧＰＡ基準	
備考	単位互換［KRICE］提供科目

科目名	幼児と環境	科目ナンバー	J共1313
担当者	松﨑　康弘		
科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施工規則に定める科目区分または事項等	領域に関する専門的事項・環境		
授業形式	演習		
配当年次	2年	科目群	専門科目［教員免許］
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1単位	担当形態	複数
免許・資格情報	必修：幼教免、保育士証		

授業の概要	主に保育内容(環境)の理論を行うことができるように実践力を高める。とくに動画を見ながら自ら幼児の環境について考えることができるようにする。			
授業の到達目標	保育内容(環境)の指導法において一般的な幼児の育ちの姿、保育者の果たすべき役目について学んだことを踏まえて、幼児期の環境として保育者が考えなければならないことを想定し実践できるようになる。また、保育者として現代の幼児を取り巻く環境について問題点を説明することができる。			
ディプロマポリシー(DP)	1 教育・保育に必要な専門性　教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力　教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性　教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	—
DPとの関連	◎		○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション(保育内容(環境)で学んだこと))	横峯
第2回	現代社会の中における幼児の環境とその課題について討議する（園外保育についての講義）	横峯
第3回	園外保育の計画立案	横峯
第4回	園外保育の実施	横峯
第5回	園外保育の反省（散歩マップの作成を中心に）	横峯
第6回	保育のための環境研究①（乳幼児と標識・文字等との関わりを踏まえて）	松崎
第7回	保育のための環境研究②（乳幼児と情報・施設との関わりを踏まえて）	松崎
第8回	現代社会の中における幼児の環境とその課題について考察する	横峯
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○				

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	講義を参考に関連する絵本を図書館などで探して読むこと。	学習合計時間(h)	15
事後学習	講義を踏まえて教材研究等を行ってもらいたい	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合求めに応じて個別に対応する		
質問・相談方法	講義の前後、オフィスアワーで対応する		
オフィスアワー	月曜日　16:30～18:00　研究室(西館401号室)		

テキスト	幼稚園教育要領　フレーベル社　2017/05 161円　(ISBN：978-4577814222)　保育所保育指針　フレーベル社　2017/05　161円　(ISBN：978-4577814239)　幼保連携型認定こども園教育・保育要領　フレーベル社　161円　2017年　(ISBN：978-4577814246)知のゆりかご 子どもの姿
参考文献等	授業中に適宜資料を配布する
成績評価基準	レポート課題の内容が講義内容に則したものになっているか
成績評価の方法	毎回授業後に実施するレポート課題(100%)
ＧＰＡ基準	
備考	単位互換［KRICE］提供科目

科目名	幼児と言葉	**科目ナンバー**	**J共1314**
担当者	小沢　貴雄		
科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施工規則に定める科目区分または事項等	領域に関する専門的事項・言葉		
授業形式	演習		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	**科目群**	専門科目［教員免許］
開講期	前期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	1単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	必修：幼教免、保育士証		

授業の概要	話し言葉や書き言葉などの言葉の意義と機能について乳幼児の言葉の発達過程について学ぶ。また、幼児にとっての児童文化財についての基礎的な知識を身につけその意義を学ぶとともに、言葉に対する感覚を豊かにする実践における幼児の発達の姿についての見方を養う。			
授業の到達目標	領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身につけ、想像する楽しさを広げるために必要とされる、乳幼児の言葉の発達過程を踏まえた言葉の意義や機能、児童文化財の意義、言語感覚を豊かにする実践に関する知識を身につける。			
ディプロマポリシー（DP）	1 教育・保育に必要な専門性　教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力　教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性　教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	—
DPとの関連	◎			
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	○ガイダンス ○児童文化財【おはなし】について	小沢
第2回	○児童文化財【言葉遊び】について ○保育指導案作成に向けて『幼稚園教育要領』に触れる	小沢
第3回	○『幼稚園教育要領』における領域「言葉」について ○保育指導案作成の際の留意点	小沢
第4回	○児童文化財【絵本とは何か】について ○保育指導案の言葉の使い方について	小沢
第5回	○児童文化財【絵本と子ども】について ○保育指導案の『幼稚園教育要領』における位置付けについて	小沢
第6回	○児童文化財【紙芝居】 ○学級通信作成に向けたICT機器の使用について	小沢
第7回	○児童文化財【言葉遊び】の実践① ○学級通信作成の際の留意点	小沢
第8回	○児童文化財【言葉遊び】の実践② ○学級通信作成の際の観点等	小沢
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
		○	○		○

担当教員の実務経験と授業の関連	中学校，高等学校，特別支援学校で国語科教員として指導していた経験を有し，高等学校までの内容を踏まえ，社会人としてふさわしい国語・言葉の力を身に付けられるよう，指導することができる。		
事前学習	・テレビ絵本(Ｅテレ(教育)月～金曜日　午前 8時50分～8時55分)の番組を視聴する。あるいは、放送リストにある絵本を参考に週に1冊以上を読む。・テキストの指定した範囲を解いておく	学習合計時間(h)	15
事後学習	・日常生活の中で見聞きする言葉の中から面白い使われ方や気になる言葉の用い方をするもの探し、収集する。	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合(定期試験を含む)、求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	講義終了後及びオフィスアワー等で対応する		
オフィスアワー	火曜日～金曜日の２コマ目（10：50～12：20）　研究室(西館405号室)		

テキスト	・『保育学生のための「幼児と言葉」「言葉指導法」』　馬見塚昭久編　2022　ミネルヴァ書房　2400円　9784623092512 ・『幼稚園教育要領』 文部科学省 フレーベル館 ￥240 (ISBN-10: 4577814471)
参考文献等	『ちいさい言語学者の冒険 子どもに学ぶことばの秘密』　広瀬友紀　岩波書店　2017　￥1,200　(ISBN-10: 4000296590)『絵本のひみつ』　余郷裕次　徳島新聞社　2010　￥1,000　(ISBN-10: 4861324319)『保育所保育指針』　厚生労働省　フレーベル館　2018　￥320　(ISBN-10:
成績評価基準	乳幼児の言葉の発達過程を踏まえた言葉の意義や機能、児童文化財の意義、言語感覚を豊かにする実践に関する知識を身につけること。
成績評価の方法	○課題（学習指導案，学級通信等）（60%） ○授業内課題（発表等）（20%） ○リフレクションシート等(20%)
ＧＰＡ基準	
備考	単位互換［KRICE］提供科目　※ 授業の内容・順番を一部変更する場合があります。

科目名	保育内容総論	科目ナンバー	J共1421
担当者	楢林　衿子		
科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施工規則に定める科目区分または事項等	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)		
授業形式	演習		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	科目群	専門科目［教員免許］
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2単位	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：幼教免、保育士証		

授業の概要	保育所保育指針、幼稚園教育要領、認定こども園教育・保育要領を概説し、子どもの発達を理解することの意義を明らかにする。近年の教育・保育実践の動向を踏まえた上で、各領域の特性や領域が一体となった保育実践の方法について明らかにする。また、情報機器等を用いた保育実践を示し、保育指導計画案の作成、実践、評価、改善について講義する。これらの学習を通して、教育・保育実践の向上に努めることができるようにする。			
授業の到達目標	1.子どもの発達の特性を保育内容の観点から捉え、保育実践の動向を踏まえた指導法を構築できる2.実践的な活動を通して、教育・保育指導計画の構造や実践後の評価、改善について探求できる3.情報機器及び教材を活用した教育・保育の実践を工夫することができる			
ディプロマポリシー(DP)	1 教育・保育に必要な専門性　教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力　教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性　教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	—
DPとの関連	◎	○	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	保育施設の目的及び保育の基本的な考え方について学ぶ	楢林
第2回	指針と要領をもとに、資質能力及び保育のねらいと内容を整理する	楢林
第3回	乳児保育、1，2歳児の保育、3，4，5歳児の保育の内容について整理する	楢林
第4回	教育課程及び全体的な計画の役割について学習する	楢林
第5回	保育施設におけるカリキュラム・マネジメント及び小学校への接続を理解し､保育の質の向上を捉える	楢林
第6回	特別な配慮を必要とする乳幼児の就学への接続を踏まえ、一人ひとりに応じた対応を学ぶ	楢林
第7回	保育の健康及び安全について理解する	楢林
第8回	長期指導計画及び短期指導計画について学習する	楢林
第9回	教育・保育実習の概要をまとめ、実習記録と観察記録について学習する	楢林
第10回	各領域の実践の動向をグループごとに調べて発表し､情報機器及び教材を活用した実践を学び､保育指導案作成に活かす	楢林
第11回	情報機器及び教材を活用した実践をまとめ､保育計画(指導案)の記載事項とねらいの書き方を学ぶ	楢林
第12回	保育計画(指導案)の中心的活動及び日課と保育者の援助、環境構成の書き方を学ぶ	楢林
第13回	情報機器及び教材を活用し、保育計画(指導案)を立案に取り組む	楢林
第14回	保育計画に基づき模擬保育をし実施し、主体的・対話的な深い学びを実現する	楢林
第15回	模擬保育での学びの共有を意識しながら自己評価及び改善しまとめ、グループディスカッションを行う。	楢林

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○		○		○

担当教員の実務経験と授業の関連	保育とは何か、保育実践はどのように行うのかについて明らかにし、保育の方法の工夫について教授する。		
事前学習	参考資料等を熟読する配布資料を整理する	学習合計時間(h)	30
事後学習	毎授業後にはレポートを提出すること	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	授業内で課題の要点に触れる。個別に指導添削をする。		
質問・相談方法	授業前後の時間及びオフィスアワーに質問・相談に応じる		
オフィスアワー	金曜日　14：40～17:55　研究室(西館403号室)		

テキスト	『幼稚園教育要領解説』(平成29年3月告示　文部科学省)『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(平成29年3月告示　文部科学省、内閣府､厚生労働省)『保育所保育指針』(平成29年3月公示　厚生労働省)
参考文献等	鹿児島女子短期大学児童教育学科教育実習の手引実習指導案・実習日誌・附属幼稚園教育課程・配布資料
成績評価基準	教育・保育の指導法、指導計画立案を理解し、教育・保育の実践を工夫する。
成績評価の方法	レポート等の提出課題の達成(80%)、授業中の討議・発表への参加(20%)による総合評価とする
ＧＰＡ基準	
備考	単位互換［KRICE］提供科目　　資料の共有やレポートの提出はGoogle Clasroomを使用する。

科目名	保育内容（健康）の指導法	科目ナンバー	J共1316
担当者	宇都　弘美		
科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施工規則に定める科目区分または事項等	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)		
授業形式	演習		
配当年次	2年	科目群	専門科目［教員免許］
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2単位	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：幼教免、保育士証		

授業の概要	領域「健康」での学びや、幼稚園教育要領に示す5領域「健康」の位置づけについて再確認し、子どもの発育や、運動、遊びを通しての学習の重要性を理解する。その際、これまで実施してきた教育実習での学びとともに、学生間のグループ学習や情報交換を通して、より実践的な保育指導のあり方を学ぶ。			
授業の到達目標	幼稚園教育要領に示された健康領域のねらい及び内容について理解を深めることで、乳幼児教育において育みたい資質・能力を理解し、乳幼児の発達について、主体的学びができるようにするとともに、具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付けられるようにする。			
ディプロマポリシー(DP)	1 教育・保育に必要な専門性　教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力　教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性　教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	—
DPとの関連	◎	○		
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	領域「健康」のねらいの確認と保育内容「健康」の内容	宇都
第2回	子どもの健康問題に関する課題(体の発達、生活習慣の気づき)	宇都
第3回	子どもの健康問題に関する課題(運動発達と基礎的運動能力の気づき)	宇都
第4回	生活習慣の獲得に向けて	宇都
第5回	子どもの運動能力の発達と小学校体育との関連性	萩原
第6回	運動の発達と幼児期運動指針	萩原
第7回	指導計画と評価	萩原
第8回	指導計画と評価・ICT活用について	萩原
第9回	模擬保育グループわけと指導案作成	萩原
第10回	小型遊具を中心としたグループ学習(模擬保育と振り返り)	萩原
第11回	大型遊具を中心としたグループ学習(模擬保育と振り返り)	萩原
第12回	素材遊びを中心としたグループ学習(模擬保育と振り返り)	萩原
第13回	伝承遊びを中心としたグループ学習(模擬保育と振り返り)	萩原
第14回	安全対策(リスクとハザードについて)	宇都
第15回	保育指導案にみる「健康」教育のまとめ	宇都

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○	○		○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	これまでの実習のふり返りから健康領域について整理する	学習合計時間(h)	30
事後学習	健康のとらえ方や、グループ学習から保育の構想を考えられるようにする	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	必要に応じて個別に対応する		
質問・相談方法	授業の前後、オフィスアワーで対応する		
オフィスアワー	水曜日～金曜日　　12:20～13:10 研究室(体育館101号室)		

テキスト	『子どもの姿からはじめる領域・健康』　秋田喜代美他　みらい　2021　2530円　(ISBN10： 9784860155285)
参考文献等	幼稚園教育要領解説(平成29年3月　文部科学省)保育所保育指針ハンドブック(汐見稔幸監修、Gakken)幼保連携型認定こども園教育・ほいく要領ハンドブック(無藤隆監修、Gakken)
成績評価基準	子どもの健康問題に関する現代的課題及び教育現場の実情を踏まえ、発展的思考ができるようにする
成績評価の方法	定期試験(60%)ただし、レポートで代替する場合がある、授業中のディスカッション内容(40%)
ＧＰＡ基準	
備考	単位互換［KRICE］提供科目

科目名	保育内容（人間関係）の指導法	**科目ナンバー**	**J共1417**
担当者	今村　幸子		
科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施工規則に定める科目区分または事項等	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)		
授業形式	演習		
配当年次	2年	**科目群**	専門科目［教員免許］
開講期	後期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	必修：幼教免、保育士証		

授業の概要	1．領域「人間関係」のねらいと内容を理解し、各内容を乳幼児が身に付けるための、指導・援助について説明する。2．領域「人間関係」のねらいと内容と、育みたい資質能力と幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を説明する。3．子どもの発達段階に沿った指導をするための具体的な保育を想定した、観察記録や指導案の作成の仕方を講義する。			
授業の到達目標	1．領域「人間関係」のねらい及び内容を説明できる2．幼児の発達に即して、領域「人間関係」の内容の取扱いに基づき、具体的な場面を想定した保育を行う力を身に付ける3．育みたい資質能力について理解し、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を考慮した保育を説明できる			
ディプロマポリシー（DP）	1 教育・保育に必要な専門性　教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力　教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性　教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	—
DPとの関連	◎	○		
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	育みたい資質能力及び幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と「人間関係」を関係づけて理解する	今村
第2回	領域「人間関係」のねらいと内容とについて全体構造を理解する	今村
第3回	課題に向かう力の基礎としての人と関わる力の形成について理解する	今村
第4回	友達とかかわりを深め、共感性の発達や他者理解を促す指導やその留意点を理解する	今村
第5回	いざこざや葛藤の指導と協働的遊びを促す指導とその留意点を理解する	今村
第6回	道徳性・規範意識の発達を促す指導やその留意点を理解する	今村
第7回	個別の配慮を要する子どもの人間関係形成に関する指導法や留意点を理解する	今村
第8回	小学校との接続を進めるための保育案が作成できる	今村
第9回	地域住民と園をつなげる保育者の役割について理解する	今村
第10回	保育士同士の人間関係形成及び保護者との信頼関係形成の重要性について理解する	今村
第11回	領域「人間関係」に関わる指導案の構造を理解し、作成することができる	今村
第12回	事例検討や模擬保育などを通して、保育の方法や課題、改善の方法を身に付ける	今村
第13回	保育実践の資料を読み、現代的な問題とその動向と研究について、自分の保育に生かすことができる	今村
第14回	保育現場における情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる	今村
第15回	「人間関係」に関する保育の評価の考え方を理解する	今村

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○	○		○

担当教員の実務経験と授業の関連	認定こども園の実務経験を活かし、幼児期特有の人間関係の発達等について教授する。		
事前学習	事前にテキストの該当箇所を読んでおくこと日頃から、ネットや文献等で子どもに関する情報を得ておくこと	学習合計時間(h)	30
事後学習	テキストや授業時に配布したプリントを復習しておくこと	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	課題を出した場合、求めに応じて対応する		
質問・相談方法	授業前後やオフィスアワー等で対応する		
オフィスアワー	今村：木曜日　12：20～13：10　研究室(西館311号室)		

テキスト	『ワークで学ぶ保育内容「人間関係」』　菊池篤子　みらい　2018年　2､200円(税抜き)（ISBN：978-4-86015-466-0)『幼稚園教育要領解説』　文部科学省　フレーベル館　2018年　240円(税抜き)（ISBN：978-4577814475)『保育所保育指針解説』　厚生労働省　フレーベル館　2018年
参考文献等	特になし
成績評価基準	領域「人間関係」のねらい及び内容を理解すること幼児の発達に即して、具体的な保育の在り方について理解すること育みたい資質能力について理解し、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を考慮した保育を理解すること
成績評価の方法	定期試験(80%)、ミニレポート提出及び授業参加態度(20%)、 状況によりレポートによる代替の可能性がある
ＧＰＡ基準	
備考	単位互換［KRICE］提供科目

科目名	教育課程・保育計画の意義と編成・評価	**科目ナンバー**	**J共3307**
担当者	楢林　衿子		
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施工規則に定める科目区分または事項等	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		
授業形式	講義		
配当年次	2年	**科目群**	専門科目［教員免許］
開講期	前期	**卒業の選択・必修**	必修
単位数	2単位	**担当形態**	複数
免許・資格情報	必修：小教免、幼教免、保育士証		

授業の概要	教育課程と保育の全体的な計画の目的及び社会的背景を踏まえた変遷を捉え、編成の基本的な考え方について講義する。教科や領域を超えた学校全体の教育課程と保育計画の重要性を理解し、カリキュラム評価の基本的な考え方を習得する。			
授業の到達目標	1、教育課程と保育計画、各指導計画の意義、種類、構成など基本的な知識を習得する。2. 乳幼児期から児童期に関する長期短期的な指導計画を立案する力を養う。3、カリキュラム・マネジメントの意義と重要性を理解する。			
ディプロマポリシー(DP)	1 教育・保育に必要な専門性　教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力　教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性　教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	—
DPとの関連	○	○	◎	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	カリキュラムの基礎理論	楢林
第2回	教育課程と保育の全体的な計画の意義	楢林
第3回	学習指導要領､幼稚園教育要領､保育所保育指針の改訂の変遷と教育・保育の社会背景や思想	楢林
第4回	学習指導要領にみる学校教育における計画の必要性	楢林
第5回	幼稚園教育要領にみる幼稚園教育における計画の必要性	楢林
第6回	保育所保育指針にみる保育所保育における計画の必要性	楢林
第7回	サンプル分析を通した教育課程の編成	楢林
第8回	サンプル分析を通した保育の全体的な計画	楢林
第9回	教育・保育における教育課程・保育の全体的な計画の評価と改善	楢林
第10回	長期・短期的な教育・保育計画の作成	楢林
第11回	特別な配慮を必要とする乳幼児・児童についての支援計画	楢林
第12回	教育課程をもとにICTを活用した教育の計画の作成についてグループごとにディスカッションをし、プレゼンテーションを行う	楢林
第13回	保育の全体的な計画をもとにICTを活用した保育の計画について作成と検討	楢林
第14回	学校教育及び幼稚園教育における教育課程のカリキュラム・マネジメントの意義と重要性	楢林
第15回	学校教育課程及び保育の全体的な計画のカリキュラム・マネジメントをすることの意義	楢林

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○		○		○

担当教員の実務経験と授業の関連	教育課程と全体的な保育計画、各種指導計画について具体例を示し、カリキュラム・マネジメントの実際を教授する。		
事前学習	・配布プリントは、資料として整理し学習内容を予習する　・各保育施設の実習における保育記録及び指導計画案について　課題点をまとめる	学習合計時間(h)	30
事後学習	授業後はまとめシートを提出する	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	授業内で要点を解説する。指導計画立案及び保育記録の作成は、個別に添削指導をする。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等を活用して対応する		
オフィスアワー	金曜日　14：40～17:55　研究室(西館403号室)		

テキスト	小学校学習指導要領(平成29年3月　文部科学省)、保育所保育指針(平成29年3月公示　厚生労働省)、幼稚園教育要領(平成29年3月告示　文部科学省)､幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示　文部科学省、内閣府､厚生労働省)､・『新基本保育シリーズ　教育・保育カリキュ
参考文献等	『保育実習の手引き』鹿児島女子短期大学児童教育学科(編)『教育実習の手引き』鹿児島女子短期大学児童教育学科(編)
成績評価基準	教育課程と保育計画、各指導計画の基本的な知識を習得し、カリキュラム・マネジメントを踏まえた教育・保育の計画を立案できる。
成績評価の方法	レポート等の提出課題の達成(80%)、授業中の討議・発表への参加(20%)による総合評価とする
ＧＰＡ基準	
備考	単位互換［KRICE］提供科目

科目名	道徳教育の指導法	**科目ナンバー**	**J小1432**
担当者	村若　修		
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施工規則に定める科目区分または事項等	道徳の理論及び指導法		
授業形式	演習		
配当年次	2年	**科目群**	専門科目［教員免許］
開講期	後期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	必修：小教免		

授業の概要	前半では、学習指導要領の理解と学習指導案の作成、模擬授業の実施を通じて、道徳教育の実践力を養う。後半では、日本の道徳教育の歴史や課題、道徳性発達の理論、道徳理論（倫理学）を学び、道徳性と道徳教育の本質について考え、認識を深める。｜			
授業の到達目標	1．「道徳とは何か」について説明することができる。　｜2．道徳教育および道徳科の目標と内容を理解している。　｜3．道徳科の授業を構想することができる。			
ディプロマポリシー（DP）	1 教育・保育に必要な専門性　教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力　教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性　教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	—
DPとの関連	◎	○	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	「特別の教科　道徳」の目標及び内容｜	村若
第2回	学校の教育活動全体を通じた道徳教育とその指導計画｜	村若
第3回	道徳科の指導方法と教材の多様性（情報機器の活用を含む）｜	村若
第4回	道徳科の学習指導案作成・道徳科の評価｜	村若
第5回	模擬授業と振り返り（主として自分自身に関すること）｜	村若
第6回	模擬授業と振り返り（主として人との関わりに関すること）｜	村若
第7回	模擬授業と振り返り（主として集団や社会との関わりに関すること）｜	村若
第8回	模擬授業と振り返り（主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること）｜	村若
第9回	小学校教育実習の振り返り（実習校での道徳教育の取り組みについて）｜	村若
第10回	日本の道徳教育の歴史｜	村若
第11回	現代の道徳教育の課題（いじめや情報モラルを中心に）｜	村若
第12回	子どもの道徳性の発達｜	村若
第13回	倫理学と道徳教育（カント倫理学と功利主義を中心に）｜	村若
第14回	倫理学と道徳教育（徳倫理学とケア倫理学を中心に）｜	村若
第15回	「道徳教育」の本質再考｜	村若

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○	○		○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	模擬授業の学修指導案作成・教材準備|	学習合計時間(h)	30
事後学習	模擬授業観察記録の完成	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	ミニッツペーパーや課題については、提出した次の授業で要点に触れ、フィードバックする。個別にコメントすることもある。		
質問・相談方法	次のいずれかの方法による。（1）授業時のミニッツペーパーに質問事項を記入する。（2）授業後に質問をする。（3）オフィスアワーを利用する。		
オフィスアワー	月曜日15:00～17:00 研究室（西館410号室）		

テキスト	小学校学習指導要領解説　特別の教科道徳編　（平成29年6月　文部科学省）|
参考文献等	授業中に適宜資料を配布する|
成績評価基準	道徳教育を実践できる基本的な知識・技能を有している。
成績評価の方法	模擬授業の指導案・授業実践+授業観察記録シート（50%）、期末レポート+ミニッツペーパー（50%）|
ＧＰＡ基準	
備考	単位互換［KRICE］提供科目

科目名	総合的な学習の時間の指導法	科目ナンバー	J小1433
担当者	松﨑　康弘		
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施工規則に定める科目区分または事項等	総合的な学習の時間の指導法		
授業形式	演習		
配当年次	2年	科目群	専門科目［教員免許］
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2単位	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：小教免		

授業の概要	前半は学習指導要領の読み込みや実践事例の分析を通して、総合的な学習の時間の目標・内容・評価等について理解を深める。後半は指導計画の作成・討論・振り返りをとおして、総合的な学習の時間の単元を構成する力を高める。			
授業の到達目標	総合的な学習の時間において、各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成及び具体的な指導の仕方並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。			
ディプロマポリシー(DP)	1 教育・保育に必要な専門性　教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力　教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性　教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	—
DPとの関連	◎			
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	イントロダクション(本授業の目的についての説明、小学校等の実践の振り返り)	松﨑
第2回	総合的な学習の時間の目標と意義	松﨑
第3回	総合的な学習の時間を踏まえたカリキュラム・マネジメント	松﨑
第4回	総合的な学習の時間の目標・内容・実践事例(1)(横断的・総合的な課題)	松﨑
第5回	総合的な学習の時間の目標・内容・実践事例(2)(地域や学校の特色に応じた課題)	松﨑
第6回	総合的な学習の時間の目標・内容・実践事例(3)(児童の興味・関心に基づく課題)	松﨑
第7回	総合的な学習の時間における体験活動の意義	松﨑
第8回	総合的な学習の時間におけるICTの活用	松﨑
第9回	総合的な学習の時間における施設等の活用	松﨑
第10回	探究的な学習の過程	松﨑
第11回	総合的な学習の時間の評価	松﨑
第12回	総合的な学習の時間の年間指導計画の事例	松﨑
第13回	総合的な学習の時間の単元計画の作成	松﨑
第14回	単元計画の発表と討論	松﨑
第15回	これからの総合的な学習の時間の在り方	松﨑

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○	○		○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	指導要領解説の指定部分を読んでおく図書館等で参考文献を探し、単元計画作成に備える	学習合計時間(h)	30
事後学習	定期試験に向けて総復習を行う	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	水曜日・金曜日　12：20～13：10　研究室(西館411号室)		

テキスト	『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説　総合的な学習の時間編』　文部科学省　東洋館出版社　2018年　126円(税抜き)　(ISBN：978-4-491-03468-3)
参考文献等	特になし
成績評価基準	総合的な学習の時間の目標や内容を理解している。指導計画作成、実践のための基礎的な能力を有している。
成績評価の方法	定期試験(100%)
ＧＰＡ基準	
備考	単位互換［KRICE］提供科目

科目名	特別活動の指導法	**科目ナンバー**	**J小1334**
担当者	山元　有一		
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施工規則に定める科目区分または事項等	特別活動の指導法		
授業形式	演習		
配当年次	2年	**科目群**	専門科目［教員免許］
開講期	前期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	必修：小教免		

授業の概要	何より小学校における特別活動の内容、その目的を概略し、特に学級活動について具体的な授業実践について考えていく。			
授業の到達目標	・特別活動の目標の把握　・特別活動の内容の理解　・指導法への関心			
ディプロマポリシー（DP）	1 教育・保育に必要な専門性　教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力　教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性　教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	―
DPとの関連	○			
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	特別活動の意義、目的――学校における生活作りとしての特活	山元
第2回	特別活動の内容――小中の学習指導要領を用いて	山元
第3回	学級活動（話合い活動、係活動）	山元
第4回	学級活動（図書館、食育）――教員のチーム化も踏まえて	山元
第5回	児童会活動――学校における自治組織の在り方	山元
第6回	クラブ活動――学外にまで達する異年齢交流の観点も含めて	山元
第7回	学校行事――5種類の学校行事とその意義	山元
第8回	特別活動と他の教科との関連性――特別教科道徳との関連性を踏まえて	山元
第9回	特別活動の具体的な指導法（学級活動）――合意形成はいかにして可能か？	山元
第10回	特別活動の具体的な指導法（学級活動を除く）――他の教科の指導法との関連で	山元
第11回	特別活動での子どもたちの取組みに教員はいかに関わり、それをいかに評価するか？	山元
第12回	個性の伸長と集団の一員の自覚――社会性の捉え直し、民主主義の理解	山元
第13回	特別活動と家庭・地域（郷土）・社会――外部にフィードバックされる特活	山元
第14回	日本人としての自覚と特別活動	山元
第15回	特別活動の新しい実践的課題について――国際的視点から見て	山元

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○				

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	各講義の終わりに次回の内容についての事前学習について触れる。	学習合計時間(h)	20
事後学習	講義中に参考図書等の紹介で示すほか、オフィスアワー等で関連事項や発展的内容について伝えるつもりでいる。	学習合計時間(h)	40
課題に対するフィードバックの方法	各講義や定期試験の事後学習支援の一環として、オフィスアワーを利用して個別に対応する。		
質問・相談方法	講義の終了後に来談学生に対してオフィスアワーの対応時間を調整する。		
オフィスアワー	水曜日、木曜日を除く　15：00～17：00（西館4階406号室）要事前連絡（連絡方法は初回の講義で伝える）		

テキスト	『小学校学習指導要領解説　特別活動編』　（平成29年6月　文部科学省）
参考文献等	
成績評価基準	「授業の到達目標」を満たしていること。
成績評価の方法	レポートにより評価する（100点）
ＧＰＡ基準	
備考	単位互換［KRICE］提供科目

科目名	保育の方法・技術	**科目ナンバー**	**J共1336**
担当者	今村　幸子		
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施工規則に定める科目区分または事項等	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)		
授業形式	講義		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	**科目群**	専門科目［教員免許］
開講期	前期	**卒業の選択・必修**	選択必修
単位数	2単位	**担当形態**	複数
免許・資格情報	必修：幼教免、保育士証		

授業の概要	幼児期に育みたい資質・能力について理解し、保育内容の各領域について、ねらいと内容を専門的領域と関連させて理解するとともに、具体的な指導をするための方法や技術を講義する。			
授業の到達目標	1.幼稚園教育・保育所・幼保連携型認定こども園等における教育・保育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解し、幼児期における育みたい資質・能力との関連を説明できる2.幼児の主体的・対話的で深い学びを促す具体的な保育指導方法を説明できる			
ディプロマポリシー(DP)	1 教育・保育に必要な専門性　教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力　教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性　教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	―
DPとの関連	◎	○		
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	幼稚園･保育所･幼保連携型認定こども園における教育･保育要領の全体構造を把握する	今村
第2回	幼稚園･保育所･幼保連携型認定こども園の保育の基本を理解し､各領域の保育内容について理解する	今村
第3回	各領域の指導内容を理解し、指導上の留意点を理解する(幼稚園)	今村
第4回	乳児を含めた指導内容を理解し、指導上の留意点を理解する(保育所･幼保連携型認定こども園)	今村
第5回	保育・教育の評価について理解する	今村
第6回	乳幼児期における学びの特性について理解する	今村
第7回	乳児期と幼児期の学びのつながりについて理解する	今村
第8回	領域ごとに身に付けていく内容と小学校の教科とのつながりについて理解する	今村
第9回	乳幼児期にふさわしい学びの方法を理解し、保育を構想する重要性を理解する	今村
第10回	情報機器を活用し保育に生かすことができる	今村
第11回	指導案の構造の理解の上、具体的な保育を想定し、指導案を作成することができる	今村
第12回	指導案における教師の援助について理解を深め、具体的に考えることができる	今村
第13回	模擬保育を行い、保育を実践する力を身に付ける	今村
第14回	模擬保育の振り返りを通して、保育の問題点を挙げて、改善すべき点が分かる	今村
第15回	保育の実践記録をから、保育の構想の向上に取り組むことができる	今村

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○	○		○

担当教員の実務経験と授業の関連	幼保連携型認定こども園での実務経験を活かし、具体的な指導をするための方法や技術等を教授する		
事前学習	事前に幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育保育要領の該当箇所を読んでおくこと。日頃から、ネットや文献等で子どもに関する情報を得ておくこと	学習合計時間(h)	30
事後学習	提出を指示された指導案や教材の作成を行うこと	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合に応じて個別に対応する		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する		
オフィスアワー	今村：木曜日　12：20～13：10　研究室(西館311号室)		

テキスト	『幼稚園教育要領解説』　文部科学省　フレーベル館　2018　240円(税抜き)（ISBN：978-4577814475)『保育所保育指針解説』　厚生労働省　フレーベル館　2018　320円(税抜き)（ISBN：978-4577814482)『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』　内閣府､文部科学省､厚生労働
参考文献等	『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』　小櫃 智子編著　わかば社　2017年　1400円(税抜き)（ISBN：978-4-907270-15-5）
成績評価基準	幼稚園教育・保育所・幼保連携型認定こども園等における教育・保育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解し、幼児期における育みたい資質・能力との関連が分かること　幼児の主体的・対話的で深い学びを促す具体的な保育指導方法を理解すること
成績評価の方法	レポート及び教材の提出状況（80%）授業参加態度(20%）
ＧＰＡ基準	
備考	単位互換［KRICE］提供科目、他学科開放科目

科目名	幼児理解	**科目ナンバー**	**J共1439**
担当者	篠原　美穂		
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施工規則に定める科目区分または事項等	幼児理解の理論及び方法		
授業形式	講義		
配当年次	2年	**科目群**	専門科目［教員免許］
開講期	後期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	必修：幼教免、保育士証		

授業の概要	幼児期の発達に関する知識と臨床心理学をベースに、幼児期に現れる様々な問題行動(つまづきの表れ)への基礎的理解を深める。また事例問題を通して、問題行動を呈している幼児やその保護者にどのように対応するかを根拠に基づいて考えるワークを行う。			
授業の到達目標	1.幼児期にみられる問題行動の背景について考え、仮説を立てることができる2.多様な幼児およびその保護者への対応方法を考える基礎を身につける。			
ディプロマポリシー(DP)	1 教育・保育に必要な専門性　教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力　教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性　教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	—
DPとの関連	◎	○	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	オリエンテーション／幼児理解とは	篠原
第2回	現代社会の子どもの育ちと親の傾向	篠原
第3回	幼児期の発達と遊び	篠原
第4回	特別な配慮を要する子どもたちについて	篠原
第5回	子どものつまづきの理解（発達特性）	篠原
第6回	子どものつまづきの理解(非社会的行動)	篠原
第7回	子どものつまづきの理解(反社会的行動)	篠原
第8回	子どものつまづきの理解(神経症的行動)	篠原
第9回	子どものつまづきの理解(生活習慣に表れる問題行動)	篠原
第10回	様々なつまづきへの対応を考える①（未満児のおけるケース）	篠原
第11回	様々なつまづきへの対応を考える②（以上児におけるケース）	篠原
第12回	保護者への対応・支援（信頼関係の構築）	篠原
第13回	保護者への対応・支援(共感的理解と受容・傾聴)	篠原
第14回	現場でぶつかる諸問題	篠原
第15回	総括	篠原

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○			

担当教員の実務経験と授業の関連	幼稚園、小学校、中学校、高等学校、病院等での臨床心理士としての経験を活かし、子どもの理解と対応の基本について授業を行う。		
事前学習	参考資料を熟読する	学習合計時間(h)	30
事後学習	配布された資料をレジュメと照合しながら整理する。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合(定期試験を含む)求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー、また毎授業で実施する質問・感想記入シートへの回答で対応する。		
オフィスアワー	木曜日　12:20～14:00　研究室(西館304号室)		

テキスト	特になし
参考文献等	『新保育ライブラリ 保育の内容・方法を知る 保育臨床相談』　小田豊他著　北大路書房　2018年　1700円(税別）(ISBN：978-4-7628-2658-0)
成績評価基準	幼児期の行動の背景には、どのようなこと考えられるのか、その基礎的知識に基づいて、幼児およびその保護者への対応の仕方を考えることができること。
成績評価の方法	授業中のレポート課題(30%)、受講態度(10%)、定期試験（60%）で総合的に判定する。
ＧＰＡ基準	
備考	単位互換［KRICE］提供科目 資料の共有については、Google Classroomを使用する。個別の連絡はTeamsを使用する。

科目名	教育相談	**科目ナンバー**	**J共1338**
担当者	篠原　美穂		
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施工規則に定める科目区分または事項等	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		
授業形式	講義		
配当年次	2年	**科目群**	専門科目［教員免許］
開講期	前期	**卒業の選択・必修**	必修
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	必修：小教免、幼教免、保育士証、ピアヘルパー認定試験受験資格		

授業の概要	子どもの心の問題を理解しどのようにかかわっていけばよいか、教育相談の基礎的な理論と具体的な方法について説明する。また、家庭の教育や地域社会の機能低下等を概観し、教師としてどのような観点で教育相談を行えばよいのか、発達の状況に応じた相談活動の在り方を具体例を挙げながら講義する。			
授業の到達目標	1.自己理解を深めながら、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動について学ぶ2.発達の状況に即しつつ、適切に捉えた個々の心理的特質や教育的課題について説明できる3.支援に必要な基礎的知識(カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む)を身につける			
ディプロマポリシー(DP)	1 教育・保育に必要な専門性　教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力　教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性　教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	—
DPとの関連	○	○		
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	教育相談の理論と方法	篠原
第2回	幼児、児童の行動の意味を理解する	篠原
第3回	カウンセリングマインド(教育相談の具体的すすめ方)について理解する	篠原
第4回	発達理解と相談・支援1(乳児期・幼児期への対応、保護者に対する教育相談の在り方)	篠原
第5回	発達理解と相談・支援2(学童期・思春期への対応、保護者に対する教育相談の在り方)	篠原
第6回	いじめに対する教育相談(事例検討)	篠原
第7回	不登校・不登園に対する教育相談(事例検討)	篠原
第8回	虐待、非行等に対する教育相談(事例検討)	篠原
第9回	保護者対応	篠原
第10回	特別な支援、配慮が必要な子どもと保護者へのかかわり	篠原
第11回	危機に直面した子どもの心のケア	松元
第12回	発達段階にあわせた教育相談の計画の作成(職種に応じた教育相談の目標の立て方と進め方)	篠原
第13回	教育相談の具体的技法(受容、傾聴、共感的理解等)	篠原
第14回	社会資源の活用(校内体制、関係機関を学ぶ)	篠原
第15回	総括	篠原

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
		○			

担当教員の実務経験と授業の関連	臨床心理士・公認心理師の実務経験を活かして、心理的援助について教授する。		
事前学習	次の授業でとりあげるテーマについて、配布されたレジュメをもとに用語等を調べる	学習合計時間(h)	30
事後学習	配布された資料やワークシートをレジュメと照合しながら整理する	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した際に質問について受け付け、授業内でのフィードバック及び求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業前後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	木曜日　12:20～13:10　研究室(西館304号室)		

テキスト	適宜、資料を配布する。 一部、浜松学院大学オープン教育リソース「不安や悩みにどのように、対処したらよいか？」を教材として利用する。
参考文献等	『子ども理解と教育相談～移行期支援の視点から』　鳥海 順子/義永 睦子編　東洋館出版社 2021 年　1,900円(税抜)（ISBN： 9784491043562）
成績評価基準	教育相談に必要な基礎的知識や発達状況に応じた相談活動の在り方についての理解が達成されたものは合格とする。
成績評価の方法	定期試験(60%)、授業参加態度および小レポート(40%)で総合的に判定する。
ＧＰＡ基準	
備考	単位互換［KRICE］提供科目 資料の共有については、Google Classroomを使用する。個別の連絡はTeamsを使用する。

科目名	小学校教育実習指導	科目ナンバー	J共2305
担当者	松﨑　康弘		
科目	教育実践に関する科目		
施工規則に定める科目区分または事項等	教育実習		
授業形式	講義		
配当年次	2年	科目群	専門科目［教員免許］
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1単位	担当形態	複数
免許・資格情報	必修：小教免　　選択必修：幼教免		

授業の概要	小学校教育実習の目的・意義や展開について学び、実際にどのようなことを行うかを理解して、実習に臨む意欲を高める。また、既習事項の復習や過去の実習事例の検討を通して、授業参観のポイントの理解や授業づくりに必要な技能の獲得を目指す。学習指導と同じく重要な柱である生活指導等についても理解を図る。さらに、実習に必要な手続きやマナー等についても理解し、実行できるようにする。			
授業の到達目標	1．小学校教育実習の意義を理解し、実習に臨む意欲をもつ2．実習に必要な観察力や技能を習得する3．実習を振り返り今後に生かそうとする意識をもつ			
ディプロマポリシー（DP）	1 教育・保育に必要な専門性　教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力　教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性　教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	—
DPとの関連	○	◎	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	小学校教育実習の目的と意義を学ぶ	科目担当者
第2回	小学校教育実習の準備(書類作成等)	科目担当者
第3回	小学校教育実習の展開(実施内容等)について学ぶ	科目担当者
第4回	授業実習に伴う学習指導案の作成について学ぶ	科目担当者
第5回	授業実習における授業方法等について学ぶ	科目担当者
第6回	生活指導等への取り組み方について学ぶ	科目担当者
第7回	教育実習生としてのマナー等について学ぶ	科目担当者
第8回	事後指導(小学校教育実習を振り返る)	科目担当者
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
			○		○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	授業実習で担当しそうな教科や生徒指導等について既習事項の復習を行う。	学習合計時間(h)	15
事後学習	授業内容を確認する。(事前指導)最終レポートを課すため、実習記録等を見直す。(事後指導)	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	横峯　月曜日　16：30～18：00　研究室(西館401号室)		

テキスト	鹿児島女子短期大学児童教育学科『教育実習の手引』(非売品)
参考文献等	『教育技術MOOK　小学校・中学校・高校対応　教育実習まるわかり」　小泉博明ほか　小学館　2007年　ほか
成績評価基準	・実習に必要な基本的な観察力や技能を習得すること。・実習を振り返り今後に生かそうとする意識をもつこと。
成績評価の方法	最終レポート(90%)　受講態度(10%)
ＧＰＡ基準	
備考	・出席を怠ると小学校教育実習に参加できないことがある。担当：横峯、松﨑、小沢

科目名	小学校教育実習	**科目ナンバー**	**J共2304**
担当者	松﨑　康弘		
科目	教育実践に関する科目		
施工規則に定める科目区分または事項等	教育実習		
授業形式	実習		
配当年次	2年	**科目群**	専門科目［教員免許］
開講期	前期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	複数
免許・資格情報	必修：小教免　　選択必修：幼教免		

授業の概要	小学校で10日間の教育実習を行うことによって、小学校教師の職務や責任等について学び、自分なりの教師観を構築する。具体的には、授業実習・参観を通じて授業に必要な知識・技能を習得する。また、学級活動や休み時間等における児童との活動をとおして、子ども観を構築する。さらに、講話の聴講等をとおして、小学校教育についての理解を深める。なお、実際の授業計画は原則として実習校の計画に従うが、下記の計画の内容が含まれるよう実習校には依頼する。			
授業の到達目標	1．小学校教師の責任ややりがいを理解する2．教師の職務に必要な知識や技能を習得する3．児童と接する中で子ども観を構築できる			
ディプロマポリシー（DP）	1 教育・保育に必要な専門性　教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力　教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性　教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	—
DPとの関連	○	◎	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	実習校の教育目標や教育課程について学ぶ	（実習校教員）
第2回	実習校における教師の職務について学ぶ	（実習校教員）
第3回	実習校における児童の実態について学ぶ	（実習校教員）
第4回	実習校における生活指導・安全指導について学ぶ	（実習校教員）
第5回	実習校における保健指導・給食指導について学ぶ	（実習校教員）
第6回	実習校における特別支援教育について学ぶ	（実習校教員）
第7回	配属学級を中心に学級経営について学ぶ	（実習校教員）
第8回	実習校教員の授業技術(ICTの活用を含む)について学ぶ	（実習校教員）
第9回	授業実習に向けて教材研究を行う	（実習校教員）
第10回	授業実習に向けて学習指導案を作成する	（実習校教員）
第11回	評価授業の前に別の授業実習を行う	（実習校教員）
第12回	⑪について改善点を探り、児童にふさわしい授業を考察する	（実習校教員）
第13回	上記の学びを踏まえ評価授業を行う	（実習校教員）
第14回	評価授業の反省会を行い、成果と課題を見つける	（実習校教員）
第15回	教育実習全体を振り返り、小学校教育観を確立する	（実習校教員）

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
				○	○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	「小学校教育実習指導」の内容や実習校からの指示を確認・実行する。	学習合計時間(h)	30
事後学習	実習記録等の記述を通して実習における学びを振り返る。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	実習校教員または実習指導担当が求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	原則として、実習校教員が適宜対応する。		
オフィスアワー	横峯　月曜日　16：30～18：00　研究室(西館401号室)		

テキスト	鹿児島女子短期大学児童教育学科『教育実習の手引』(非売品)
参考文献等	・2年次の小学校授業参観で入手する公開研究会学習指導案集・実習校で配布される資料
成績評価基準	1．実習に意欲的に取り組みふさわしい態度で臨むことができた2・学習指導において、実習生としてふさわしい実践ができた3．生活指導等において、実習生としてふさわしい実践ができた4．講話等の内容や児童の見取り、課題意識等を実習記録において記述できた
成績評価の方法	実習校が評価授業や実習記録等から上記4観点を用いて総合的に評価した結果に基づき、担当教員としての横峯が最終評価をする(100%)
ＧＰＡ基準	ＧＰＡ（原則として1.0）
備考	・前年度の実習参加資格審査に合格しないと、小学校教育実習には参加できない。参加要件については学生便覧等で確認しておくこと。・小学校教育実習指導を無断欠席等した場合、実習に参加できないことがある。

科目名	幼稚園教育実習Ⅱ指導	科目ナンバー	J共2307
担当者	村若　修		
科目	教育実践に関する科目		
施工規則に定める科目区分または事項等	教育実習		
授業形式	講義		
配当年次	2年	科目群	専門科目［教員免許］
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1単位	担当形態	複数
免許・資格情報	選択必修：幼教免		

授業の概要	2年次に行われる幼稚園教育実習Ⅱにおいての事前・事後指導を行う。1年次の基本実習をベースに各自が実習に向けての意欲や課題意識を高めるとともに、教材研究、指導案作成に新たな観点を加えることができるよう解説する。			
授業の到達目標	1. 実習の事前事後学習で、幼稚園教諭や保育教諭としての資質・技能を形成する			
ディプロマポリシー（DP）	1 教育・保育に必要な専門性　教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力　教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性　教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	—
DPとの関連	○	◎	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	幼稚園教育実習Ⅱの意義と目的	科目担当者
第2回	事前訪問の時期と内容	科目担当者
第3回	指導案の書き方	科目担当者
第4回	指導案作成の留意点	科目担当者
第5回	実習支援システム使用を含む実習中の短大や園との連絡・報告等について	科目担当者
第6回	幼稚園についての復習と現状の把握	科目担当者
第7回	実習日誌の書き方と事前のまとめ	科目担当者
第8回	事後指導：実習のまとめ	科目担当者
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○				

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	事前学習・・・配布資料を読み込み、実習に向けての準備につなげること	学習合計時間(h)	
事後学習	事後学習・・・8回目、実習に関するレポートを課すので実習先の内容を復習しておくこと	学習合計時間(h)	
課題に対するフィードバックの方法	レポートに関しては、求めに応じて個別に対応する		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する		
オフィスアワー	基本的に今村が対応します。 水曜11:00-～12:00		

テキスト	本学作成の『実習の手引き』配布プリント(幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領など)
参考文献等	特になし
成績評価基準	到達目標に掲げた項目を理解すること
成績評価の方法	レポート(100%)ただし幼稚園教育実習Ⅱの成績とも関連づける
ＧＰＡ基準	
備考	計画以外にも追加の補講を行うので、掲示板に注意A：井上・村若・今村

科目名	幼稚園教育実習Ⅱ	**科目ナンバー**	**J共2306**
担当者	村若　修		
科目	教育実践に関する科目		
施工規則に定める科目区分または事項等	教育実習		
授業形式	実習		
配当年次	2年	**科目群**	専門科目［教員免許］
開講期	前期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	複数
免許・資格情報	選択必修：幼教免		

授業の概要	基本実習を踏まえ、実習先では以下の発展的内容の習得を目指す。1.子どもたちとの遊びや触れ合いを通して子どもを知る2.クラスの運営を踏まえ、子どもとの関わり方を学ぶ3.保育の実践技術・技能を高める4.職員間のチームワークを理解する5.保育の専門家としての資質を高める6.近年の幼稚園を取り巻く状況や社会的な保育ニーズについて理解する			
授業の到達目標	実践現場での実習を通して、以下の内容を目的とする。1. 子ども理解を深める2. 保育観を形成する3. 保育技術を高める			
ディプロマポリシー（DP）	1 教育・保育に必要な専門性　教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力　教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性　教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	—
DPとの関連	○	◎	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	オリエンテーション(設置機関、園児数、組構成、設備など)	A
第2回	実習園の教育方針や教育目標を理解する	A
第3回	実習園の保育内容や形態を理解する	A
第4回	実習園の保育のねらいや計画を理解する	A
第5回	配属クラスのデイリープログラムを把握する	A
第6回	観察実習をはじめ、参加実習で保育者の指導・援助に理解を深める	A
第7回	保育参加で実践的技能を高める(3歳児クラス)	A
第8回	保育参加で実践的技能を高める(4歳児クラス)	A
第9回	保育参加で実践的技能を高める(5歳児クラス)	A
第10回	指導計画の作成・実践・評価	A
第11回	職員とのチームワークや地域社会との連携を理解する	A
第12回	保育を取り巻く今日的な課題を理解する(多様化するニーズ、認定こども園)	A
第13回	幼稚園教育および幼稚園教諭についての理解を深める	A
第14回	実習の振り返り	A
第15回	実習のまとめ	A

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○			○	○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	事前学習・・・実習園を定期的に訪問し、必要な打ち合わせをしておくこと	学習合計時間(h)	
事後学習	事後学習・・・実習の課題を整理し、その後の実習に生かすこと	学習合計時間(h)	
課題に対するフィードバックの方法	実習園担当者が実習生の求めに応じて個別に対応する		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する		
オフィスアワー	基本的に今村が対応します。 水曜11:00-～12:00		

テキスト	本学作成の『実習の手引き』、幼稚園教育実習Ⅱ指導で配布するプリント『幼稚園教育要領』　文部科学省　平成29年3月　251円(ISBN 9784827815634)『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』　内閣府　文部科学省　厚生労働省　 平成29年3月　149円(ISBN
参考文献等	特になし
成績評価基準	到達目標に掲げた項目を理解すること
成績評価の方法	各実習園が本学所定の項目(実習態度など)について評価を行い、それを基に本学が単位認定する(100%)
ＧＰＡ基準	ＧＰＡ（原則として1.0）
備考	・守秘義務を必ず守ること(SNSなど一見個人的な場でも発言は控える)・実習参加資格審査に合格しないと実習に参加できない。要件は学生便覧等で確認することA：実習園担当者

科目名	保育・教職実践演習	**科目ナンバー**	**J共2401**
担当者	中村　礼香		
科目	教育実践に関する科目		
施工規則に定める科目区分または事項等	教職実践演習		
授業形式	演習		
配当年次	2年	**科目群**	専門科目［教員免許］
開講期	後期	**卒業の選択・必修**	選択必修(幼保コースは必修)
単位数	2単位	**担当形態**	複数
免許・資格情報	必修：幼教免、保育士証		

授業の概要	実習を含めた1年半の学びを振り返った上で、「保育者の職務内容」「乳幼児理解」「保育指導力」という教職実践演習に求められるテーマについて、「地域」も意識しながら、教員による講義と学生による討論を組み合わせる形で考察し、理解を深める。また、模擬保育等を実施し、実習での学生自身の経験と照らし合わせることで実践力を高めるとともに、保育者や保育の在り方について考える。さらに、本演習も含めた短大での学びを総括し、自分なりの保育者観・保育観を構築する。			
授業の到達目標	1．講義・討論等をとおして乳幼児理解や保育理解を深化する2．模擬保育等をとおして保育職としての実践力を高める。3．自分なりの保育者観・保育観を確立できる			
ディプロマポリシー(DP)	1 教育・保育に必要な専門性　教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力　教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性　教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	—
DPとの関連		◎		
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	オリエンテーションと実習の振り返り	科目担当者
第2回	講義1(保育者の職務内容について学ぶ)	科目担当者
第3回	討論1(保育者の職務内容について討論を行う)	科目担当者
第4回	講義2(乳幼児理解について学ぶ)	科目担当者
第5回	討論2(乳幼児理解について討論を行う)	科目担当者
第6回	講義3(保育指導力について学ぶ)	科目担当者
第7回	討論3(保育指導力について討論を行う)	科目担当者
第8回	ロールプレイ(既習事項を用いて役割演技)	科目担当者
第9回	模擬保育1(模擬保育の計画づくり)	科目担当者
第10回	模擬保育2(模擬保育の教材製作等)	科目担当者
第11回	模擬保育3(地域の子どもに対する模擬保育の実行)	科目担当者
第12回	模擬保育4(模擬保育の反省的検討)	科目担当者
第13回	講義4(保育の意義について学ぶ)	科目担当者
第14回	討論4(保育の意義について討論を行う)	科目担当者
第15回	総括(演習の振り返りと保育者観の確立)	科目担当者

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○	○	○	○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	講義に基づいた討論や、模擬保育の準備を計画的に行うこと履修カルテの提出を求める	学習合計時間(h)	30
事後学習	討論の結果や模擬保育の成果を自分なりにまとめ、最終レポートに備える。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後や各教員のオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	松﨑(責任者)　月曜日　14：30～16：20　研究室(西館411)		

テキスト	特になし
参考文献等	『保育・教職実践演習　保育者に求められる保育実践力』　小原敏郎ほか　建帛社　2018年　ほか
成績評価基準	・乳幼児理解や保育理解を深められている・保育職としての基礎的な実践力が高まっている・自分なりの保育者観を確立している
成績評価の方法	レポート100％
ＧＰＡ基準	
備考	科目担当者：村若・内田・瀧井COC関連科目

科目名	小学校教職実践演習	**科目ナンバー**	**J共2402**
担当者	松﨑　康弘		
科目	教育実践に関する科目		
施工規則に定める科目区分または事項等	教職実践演習		
授業形式	演習		
配当年次	2年	**科目群**	専門科目［教員免許］
開講期	後期	**卒業の選択・必修**	選択必修
単位数	2単位	**担当形態**	複数
免許・資格情報	必修：小教免		

授業の概要	実習を含めた1年半の学びを振り返った上で、「小学校教師の職務内容」「児童理解」「教科の指導力」という教職実践演習に求められるテーマについて、「地域」も意識しながら、教員による講義と学生による討論を組み合わせる形で考察し、理解を深める。また、小学校の授業の参観や現職教員による指導を通して、ICT活用も踏まえた授業の在り方や教師の在り方について理解する。さらに、壁新聞製作等の形を通して短大での学びを総括し、自分なりの教師観・教育観を構築する。			
授業の到達目標	1．講義・討論を通して児童や教職の意義等について理解する。2．授業参観や現職教員の指導を通して、実践力向上を図る。3．自分なりの教師観・教育観を確立できる。			
ディプロマポリシー（DP）	1 教育・保育に必要な専門性　教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力　教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性　教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	—
DPとの関連		◎		
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	オリエンテーション	松﨑
第2回	小学校教師の職務内容について講義	松﨑
第3回	小学校教師の職務内容について討論	全教員
第4回	現職教員による指導	松﨑・ゲストティーチ
第5回	小学校の授業参観・交流活動	全教員
第6回	小学校の授業参観・交流活動の振り返り・討論	全教員
第7回	児童理解について講義	横峯
第8回	児童理解について討論	全教員
第9回	教科の指導力について講義	全教員
第10回	教科の指導力について討論	全教員
第11回	2年間の学びの振り返り1(壁新聞製作の企画)	全教員
第12回	2年間の学びの振り返り2(壁新聞製作)	全教員
第13回	2年間の学びの振り返り3(壁新聞のプレゼンテーション)	全教員
第14回	教職の意義について講義・討論	全教員
第15回	まとめ(教師観の確立)	全教員

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○	○	○	○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	実習をはじめ2年前期までの既習事項をGoogleClassroom上の履修カルテ記入等を通して振り返っておく。	学習合計時間(h)	15
事後学習	講義と討論が連動するので、講義内容を復習しておく。	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後や各教員のオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	松﨑(責任者)　水曜日　16:30～18:00　研究室(西館411号室)		

テキスト	特になし
参考文献等	『改訂　これからの教師』　谷川彰英ほか編著(松﨑康弘ほか著)　建帛社　2007年『教育の情報化に関する手引』　文部科学省　2019年(文部科学省ホームページ)ほか
成績評価基準	・児童理解や教職の意義についての理解を深められている。・小学校教師としての基礎的な実践力が高まっている。・自分なりの教師観を確立している。
成績評価の方法	レポート90%　受講態度(討論や壁新聞製作等における積極性等)10%
ＧＰＡ基準	
備考	2年次前期及び後期の開始時に履修カルテの記入と担当教員への提出を求める。COC科目担当：松崎、横峯、中村、萩原

科目名	教師と法	科目ナンバー	J応3309
担当者	担当者未定		
科目	—		
施工規則に定める科目区分または事項等	—		
授業形式	講義		
配当年次	2年	科目群	専門科目［教員免許］
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2単位	担当形態	単独
免許・資格情報	選択：小教免		

授業の概要	社会全体の法化現象がすすむなか、いじめへの対応や「特別の教科道徳」の指導その他教師としての職務は複雑さを増しており、法知識の的確な活用能力なしに職務を遂行することはできなくなってきている。本講義では、学校教育(＝公教育)と法令との関わりの理解のうえに、重要教育法令の実際的活用能力を養ってゆく。			
授業の到達目標	・現行教育法令の体系を把握している。・学校教育活動と教育法令の関連性を理解している。・教員採用試験に対応しうる法令知識を習得している。。			
ディプロマポリシー(DP)	1 教育・保育に必要な専門性教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	—
DPとの関連	○			
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	戦後教育理念と日本国憲法	未定
第2回	教育権から学習権へ－憲法26条の今日的解釈－	未定
第3回	旧教育基本法の諸理念	未定
第4回	改正教育基本法制定と同法の争点	未定
第5回	学校教育の通則	未定
第6回	学校運営の基本的諸制度1－管理運営－	未定
第7回	学校運営の基本的諸制度2－地域・保護者との関連－	未定
第8回	児童生徒に関する法規	未定
第9回	教育公務員法制－地方公務員法の理解－	未定
第10回	教育委員会制度－地教行法の理解－	未定
第11回	教員の養成制度－教育職員免許法の理解－	未定
第12回	学校の危機管理－学校保健安全法・民法を基底に－	未定
第13回	学習指導要領の法的位置づけ	未定
第14回	「特別の教科」道徳の論点	未定
第15回	総括(発表)	未定

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○		○		○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	日ごろより教育問題に関心をもち、新聞その他メディアにおける教育関連記事を読むように努める。	学習合計時間(h)	30
事後学習	六法やICTの活用をとおし、法令検索の習慣をつける。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	課題や小テストの参考解答例の解説または配布をとおし、知識・理解の整理を図る。		
質問・相談方法	原則として授業時間の前後またはオフィスアワーに受付ける。		
オフィスアワー	授業の前後講義室		

テキスト	『法規で学ぶ教育制度』　古田薫ほか編著　ミネルヴァ書房　2020年　2500円(税別)
参考文献等	
成績評価基準	教育法令の体系的俯瞰に基づき、学校教育活動と法令の関連性を説明することができる。
成績評価の方法	レポート(70%)、受講姿勢・意欲(30%)
ＧＰＡ基準	
備考	シラバスの内容は、受講生数・受講生の理解度により変更となる場合があります。

科目名	子どもと人権	科目ナンバー	J応3308
担当者	松﨑　康弘		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	講義		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	科目群	専門科目［教員免許］
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1単位	担当形態	単独
免許・資格情報	選択：小教免、幼教免、保育士証		

授業の概要	人権教育・保育で育成することが求められる力(セルフ・エスティームやコミュニケーション能力、正しい知識理解など)について、具体的な事例を通して学ぶ。その内容を踏まえて、実際にどのような実践が行われているかを学び、自信が教師・保育者となったときにどのような実践を行うかについて考える。			
授業の到達目標	1. 人権教育・保育を実践するための知識や技能を習得している。2. 人権に対する配慮をもって子どもとかかわる意識を有している。			
ディプロマポリシー(DP)	1 教育・保育に必要な専門性　教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力　教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性　教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	―
DPとの関連	○		◎	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	人権教育・保育の目的を学ぶ	松﨑
第2回	多文化教育・保育の在り方を考える。(アイヌ学習を事例に)	松﨑
第3回	ノーマライゼーションと教育・保育(障がい者の姿に学ぶ)	松﨑
第4回	よりよい社会づくりのための発信について考える	松﨑
第5回	社会教育と人権教育・保育との関係を考える	松﨑
第6回	世界の子どもの人権をめぐる状況を学ぶ	松﨑
第7回	人権教育・保育の教材開発について考える	松﨑
第8回	まとめ(自分なりの人権教育を考える)	松﨑
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○				

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	幼稚園教育要領や小学校学習指導要領等の人権教育に関する部分を確認する。	学習合計時間(h)	15
事後学習	人権教育に有用な教材（絵本等）を探す。	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	水曜日・金曜日　12：20～13：10　研究室(西館411号室)		

テキスト	特になし
参考文献等	『教室から地球へ　開発教育・国際理解教育　虎の巻　～人が育ち、クラスが育ち、社会が育つ～』　国際協力機構中部国際センター　東信堂　2006年　ほか
成績評価基準	人権教育や保育を実践するために必要な基本的な知識・技能を有し、実践に生かそうとする意識をもっていること。
成績評価の方法	最終レポート(100%)
ＧＰＡ基準	
備考	他学科開放科目

科目名	環境教育演習		科目ナンバー	J応2417
担当者	松﨑　康弘			
科目	―			
施工規則に定める科目区分または事項等	―			
授業形式	演習			
配当年次	2年	科目群	専門科目［教員免許］	
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	1単位	担当形態	単独	
免許・資格情報	選択：小教免			

授業の概要	豊かな自然環境をもつ鹿児島で環境教育の実践を行えるための専門的な知識や技能を習得するために、既習事項の見直しや実践事例の検討を行う。また、屋久島環境文化研修センターにおける合宿研修を通して、自然環境を諸感覚を用いて感じ取るセンスを磨き、豊かな自然環境を教材化し実践に生かそうとする意識を高める。さらに、環境教育や環境保護に従事する人々との交流を通じて、教育者や社会人としてふさわしい意識を構築する。			
授業の到達目標	1．環境教育の実践ができる専門的な知識や技能を習得できる2．地域の環境を教材化する意識を高める3．環境教育や環境保護に従事する人々の意識を学びとる			
ディプロマポリシー（DP）	1 教育・保育に必要な専門性　教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力　教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性　教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	―
DPとの関連	○	◎		
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	イントロダクションで本演習のねらいを理解する	松﨑
第2回	屋久島の地域性について学ぶ	松﨑
第3回	(合宿)環境を生かした製作を学ぶ	松﨑
第4回	(合宿)環境を生かした産業を学ぶ	松﨑
第5回	(合宿)ナイトハイクで諸感覚を研ぎ澄ます	松﨑
第6回	(合宿)自然観察を通して教材化を考える	松﨑
第7回	(合宿)環境を生かした実践を実践者から学ぶ	松﨑
第8回	屋久島合宿での学びをふりかえり、まとめる	松﨑
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
				○	○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	保育内容(環境)や社会科指導法等の復習を行い、環境教育に対する課題意識をもって参加することを強く求める	学習合計時間(h)	15
事後学習	合宿の成果を踏まえ、指導案作成等の応用を行う	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	水曜日・金曜日　12：20～13：10　研究室(西館411号室)		

テキスト	特になし
参考文献等	『むすんでみよう子どもと自然　保育現場での環境教育実践ガイド』　井上美智子ほか編著　北大路書房　2010年『環境教育指導資料〔幼稚園・小学校編〕』　国立教育政策研究所教育課程研究センター　東洋館出版社　2014年ほか
成績評価基準	環境教育を実践するための基本的な知識・技能・意識を有していること
成績評価の方法	レポート(100%)
ＧＰＡ基準	
備考	原則として受講者は小・幼・保コース学生に限る。2万5000円程度の合宿参加費が必要となる。１２月１９日～２０日に実施予定で、天候等により日程等が変更となる場合がある。履修者（合宿参加者）が９名を下回った場合、開講しない可能性がある。履修者の中から希望者を募り、屋久島高

科目名	カウンセリング入門	科目ナンバー	J応1465
担当者	篠原　美穂		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	講義		
配当年次	2年	科目群	専門科目［教員免許］
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1単位	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：ピアヘルパー認定試験受験資格　　選択：小教免、幼教免、保育士証		

授業の概要	悩みを抱えた心に触れ、耳を傾け、理解しようとするときには、自分の心をみつめることを含んだ包括的な視点を持つことが大切になる。自分自身の心を見つめ直し、自己理解を深めながら、他者理解をしていく過程を「聴く」練習やワークを通してその視点を説明する。そして、心の課題にともに向き合い、日常生活の中でも実践していけるカウンセリングの演習体験を通し、人間性の尊重を軸とした心理的援助について講義する。			
授業の到達目標	1.カウンセリングの基礎的理論を学ぶ。2.カウンセリングにおけるアセスメントについて学び、説明できる。3.援助に必要な相談・面接技法を習得する			
ディプロマポリシー(DP)	1 教育・保育に必要な専門性　教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力　教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性　教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	―
DPとの関連	◎	○		
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション／カウンセリングの意義	篠原
第2回	自己理解と他者理解	篠原
第3回	カウンセリングの理論	篠原
第4回	カウンセリングの技法1(受容、繰り返し、明確化)	篠原
第5回	カウンセリングの技法2(支持・質問)	篠原
第6回	カウンセリングの非言語的技法(体験学習)	篠原
第7回	対話上の諸問題への対処法(ロールプレイング)	篠原
第8回	カウンセリングにおける倫理／まとめ	篠原
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○		○	

担当教員の実務経験と授業の関連	臨床心理士・公認心理師の実務経験を活かして、心理的援助について教授する。		
事前学習	専門用語や次に取り上げるテーマについて、テキストを読んで確認しておく	学習合計時間(h)	15
事後学習	配布されたレジュメとテキストを照合しながら読み直す	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した際は質問について受け付け、授業内でのフィードバック及び求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業前後、またリアクションペーパーで対応する。なおリアクションペーパーを用いた場合は次の講義内で返答する。		
オフィスアワー	木曜日　12:20～14:00　研究室(西館304号室)		

テキスト	『ピアヘルパーハンドブック』　NPO法人日本教育カウンセラー協会編　図書文化　2023年　1,500円(税抜き)（ISBN：9784810037760）
参考文献等	『ピアヘルパーワークブック』　日本教育カウンセラー協会編　図書文化　2011年　1,500円(税抜き)（ISBN9784810023862）
成績評価基準	カウンセリングの基礎的知識や相談・面接のすすめ方についての理解が達成されたものは合格とする。
成績評価の方法	毎講義後のリアクションペーパーや提出課題等(30%)、受講態度(10%)、最終レポート（60%）で総合的に判定する。
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	生涯学習論	**科目ナンバー**	**J応3410**
担当者	山元　有一		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	講義		
配当年次	2年	**科目群**	専門科目［教員免許］
開講期	後期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	選択：小教免		

授業の概要	生涯学習は1960年代から、余暇と労働の関係の変容を背景に成立してきたものだが、それは同時に知識のあり方の変容をも含んでいる。本講義では「生涯に渡って学ぶこと」の意義を知るとともに、それを他者にどのように伝えていくかを探る。			
授業の到達目標	・生涯学習の意味理解　・生涯学習への意欲			
ディプロマポリシー（DP）	1 教育・保育に必要な専門性　教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力　教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性　教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	―
DPとの関連			○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	知るとは？あるいは学ぶとは？―他者教育と自己教育	山元
第2回	承前―高等教育機関における学びと生涯学習	山元
第3回	承前―職業生活における学びと生涯学習	山元
第4回	承前―老年期における学びと学習	山元
第5回	生涯学習の歴史と展開	山元
第6回	承前―生涯学習支援施設とその活動内容「	山元
第7回	事例研究1―音楽や絵画は楽しむものか？	山元
第8回	事例研究2―自然科学は解くものか？	山元
第9回	事例研究3―歴史は覚えるものか？	山元
第10回	事例研究4―ロックや映画は気休めか？	山元
第11回	事例研究5―美食家が生涯学習をするためには何が必要か？	山元
第12回	事例研究6―読書をしているだけで生涯学習をしていることになるのか？	山元
第13回	生涯学習の限界？―人的資源論と配分論	山元
第14回	生涯学習と政治問題・社会参与	山元
第15回	総括―生涯学習を教えることは可能か？	山元

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○				

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	各講義の終わりに次回の内容についての事前学習について触れる。	学習合計時間(h)	10
事後学習	講義中に参考図書等の紹介で示すほか、オフィスアワー等で関連事項や発展的内容について伝えるつもりでいる。	学習合計時間(h)	50
課題に対するフィードバックの方法	各講義や定期試験の事後学習支援の一環として、オフィスアワーを利用して個別に対応する。		
質問・相談方法	講義の終了後に来談学生に対してオフィスアワーの対応時間を調整する。		
オフィスアワー	水曜日、木曜日を除く15：00～17：00(西館4階406号室)。要事前連絡(連絡方法は初回の講義で伝える)。		

テキスト	特になし(テキストは使用しないので、丹念にノートを取ること)
参考文献等	講義中に有益な図書や映画など紹介するので、是非挑戦してもらいたい
成績評価基準	提出されたレポートが上記の「授業の到達目標」を満たしていること。
成績評価の方法	最終レポート(100%)
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	家族関係論	**科目ナンバー**	**J応3411**
担当者	倉重　加代		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	講義		
配当年次	2年	**科目群**	専門科目［教員免許］
開講期	後期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	選択：小教免、幼教免、保育士証		

授業の概要	一般的にミクロな視点で捉えられがちな家族をマクロに捉え、私たちが「これが家族だ」と描いている家族像や家族関係を見直す。そこから、家族のありようは普遍的なものではなく多様で、また社会や時代とともに変化すること、さらに、授業科目「社会福祉」や「子ども家庭福祉」との関連から、社会情勢や家族関係の状況、家族機能の社会化について理解を深める授業を行う。			
授業の到達目標	1. 社会の動きにともなう家族の変化を理解する 2. 家族を多角的に捉える視点を身につける 3. 教育・保育現場で多様な状況に対応できる柔軟性を身につける			
ディプロマポリシー（DP）	1 教育・保育に必要な専門性　教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力　教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性　教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	―
DPとの関連	○		◎	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	家族とは何か―学問的定義とアンケートから考察する	倉重
第2回	家族の定義や家族構成について学ぶ	倉重
第3回	家族の機能について学ぶ	倉重
第4回	家族と全体社会の関係について学ぶ	倉重
第5回	家族変動の諸側面について学ぶ	倉重
第6回	産業化と戦後家族の変動について学ぶ	倉重
第7回	低成長期以降の家族変動について理解する	倉重
第8回	家族の個人化動向を理解する	倉重
第9回	家族変動の行方について考える	倉重
第10回	結婚の機能について学ぶ	倉重
第11回	多様化する結婚について理解する	倉重
第12回	家族機能の社会化について学ぶ①高齢者福祉	倉重
第13回	家族機能の社会化について学ぶ②少子化と子育て支援	倉重
第14回	出産・育児とライフプランについて考える	倉重
第15回	授業の総括に関するディスカッションを行う	倉重

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○				

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	家族に関する各種資料等やニュースを通して家族に関する問題や動きに関心を持つこと。教科書を読み、意味のわからない用語は調べておくこと。	学習合計時間(h)	30
事後学習	期末試験のために授業内容の総復習をしておくこと。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	講義終了後及びオフィスアワー等で対応する		
オフィスアワー	火曜日16:30～18:00　研究室(西館312号室)		

テキスト	『第4版　家族社会学――基礎と応用――』　園井ゆり・浅利宙・倉重加代編　九州大学出版会　2022年　2,000円（税抜き）　(ISBN978-4-7985-0342-4)
参考文献等	『単身リスク――「100年人生をどう生きるか」』山田昌弘 朝日新聞出版 2014年円(ISBN 978-4-02-295339-1) 『子ども白書』（子ども家庭庁）『高齢社会白書』『男女共同参画白書』（内閣府）ほか授業中に紹介
成績評価基準	到達目標の1.～3.は相互に関連し、1.を理解することが2.や3.の獲得につながることから、到達目標1.に掲げている「社会の動きにともなう家族の変化を理解する」を成績評価基準とする。
成績評価の方法	期末試験(50%)、授業期間中の提出物(小テスト含む)(40%)、毎時間のリアクションペーパー(10%)で評価する。(小テスト・期末試験はレポートで代替する場合がある)
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	子どもと音楽Ⅲ		科目ナンバー	J応1359
担当者	中村　礼香			
科目	―			
施工規則に定める科目区分または事項等	―			
授業形式	演習			
配当年次	2年	科目群	専門科目［教員免許］	
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2単位	担当形態	クラス分け	
免許・資格情報	選択：幼教免、保育士証			

授業の概要	保育・教育現場で必要な音楽活動の指導法や実践技術についての理論を説明する。また、コードネームを用いた幼児曲の伴奏法や、簡易伴奏の作成方法などについて実践を通して解説し、現場で活用できるようにする。			
授業の到達目標	1. コードネームを用いた伴奏法を習得する。2. 保育・教育現場における音楽活動について理解し、活用できるようになる。3. 幼児曲の弾き歌いの技術を高める。			
ディプロマポリシー(DP)	1 教育・保育に必要な専門性　教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力　教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性　教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	―
DPとの関連	◎	○		
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション／ピアノレッスン	A・B
第2回	歌唱法・4月のうた／ピアノレッスン	A・B
第3回	5月・6月のうた／ピアノレッスン	A・B
第4回	簡易楽器奏法・2，3歳児器楽合奏／ピアノレッスン	A・B
第5回	4，5歳児器楽合奏／ピアノレッスン	A・B
第6回	7月・8月のうた／ピアノレッスン	A・B
第7回	9月・10月のうた／ピアノレッスン	A・B
第8回	保育・教育現場における音楽活動についての討論及び発表／ピアノレッスン	A・B
第9回	11月・12月のうた／ピアノレッスン	A・B
第10回	コードネーム／ピアノレッスン	A・B
第11回	簡易伴奏作成法／ピアノレッスン	A・B
第12回	幼児曲伴奏法／ピアノレッスン	A・B
第13回	1月・2月・3月のうた／ピアノレッスン	A・B
第14回	ボディーパーカッション・生活のうた／ピアノレッスン	A・B
第15回	弾き歌い実技試験／ピアノレッスン	A・B

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○	○	○	

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	・ピアノレッスン時に合格できるように、事前に練習をした上で授業に臨むこと。・テレビや実習等を通して幼児向けの曲や音楽遊びなどに興味をもつこと	学習合計時間(h)	30
事後学習	・ピアノレッスンで指導されたところは復習すること。・授業で学んだことを実習等で実践すること。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	ピアノレッスンについては、授業時間内で課題をクリアすることが望ましいが、初心者の学生については個別に対応する。また、講義において小テストや課題を課した場合は返却後に個別に指導を行う。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	中村：水曜日　12:20～13:10　研究室(本館601号室)　稲森：月曜日　12:20～13:10　　ピアノ講師室(本館6階)		

テキスト	・『うたとあそび～「うた」をきっかけに広がる保育のために』鹿児島市私立幼稚園協会編　共同音楽出版社　2019年　2,000円(税抜き)(ISBN978-4-7785-0416-8)・各自のピアノレベルに応じたピアノ教則本及び楽譜集
参考文献等	特に指定せず、適宜資料を配布する。
成績評価基準	・ピアノ課題曲を全て合格すること。・伴奏法、簡易伴奏作成法について理解し、実践に活用することができること。
成績評価の方法	簡易伴奏作成の課題(40%)、ピアノの平常点(10%)、弾き歌い実技試験(20%)、自由曲実技試験(25%)で総合的に判定する。
ＧＰＡ基準	
備考	A:45分演習、B：45分ピアノレッスンで授業を構成する。A：中村・稲森B：ピアノ指導(有満・窪田・高取・武田・蜷川・濱﨑・古川・村原・茂谷・桃坂)

科目名	子どもと音楽Ⅳ	科目ナンバー	J応1460
担当者	中村　礼香		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	演習		
配当年次	2年	科目群	専門科目［教員免許］
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2単位	担当形態	クラス分け
免許・資格情報	選択：幼教免、保育士証		

授業の概要	保育・教育現場で行われている様々な音楽活動を紹介する。それらの音楽活動を実際に体験する場を設け、理論を解説することにより、表現活動についての理解を深め、現場での実践力・指導力を高められるような演習を行う。			
授業の到達目標	1. 保育・教育現場で行われる音楽活動を実践する技術を習得する。2. 幼児曲の弾き歌いの技術を高める。			
ディプロマポリシー(DP)	1 教育・保育に必要な専門性　教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力　教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性　教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	―
DPとの関連	◎	○		
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション／ピアノレッスン	A・B
第2回	リトミックⅠ(リズム・拍・拍子)／ピアノレッスン	A・B
第3回	リトミックⅡ(フレーズ・強弱)／ピアノレッスン	A・B
第4回	リトミックⅢ(絵本・ストーリー)／ピアノレッスン	A・B
第5回	リトミックⅣ(歌唱教材)／ピアノレッスン	A・B
第6回	リトミックⅤ(スカーフやフープ等の道具を使用)／ピアノレッスン	A・B
第7回	わたべうたⅠ(実践)／ピアノレッスン	A・B
第8回	わたべうたⅡ(グループでの調べ学習)／ピアノレッスン	A・B
第9回	わらべうたⅢ(発表1)／ピアノレッスン	A・B
第10回	わらべうたⅣ(発表2)／ピアノレッスン	A・B
第11回	ハンドベルⅠ（練習）／ピアノレッスン	A・B
第12回	ハンドベルⅡ（発表）／ピアノレッスン	A・B
第13回	器楽合奏Ⅰ(幼児曲)／ピアノレッスン	A・B
第14回	器楽合奏Ⅱ(クラシック曲)／ピアノレッスン	A・B
第15回	弾き歌い実技試験／ピアノレッスン	A・B

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○	○	○	

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	・ピアノレッスン時に合格できるように、事前に練習をした上で授業に臨むこと。・模擬保育の際は事前に準備を行うこと。	学習合計時間(h)	30
事後学習	・ピアノレッスンで指導されたところは復習すること。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	ピアノレッスンについては、授業時間内で課題をクリアすることが望ましいが、初心者の学生については個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	月曜日　13:10～14:40　研究室(本館601号室)		

テキスト	・『うたとあそび～「うた」をきっかけに広がる保育のために』鹿児島市私立幼稚園協会編　共同音楽出版社　2019年　2,000円(税抜き)(ISBN978-4-7785-0416-8)・各自のピアノレベルに応じたピアノ教則本及び楽譜集
参考文献等	特に指定せず、適宜資料を配布する。
成績評価基準	・ピアノ課題曲を全て合格すること。・子どもの音楽遊び、音遊びについて理解すること。
成績評価の方法	わらべうた模擬保育(40%)、ピアノの平常点(10%)、弾き歌い実技試験(25%)、自由曲実技試験(25%)で総合的に判定する。
ＧＰＡ基準	
備考	A:45分演習、B：45分ピアノレッスンで授業を構成する。A：中村B：ピアノ指導(有満・窪田・高取・武田・蜷川・濱﨑・古川・村原・茂谷・桃坂)

科目名	子どもと造形Ⅰ	科目ナンバー	J応1361
担当者	井上　周一郎		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	演習		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	科目群	専門科目［教員免許］
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2単位	担当形態	単独
免許・資格情報	選択：幼教免、保育士証		

授業の概要	本科目は「幼児と表現」の発展的な科目として位置づけるものである。ここでは、幼児が夢中になる"つくる"活動を主題に、適切な保育の内容と方法などを解説する。また、様々な課題製作に取り組み、保育者として必要な資質と技能の向上を図りながら、手や身体を通して思考することの大切さについて理解を促す。併せて、幼児の感性や創造性を養うための製作活動の在り方(教材研究、環境構成、導入等)について考察を深め、現場での実践力を高める。			
授業の到達目標	1．幼児期における"つくる"活動の目的や内容を理解する2．幼児期における"つくる"活動の発達過程等を踏まえ、環境づくりや援助を理解する3．"つくる"活動を中心に、幅広い造形活動の基礎的な知識・技能を修得する4．造形表現の豊かさや創造する喜びを味わい、子どもの感性や創造性を育むための理論と方法を身に付ける			
ディプロマポリシー(DP)	1 教育・保育に必要な専門性　教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力　教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性　教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	―
DPとの関連		◎	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション(授業の内容、美術館での鑑賞学習について)	井上
第2回	「美術」という言葉	井上
第3回	幼児期の造形教育	井上
第4回	美術館での鑑賞学習	井上
第5回	スライムによる感触遊び	井上
第6回	マーブルクレヨンづくり	井上
第7回	多様な感触遊び	井上
第8回	紙コップによる造形遊び	井上
第9回	石けんによる造形遊び	井上
第10回	カラービニールによるドームづくりⅠ(グループワークで発想を膨らませる)	井上
第11回	カラービニールによるドームづくりⅡ(材料に触れ、構想を練る)	井上
第12回	カラービニールによるドームづくりⅢ(平面的につなぎ合わせる)	井上
第13回	カラービニールによるドームづくりⅣ(立体的に組み合わせる)	井上
第14回	カラービニールによるドームづくりⅤ(扇風機で膨らませ完成作品を全身で味わう)	井上
第15回	幼児が夢中になる"つくる"活動の在り方について	井上

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
		○		○	

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	事前学習・・・意味のわからない用語は辞書などで調べておくこと	学習合計時間(h)	30
事後学習	課題製作や課外学習のレポートに取り組み、造形表現の豊かさを味わうこと	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	課題製作やレポートに関しては、求めに応じて個別に対応する		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー、メールで対応する		
オフィスアワー	金曜日　16:30~18:00　研究室(本館609号室)		

テキスト	特になし。適宜、資料を配布する
参考文献等	「幼児造形の研究」　　「保育士バンク！」「HoiClue」（大豆生田啓友先生のインタビュー）
成績評価基準	到達目標に掲げた項目を理解すること
成績評価の方法	授業への参加態度(30%)、作品評価(60%)、鑑賞学習のレポート(10%)で総合的に評価する
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	子どもと造形Ⅱ	科目ナンバー	J応1462
担当者	松下　茉莉香		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	演習		
配当年次	2年	科目群	専門科目［教員免許］
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2単位	担当形態	単独
免許・資格情報	選択：幼教免、保育士証		

授業の概要	子どもの造形表現の中でも、保育現場で実践できるような描く活動を中心とした演習を通して、具体的な活動内容や教育的意義について明らかにする。また、乳幼児期の表現の発達過程を踏まえた上で、子どもへの適切な指導について考察できるよう解説する。さらに、多様な課題製作を行うことで描く活動の豊かさや価値を味わい、基礎的な知識や技能を身につけられるようにする。			
授業の到達目標	1. 描く活動を中心とした、子どもの造形表現活動について具体的な活動内容や支援の在り方を学ぶ。2. 多様な課題製作を通して表現の豊かさを味わい、描く活動に関する基礎的な表現技能を習得する。			
ディプロマポリシー(DP)	1 教育・保育に必要な専門性　教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力　教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性　教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	―
DPとの関連	◎			
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション /三原色を用いた混色あそびと染め紙作り	松下
第2回	光・色・形に親しむ活動：トランスパレントを用いた製作	松下
第3回	キットパスを使った描画を体験する	松下
第4回	色の基礎知識について・身近なものの色を表す	松下
第5回	感触遊びについて学ぶ：絵具を用いた感触遊びの体験(グループワーク)	松下
第6回	表現の多様性について学ぶ1：モダンテクニックによる技法あそびを体験する	松下
第7回	表現の多様性について学ぶ2：課題製作・総括	松下
第8回	色形を写す活動1：スチレンボードを用いた版表現	松下
第9回	色形を写す活動2：ローラー遊びと版表現	松下
第10回	自然を題材とした描く活動1：身近な自然物を観察しながら形を捉える	松下
第11回	自然を題材とした描く活動2：にじみによる着彩・総括	松下
第12回	素材を用いた造形活動1：自然物の造形から見立てて描く	松下
第13回	児童文化財を使った活動1：題材決め	松下
第14回	児童文化財を使った活動2：教材制作・練習	松下
第15回	課題発表(プレゼン発表)	松下

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
		○	○	○	○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	配布資料や教科書を読み、授業の見通しを立てておく。	学習合計時間(h)	30
事後学習	各回に習得した内容について復習、整理する。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	課題が課された際は、求めに応じて個別に指導または授業内で課題の要点に触れる。		
質問・相談方法	授業後やオフィスアワーで対応する。		
オフィスアワー	水曜日　12：20～13：10　研究室(本館602号室)		

テキスト	特になし。授業中に便宜資料を配布する。
参考文献等	『幼児造形の基礎』　編著 樋口一成　萌文書林　平成30年11月9日　2400円　(ISBN：978-4-89347-311-0)
成績評価基準	子どもの造形表現活動について具体的な活動や支援の在り方を理解し、描く活動に関する基礎的な表現技能を身につけられたか。
成績評価の方法	受講態度(10%)、 作品評価(50%)、 教材研究発表(40%) で総合的に評価する。
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	子どもと運動・身体表現	科目ナンバー	J応1464
担当者	萩原　香織		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	演習		
配当年次	2年	科目群	専門科目［教員免許］
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2単位	担当形態	単独
免許・資格情報	選択：幼教免、保育士証		

授業の概要	子どもの発達について理解を深め、運動遊びや身体表現の実践を通して指導法を学ぶ。子どもの基礎的運動技能の習得と、豊かな感性や創造性を育む方法について学ぶ。保育指導案の作成及び模擬保育や、現場での観察・実践を通して保育実践力の向上を図る。			
授業の到達目標	1. 子どもの発育発達と運動技能の習得過程について理解することができる。 2. 子どもの運動遊び・身体表現についてオリジナルの保育指導案が作成できる。 3. 子どもの運動遊び・身体表現について保育実践力を身に付ける。			
ディプロマポリシー(DP)	1 教育・保育に必要な専門性　教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力　教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性　教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	―
DPとの関連	○			
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション(授業のねらいと目的の確認)	萩原
第2回	運動における子どもの発育発達、安全上の留意点について	萩原
第3回	保育現場での身体表現実践観察(3歳未満児)	萩原
第4回	保育現場での身体表現実践観察(3歳以上児)	萩原
第5回	大人・仲間と関わる運動遊び、ボール遊び	萩原
第6回	なわ・フープ・マット・跳び箱等を利用した運動遊び	萩原
第7回	身近なものを利用した素材遊びから身体表現へ	萩原
第8回	絵本を使った身体表現	萩原
第9回	保育指導案作成についての理解	萩原
第10回	保育指導案の作成と改善に向けてのグループワーク	萩原
第11回	模擬保育の実践	萩原
第12回	模擬保育について振り返り	萩原
第13回	保育現場での指導実践（３歳未満児）	萩原
第14回	保育現場での指導実践(3歳以上児)	萩原
第15回	保育現場での指導実践について振り返り	萩原

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○	○	○	

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	模擬保育、保育現場での指導実践に向けて事前に指導案を作成し、各自練習を行うこと。	学習合計時間(h)	30
事後学習	講義内容を振り返り、学んだ内容について復習すること。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	授業時、個別やグループ別に対応する。		
質問・相談方法	授業時間前後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	木曜日　15:00～16:00　研究室(体育館202号室)		

テキスト	特になし
参考文献等	『すこやかな子どもの心と体を育む改訂運動遊び』　井上勝子他　建帛社　2020年　2,400円(税抜き)(ISBN 978-4-7679-5114-0)　『新訂豊かな感性を育む身体表現遊び』　井上勝子他　ぎょうせい　2020年　2,286円(税抜き)(ISBN 978-4-324-09269-9)
成績評価基準	子どもの発育発達について理解した上で、保育指導案を作成し、実践できること。
成績評価の方法	保育指導案の作成と実践(90%)、受講態度(10%)で評価する。
ＧＰＡ基準	
備考	授業においては以下の内容を実施する。それに伴い、授業時間を変更することがある。　1　保育現場での身体表現活動の実際を、卒業生の勤務する園にて見学させていただく。　2　保育現場の協力を得て、現場での保育実践をさせていただく。

科目名	読書と豊かな人間性	**科目ナンバー**	**J司3415**
担当者	小沢　貴雄		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	演習		
配当年次	2年	**科目群**	専門科目［教員免許］
開講期	後期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	選択：小教免、幼教免、保育士証　　必修：司書教諭		

授業の概要	学校図書館の役割は、大きく学習指導と読書指導に大別される。そのうち読書指導は、子どもたちの人間性の育成に重要な役割を果たすものである。そこで、児童生徒の発達段階に応じた読書指導について校種ごとに概観しながら、特に小学校における理論を理解し、必要な技能を身につけてもらうことを目的とする。なお、本講義には各回で扱われるテーマについて、授業計画に記入されているもの以外にもディスカッションやグループワーク等を行うことがある。			
授業の到達目標	1.　読書の意義を理解する2.　学校図書館における読書指導について理解する3.　学校図書館を活用した読書指導を実践できる知識と技能を身につける			
ディプロマポリシー（DP）	1 教育・保育に必要な専門性　教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力　教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性　教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	―
DPとの関連	○		◎	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	○オリエンテーション ○読書活動に関するワークショップ	小沢
第2回	○読書の意義と目的について	小沢
第3回	○読書教育の系譜について	小沢
第4回	○読書指導と学校図書館について	小沢
第5回	○子どもの読書環境について	小沢
第6回	○発達段階に応じた読書指導について	小沢
第7回	○子どもの本の種類と提供について	小沢
第8回	○読書環境の整備について ○読書指導の実践①	小沢
第9回	○各教科等での読書指導・探究的な学習と読書指導について ○読書指導の実践②	小沢
第10回	○読書活動の実際について（小学校及び中学校での活動） ○読書指導の実践③	小沢
第11回	○読書活動の実際について（高等学校及び特別支援学校での活動） ○読書指導の実践④	小沢
第12回	○読書活動の推進と司書教諭・学校司書について ○読書指導の実践⑤	小沢
第13回	○個に応じた読書指導について ○読書指導の実践⑥	小沢
第14回	○地域社会との連携について ○読書指導の実践⑦	小沢
第15回	○読書指導の実践⑧ ○振り返り，まとめ	小沢

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○	○		

担当教員の実務経験と授業の関連	中学校，高等学校，特別支援学校で国語科教員として指導していた経験を有し，高等学校までの内容を踏まえ，社会人としてふさわしい国語・言葉の力を身に付けられるよう，指導することができる。		
事前学習	授業内容の理解を深められるように提出された資料をよく読む	学習合計時間(h)	30
事後学習	授業内容を踏まえて知識の整理をする	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、次回以降の授業での解説もしくは求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する。		
オフィスアワー	水曜日の１～２コマ目（9：10～12：20）　研究室(西館405号室)		

テキスト	全国学校図書館協議会「探究学校図書館学」編集委員会『探究学校図書館学　第４巻　読書と豊かな人間性』，2020年，￥2,000円(税別)(ISBN978-4-7933-2277-8)
参考文献等	金沢みどり・河村俊太郎著『ライブラリー学校図書館学　第１巻　読書と豊かな人間性』，2023年，￥2500（税別）（ISBN:978-4-585-30401-2）
成績評価基準	学校図書館を活用した読書指導を実践できる知識と技能を身につけること。
成績評価の方法	最終レポートの提出(50%)、授業感想レポート(20%)、授業中に指示した課題の提出(30%)で総合的に判定する。
ＧＰＡ基準	
備考	受講は、司書教諭免許取得希望者を優先します。受講者数が30名を超えた場合、抽選となります。※ 授業の内容・順番を一部変更する場合があります。

科目名	子ども家庭支援論	科目ナンバー	J保1345
担当者	平本　譲		
科目	—		
施工規則に定める科目区分または事項等	—		
授業形式	講義		
配当年次	2年	科目群	専門科目［保育士証］
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2単位	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：保育士証		

授業の概要	保育所、認定こども園等に勤務する保育士・保育教諭は、保護者および地域の子育て家庭にとって最も身近で重要な子育て支援の担い手である。本科目では、子育て支援における、保育士に求められる役割や、支援の際の基本的な態度や技術について学ぶ。さらに、課題解決に必要となる社会資源の活用や関係機関との連携について学び、理解を深める。			
授業の到達目標	1．子育て家庭に対して保育士の行う相談等の支援の意義や保育士との役割について理解する2．保育士による子ども家庭支援の基本について理解する　3．子育て家庭に対する支援の体制について理解する　4．子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する			
ディプロマポリシー（DP）	1 教育・保育に必要な専門性　教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力　教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性　教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	—
DPとの関連	◎	○	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	子ども家庭支援の意義と必要性	平本
第2回	子ども家庭福祉の目的と機能	平本
第3回	子育て支援施策・次世代育成施策の推進	平本
第4回	子育て家庭の福祉を図るための社会資源	平本
第5回	保育の専門性を活かした子ども家庭福祉とその意義	平本
第6回	子どもの育ちの喜びの共有	平本
第7回	保護者および地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援	平本
第8回	保育士に求められる基本的態度	平本
第9回	家庭の状況に応じた支援	平本
第10回	地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力	平本
第11回	子ども家庭支援の内容と対象	平本
第12回	保育所等を利用する子どもへの家庭への支援	平本
第13回	地域の子育て家庭への支援	平本
第14回	要保護児童およびその家庭に対する支援	平本
第15回	子育て支援に関する課題と展望	平本

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○				

担当教員の実務経験と授業の関連	家庭支援専門相談員として家庭支援の勤務経験を活かして、子育て支援、家庭支援についての専門的な知識と技術について教授する		
事前学習	授業で示す事前・事後学習課題に取り組む	学習合計時間(h)	15
事後学習	講義内容について書籍、新聞、インターネット等で子育てに関する問題の現状や課題について調べ、理解を深める	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	各授業の事前・事後課題に対しては、その後の授業において解説等を行う。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する		
オフィスアワー	水曜日　16:30～18:00　研究室(西館409号室)		

テキスト	『子ども家庭支援論』立花直樹・安田誠人監修　晃洋書房　2025年　2000円　　(ISBN978-4-7710-3899-8)
参考文献等	
成績評価基準	到達目標に掲げた4つのテーマについて理解すること
成績評価の方法	事前・事後課題(20%)と期末試験(80%)で総合的に評価する
ＧＰＡ基準	
備考	単位互換［KRICE］提供科目

科目名	社会的養護Ⅱ		科目ナンバー	J保2316
担当者	平本　譲			
科目	―			
施工規則に定める科目区分または事項等	―			
授業形式	演習			
配当年次	2年	科目群	専門科目［保育士証］	
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	1単位	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：保育士証			

授業の概要	本科目では、社会的養護Ⅰで学んだ、社会的養護の理論、支援体制、児童の権利擁護などを基盤として、乳児院、児童養護施設、児童自立支援施設、児童心理治療施設、里親養育などにおける、養育実践方法について理解を深め、基本的技術を修得する。			
授業の到達目標	1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基本的内容、施設養護及び家庭養護の実際について理解する　2. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する　3. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する　4. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する			
ディプロマポリシー（DP）	1 教育・保育に必要な専門性　教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力　教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性　教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	―
DPとの関連	○	◎	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	社会的養護の内容(1)　社会的養護における子どもの理解	平本
第2回	社会的養護の内容(2)　日常生活支援	平本
第3回	社会的養護の内容(3)　治療的支援	平本
第4回	社会的養護の内容(4)　自立支援	平本
第5回	社会的養護の生活特性および実際	平本
第6回	家庭養護の生活特性および実際	平本
第7回	社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価(1)　アセスメント	平本
第8回	社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価(2)　個別支援計画の作成	平本
第9回	社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価(3)　記録の作成	平本
第10回	社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価(4)　自己評価	平本
第11回	社会的養護に関わる専門的技術(1)　保育の専門性に関わる知識・技術とその実践	平本
第12回	社会的養護に関わる専門的技術(2)　社会的養護に関わる相談援助の知識・技術とその実践	平本
第13回	社会的養護における家庭支援	平本
第14回	社会的養護の課題と展望	平本
第15回	まとめ	平本

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○			

担当教員の実務経験と授業の関連	児童養護施設職員としての勤務経験を活かして、社会的養護を必要とする子どもに対する支援についての専門的知識と技術について教授する		
事前学習	授業で示す事前・事後学習課題に取り組む	学習合計時間(h)	15
事後学習	書籍、新聞、インターネット等で児童家庭福祉、社会的養護、児童虐待等の現状や課題について調べ、理解を深める	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	各授業の事前・事後課題に対しては、その後の授業において解説等を行う。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する		
オフィスアワー	水曜日　16:30～18:00　研究室(西館409号室)		

テキスト	『社会的養護Ⅰ・Ⅱ』中野菜穂子,東俊一編　　みらい　2024年　2640円　(ISBN978-4-86015-633-6)
参考文献等	『やさしくわかる社会的養護　シリーズ1～7』　相澤仁編集代表　明石出版　2012年～2014年　各2400円　9784750337197(1巻)
成績評価基準	到達目標に掲げた4つのテーマについて理解すること
成績評価の方法	事前・事後課題(40%)と期末試験(60%)で総合的に評価する
ＧＰＡ基準	
備考	単位互換［KRICE］提供科目

科目名	子ども家庭支援の心理学	科目ナンバー	J保3414
担当者	瀧井　綾子		
科目	—		
施工規則に定める科目区分または事項等	—		
授業形式	演習		
配当年次	2年	科目群	専門科目［保育士証］
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2単位	担当形態	単独
免許・資格情報	必修・保育士証		

授業の概要	1.人の心理的・社会的発達を学び、生涯発達について理解することを通して、児童の各発達段階における発達課題を理解する。2.相互作用の観点から初期経験の重要性や発達の可塑性について学ぶ。3.家庭・家族の関係性の発達変化を理解し、包括的あるいは多様な視点からとらえることを学ぶ。子どもの精神保健とその課題、子供や家庭を取り巻く現代社会の特徴を理解し、その課題を考える。			
授業の到達目標	1. 発達の概念と生涯発達について基礎理解を図り、初期経験の重要性や発達課題などについて学ぶ。2. 家族や家庭の意義・機能を理解し、発達的観点から家族や親子の関係性について理解し、子どもととその家庭を包括的に捉える視点を習得する。3. 子どもの精神保健とその課題について理解する。子育て家庭を取り巻く現代の社会状況とその課題を理解する。			
ディプロマポリシー（DP）	1 教育・保育に必要な専門性　教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力　教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性　教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	—
DPとの関連			○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション・生涯発達の考え方・生涯発達から見た心の問題と家族	瀧井
第2回	生涯発達：乳幼児期	瀧井
第3回	生涯発達：学童期前期	瀧井
第4回	生涯発達：学童期後期	瀧井
第5回	生涯発達：青年期	瀧井
第6回	生涯発達：成人期	瀧井
第7回	生涯発達：老年期	瀧井
第8回	社会と家族の変化	瀧井
第9回	家族機能の理解	瀧井
第10回	現代の子育ての難しさと保育の役割	瀧井
第11回	家庭への配慮と支援	瀧井
第12回	特別な配慮を必要とする家庭	瀧井
第13回	多様な家族形態とその理解	瀧井
第14回	発達支援を必要とする子どもを育てる	瀧井
第15回	子どもの精神保健と家庭への支援	瀧井

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○				

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	教科書や参考図書の該当箇所を一読しておく	学習合計時間(h)	30
事後学習	講義内容や，講義中に触れたキーワードについて調べてまとめる	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	小レポートについて講義中に全体的へ向けたフィードバックを行う。		
質問・相談方法	授業時やオフィスアワーで対応する。		
オフィスアワー	火曜日16：30～18：00　研究室（西館416号室）		

テキスト	『子ども家庭支援の心理学』　佐久間路子，福丸由佳編　北大路書房　1900円　（ＩＳＢＮ：9784762831539）
参考文献等	講義中に適宜紹介する
成績評価基準	子どもの発達と家庭の関係性や、総合的な支援の視点が理解できたものを合格とする。
成績評価の方法	①毎時間の小レポート(50%) ②期末レポート(50%)
ＧＰＡ基準	
備考	単位互換［KRICE］提供科目

科目名	子どもの食と栄養	**科目ナンバー**	**J保1344**
担当者	酒瀬川　里美		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	演習		
配当年次	2年	**科目群**	専門科目［保育士証］
開講期	前期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	必修：保育士証		

授業の概要	望ましい食生活のあり方を考え、自らの食生活で知識を活かした食事を実践できるよう、栄養の基本的知識について学習する。また保育士として適切な食育が出来るよう、乳児期から学童期の子どもたちの食生活上の援助について知識と技術を習得する。			
授業の到達目標	1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ。　2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。 3. 食育の基本・内容を理解し、家庭や児童福祉施設における食生活の現状に即した食育が出来るようになる。			
ディプロマポリシー（DP）	1 教育・保育に必要な専門性　教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力　教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性　教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	―
DPとの関連				
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	子どもの健康と食生活の目標と意義	酒瀬川
第2回	栄養に関する基本的知識	酒瀬川
第3回	献立作成の要点と調理の基礎知識	酒瀬川
第4回	妊娠期(胎児期)の食生活と栄養	酒瀬川
第5回	乳児期の特徴と食生活	酒瀬川
第6回	離乳期の栄養	酒瀬川
第7回	幼児期の食生活と栄養	酒瀬川
第8回	学童期の食生活と栄養	酒瀬川
第9回	思春期以降の食生活と栄養	酒瀬川
第10回	子どもの疾患と食生活	酒瀬川
第11回	食物アレルギーと食生活	酒瀬川
第12回	障がいのある子どもの食生活	酒瀬川
第13回	児童福祉施設における食生活と栄養	酒瀬川
第14回	食育の基本	酒瀬川
第15回	食育の計画と実践	酒瀬川

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	◎	○	○		

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	テキストの熟読と疑問点の洗い出し	学習合計時間(h)	30
事後学習	授業ごとの設問キーワードへの理解	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	出席シートを振り返りシートとして活用し、授業毎に評価する		
質問・相談方法	オフィスアワーを活用		
オフィスアワー	火曜日　12:05～12：55　非常勤講師室(本館104号)		

テキスト	『最新子どもの食と栄養』　飯塚美和子 ほか　学建書院　2020年　2,400円 (ＩＳＢＮ：978-4-7624-6841-4)
参考文献等	高校家庭基礎・家庭総合などの教科書
成績評価基準	保育士として、子どもの発育と食事の関係性がわかり、成長期の食育の意義が理解できる。
成績評価の方法	期末試験(70%)課題提出(30%)
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	子育て支援	科目ナンバー	J保1446
担当者	平本　譲		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	演習		
配当年次	2年	科目群	専門科目［保育士証］
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1単位	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：保育士証		

授業の概要	本科目では、子ども家庭支援論や子ども家庭福祉論などで学んだ知識をもとにして、子育て支援の計画、実践、評価などの技術を学び、子育て支援の実践的技術の修得をめざす。また、事例検討やロールプレイを通して、子育て支援の実践力を高める。			
授業の到達目標	1. 子育て家庭に対して保育士の行う相談等の支援の展開について具体的に理解する2. 子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容とその実際を理解する			
ディプロマポリシー(DP)	1 教育・保育に必要な専門性　教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力　教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性　教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	―
DPとの関連	◎	○		
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	子どもの保育とともに行う保護者の支援	篠原
第2回	日常的・継続的なかかわりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成	篠原
第3回	保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多角的な理解	篠原
第4回	子どもおよび保護者の状況・状態の把握	篠原
第5回	支援の計画と環境の構成	平本
第6回	支援の実践・記録・評価・カンファレンス	平本
第7回	職員間の連携・協働	平本
第8回	社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働	篠原
第9回	保育所等における支援	今村
第10回	地域の子育て家庭に対する支援	篠原
第11回	障害のある子どもおよびその家庭に対する支援	篠原
第12回	特別な配慮を要する子どもおよびその家庭に対する支援	篠原
第13回	子ども虐待の予防と対応	平本
第14回	要保護児童等の家庭に対する支援	平本
第15回	多様な支援ニーズをかかえる子育て支援家庭の理解	篠原

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	授業で示す事前・事後学習課題に取り組む	学習合計時間(h)	30
事後学習	書籍、新聞、インターネット等で子育てに関する問題の現状や課題について調べ、理解を深める	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	各授業の事前・事後課題に対しては、その後の授業において解説等を行う。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する		
オフィスアワー	平本：水曜日　16:30～18:00　研究室(西館409号室) 篠原：木曜日　12:20～14:00　研究室（西館304号室）		

テキスト	『子育て支援』　立花直樹・安田誠人監修　晃洋書房　2025年　2000円 　(ISBN978-4-7710-3900-1)
参考文献等	
成績評価基準	・子育て家庭を取り巻く社会的状況を理解し、保育士による子育て支援の必要性について説明できる　・子育て支援について、様々な場面に応じた支援（適切な言葉かけ、情報提供、関係機関との連携等）について理解する。
成績評価の方法	レポート等の提出課題(80%)、授業中のディスカッション、グループワークへの参加(20%)による総合評価とする
ＧＰＡ基準	
備考	単位互換［KRICE］提供科目 資料の共有については、Google Classroomを使用する。個別の連絡はTeamsを使用する。

科目名	施設実習Ⅰ指導	**科目ナンバー**	**J保2311**
担当者	松下　茉莉香		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	演習		
配当年次	2年	**科目群**	専門科目［保育士証］
開講期	前期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	1単位	**担当形態**	複数
免許・資格情報	必修：保育士証		

授業の概要	施設実習前及び実習後に次の内容を目標として講義を行う。1施設実習Ⅰの意義・目的を理解する、2実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする、3実習施設における子ども・利用者の人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する、4実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する、5実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。			
授業の到達目標	1．実習施設における保育士の職務内容及び役割について理解する2．実習における明確な到達目標を設定する3．実習生に求められる知識や技術を獲得し、留意事項を理解する			
ディプロマポリシー（DP）	1 教育・保育に必要な専門性　教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力　教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性　教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	―
DPとの関連	○	◎	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	実習の概要と目的について	科目担当者
第2回	施設保育士の役割と施設の種類と役割、子どもや利用者の実態について	科目担当者
第3回	実習に向けた抱負と留意事項、事前学習課題レポートについて	科目担当者
第4回	現場の先生方による講話①【児童養護施設】	科目担当者
第5回	現場の先生方による講話②【障がい者施設】	科目担当者
第6回	実習計画作成の目的・作成と事前訪問について	科目担当者
第7回	実習記録の内容・書き方について	科目担当者
第8回	実習支援システムの利用と入力について	科目担当者
第9回	実習の心構えと実習後の提出物、腸内細菌検査について	科目担当者
第10回	腸内細菌検査の結果配布と実習直前指導	科目担当者
第11回	実習後の自己評価と振り返り・実習報告書作成指導・課題の明確化	科目担当者
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○		○		

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	・授業で示す事前・事後学習課題に取り組む・書籍、新聞、インターネット等で各施設、施設に入所・通所する利用者の特徴、課題、現状等について調べ、理解を深める	学習合計時間(h)	15
事後学習	・授業で示す事前・事後学習課題に取り組む・書籍、新聞、インターネット等で各施設、施設に入所・通所する利用者の特徴、課題、現状等について調べ、理解を深める	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	各授業の事前・事後課題に対しては、採点の上返却し、その後の授業において解説等を行う。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する		
オフィスアワー			

テキスト	『保育実習の手引き』　鹿児島女子短期大学児童教育学科編
参考文献等	『保育士をめざす人のための施設実習ガイド』　河合高鋭・石山直樹　編　株式会社みらい　2020年　(ISBN：978-4-86015-503-2)
成績評価基準	到達目標に掲げた3つのテーマについて理解すること。
成績評価の方法	事前・事後課題(100%)で総合的に評価する。
ＧＰＡ基準	
備考	科目担当者：宇都　弘美、平本　譲、松下　茉莉香、内田　豊海

科目名	施設実習Ⅰ	科目ナンバー	J保2310
担当者	松下　茉莉香		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	実習		
配当年次	2年	科目群	専門科目［保育士証］
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2単位	担当形態	複数
免許・資格情報	必修：保育士証		

授業の概要	以下のことを目標として設定し施設実習Ⅰを行う。1児童福祉施設(保育所を除く)、障害者支援施設等の理解や機能を具体的に理解する、2観察や子ども・利用者との関わりを通して、子ども、利用者への理解を深める、3既習の教科の内容を踏まえ、子ども・利用者の支援及び保護者への支援について総合的に学ぶ、4支援の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する、5保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。			
授業の到達目標	1. 児童福祉施設等の役割や機能、現状を理解する2. 子ども・利用者への理解を深める及び保護者への支援を習得する			3. 子ども・利用者への支援
ディプロマポリシー(DP)	1 教育・保育に必要な専門性　教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力　教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性　教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	―
DPとの関連	○	◎	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	施設での生活を理解する	科目担当者
第2回	施設の日課を理解する	科目担当者
第3回	施設の役割を理解する	科目担当者
第4回	施設の機能を理解する	科目担当者
第5回	子ども・利用者を観察する	科目担当者
第6回	観察をもとに記録を作成する	科目担当者
第7回	個々の状態に応じた援助について理解する	科目担当者
第8回	計画に基づく活動や援助について理解する	科目担当者
第9回	子ども・利用者を観察する	科目担当者
第10回	子ども・利用者の活動と生活環境について理解する	科目担当者
第11回	支援計画について理解する	科目担当者
第12回	記録に基づく省察、自己評価を行う	科目担当者
第13回	保育士の業務内容について理解する	科目担当者
第14回	職員間の役割分担や連携について理解する	科目担当者
第15回	保育士の役割と職業倫理について理解する	科目担当者

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
				○	

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	事前オリエンテーションにおいて説明を受けた、施設及び利用者の現状について整理し、理解を深める。	学習合計時間(h)	30
事後学習	実習において求められる知識・支援技術等について整理し、課題を見出す。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	・実習後にグループ発表及び全体実習報告会を実施し、実習での学びの共有化、理解を深める・実習終了後に必要と思われる学生に個別の指導を実施する		
質問・相談方法	実習訪問教員、もしくは施設実習指導教員が面接、電話、メール等で質問に対応する		
オフィスアワー			

テキスト	『保育士をめざす人のための施設実習ガイド』　河合高鋭・石山直樹　編　株式会社みらい　2020年　(ISBN：978-4-86015-503-2)　『保育実習の手引き』　鹿児島女子短期大学児童教育学科編
参考文献等	
成績評価基準	到達目標に掲げた3つのテーマについて理解すること。
成績評価の方法	実習施設による評価(100%)
ＧＰＡ基準	ＧＰＡ（原則として1.0）
備考	科目担当者：宇都　弘美、平本　譲、松下　茉莉香、内田　豊海

科目名	保育所実習Ⅱ指導	**科目ナンバー**	**J保2315**
担当者	宇都　弘美		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	演習		
配当年次	2年	**科目群**	専門科目［保育士証］
開講期	前期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	1単位	**担当形態**	複数
免許・資格情報	選択必修：保育士証		

授業の概要	保育所実習の意義と目的を再確認し、既習の教科や保育所実習Ⅰの経験を踏まえ、保育実践力を培う。また、保育の観察、実践、記録及び自己評価等を踏まえ、保育の改善について学ぶ。さらに、実習の事後指導等を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育についての課題を明らかにする。			
授業の到達目標	1．既習の教科や保育所実習Ⅰの経験を踏まえ、保育実践力を培う。2．実習の総括と自己評価を行い、自身の保育の課題を明らかにする。			
ディプロマポリシー（DP）	1 教育・保育に必要な専門性　教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力　教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性　教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	―
DPとの関連	○	◎	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	保育所実習Ⅰ事後指導及び保育所実習Ⅱに向けて	科目担当者
第2回	保育所実習Ⅰでの各自の課題の確認、保育所実習Ⅱの目標の設定（抱負と課題作成）	科目担当者
第3回	実習記録の記載法の再確認、保育場面を視聴し記録する①	科目担当者
第4回	実習記録の記述内容の確認と修正①	科目担当者
第5回	保育場面（食事援助）を視聴し記録する②	科目担当者
第6回	実習記録の記述内容の確認と修正②	科目担当者
第7回	事前訪問について	科目担当者
第8回	事前訪問後の記録の整理及び指導案作成のための教材研究	科目担当者
第9回	乳児の生活援助の演習	宇都
第10回	腸内細菌検査について	科目担当者
第11回	検査結果配付と実習準備の確認	科目担当者
第12回	実習事後指導、レポート提出	
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
					○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	事前学習：授業内容をシラバスで確認し必要書類等の準備をする。	学習合計時間(h)	15
事後学習	事後学習：講義の内容を再確認し、実習に向けての準備を進める。	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	講義内で要点を解説するとともに、求めに応じて個別に対応する		
質問・相談方法	講義終了後及びオフィスアワー等で対応する		
オフィスアワー			

テキスト	『保育所実習の手引き』　鹿児島女子短期大学児童教育学科編　鹿児島女子短期大学　2025
参考文献等	『イラストたっぷり やさしく読み解く 保育所保育指針ハンドブック』　汐見稔幸監修　学研プラス　2017　￥1,700　(ISBN-10: 4058008091)『新訂 知りたいときにすぐわかる 幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド 第二版』　石橋裕子著／林幸範著　同文書院　2018　￥2,000　(ISBN-
成績評価基準	保育所実習Ⅱの総括と自己評価を行い、今後の自身の保育の課題を明らかにすること。
成績評価の方法	実習準備の取り組み状況とレポート(実習の終了報告書)で総合的に評価する(100%)
ＧＰＡ基準	
備考	科目担当者：宇都　弘美、瀧井　綾子、水谷　いつみ

科目名	保育所実習Ⅱ	**科目ナンバー**	**J保2314**
担当者	宇都　弘美		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	実習		
配当年次	2年	**科目群**	専門科目［保育士証］
開講期	前期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	複数
免許・資格情報	選択必修：保育士証		

授業の概要	既習の教科や保育所実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について学ぶ。また、保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実践し、理解を深める。さらに、保育所の役割や機能、保育士の業務内容や職業倫理、家庭・地域社会との連携について総合的に学び、自己の子ども観や保育観の確立を目指す。			
授業の到達目標	1. 保育課程に基づく指導計画の一部を実践し、評価する。2. 入所児の保護者支援や地域の子育て、家庭への支援を学ぶ。3. 実践を通して、保育士としての自己の課題を明確にする。			
ディプロマポリシー（DP）	1 教育・保育に必要な専門性　教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力　教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性　教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	―
DPとの関連	○	◎	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	保育所の社会的役割と責任	A
第2回	保育所での生活や子どもの状態と保育士等の援助	A
第3回	全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・評価	A
第4回	入所児の保護者支援や地域の子育て家庭への支援	A
第5回	多様な保育の展開と保育士等の業務との連携について	A
第6回	地域社会との連携	A
第7回	実習を通しての保育士としての自己の課題の明確化	A
第8回	保育参加(0歳児クラス)	A
第9回	保育参加(1歳児クラス)	A
第10回	保育参加(2歳児クラス)	A
第11回	保育参加(3歳児クラス)	A
第12回	保育参加(4歳児クラス)	A
第13回	保育参加(5歳児クラス)	A
第14回	実習の振り返り	A
第15回	実習のまとめ	A

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
				○	

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	・指導案作成や製作準備をおこなう。	学習合計時間(h)	30
事後学習	・毎日、帰宅後に実習を振り返り、実習記録を作成する。・実習終了後は、実習を総括して記録をすべて仕上げて実習先に提出する。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	求めに応じて個別に対応する		
質問・相談方法	オフィスアワー、実習先訪問時に対応する		
オフィスアワー			

テキスト	『保育所実習の手引き』　鹿児島女子短期大学児童教育学科編　鹿児島女子短期大学　2024
参考文献等	『イラストたっぷり やさしく読み解く 保育所保育指針ハンドブック』　汐見稔幸監修　学研プラス　2017　￥1,700　(ISBN-10: 4058008091)『新訂 知りたいときにすぐわかる 幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド 第二版』　石橋裕子著／林幸範著　同文書院　2018　￥2,000　(ISBN-
成績評価基準	入所児の保護者支援や地域の子育て、家庭への支援を学ぶとともに、保育課程に基づく指導計画の一部を実践した際の振り返りを通して、保育士としての自己の課題を明確にすること。
成績評価の方法	本学が定めた評価表に従って、各実習先が評価する(100%)評価の観点は、実習の態度、保育・援助の実践、実習記録の3項目とする。
ＧＰＡ基準	ＧＰＡ（原則として1.0）
備考	Ａ：実習施設担当者　※ 実習参加資格審査に合格していないと、保育所実習Ⅱには参加できない。　※ 参加要件については、学生便覧等で確認しておくこと。　※ 保育所実習Ⅱ指導を無断欠席した場合、実習に参加できないことがある。

科目名	施設実習Ⅱ指導	**科目ナンバー**	**J保2313**
担当者	松下　茉莉香		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	演習		
配当年次	2年	**科目群**	専門科目［保育士証］
開講期	前期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	1単位	**担当形態**	複数
免許・資格情報	選択必修：保育士証		

授業の概要	施設実習Ⅰでの学びを基盤にして、以下のことを目標と設定し実習指導を行う。1施設実習Ⅱの意義と目的を理解し、支援について総合的に学ぶ、2実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、支援の実践力を培う、3支援場面の観察、記録及び自己評価等を踏まえ支援の改善について実践や事例を通して学ぶ、4保育士の専門性と職業倫理について理解する、5実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、支援に対する課題や認識を明確にする。			
授業の到達目標	1．施設実習Ⅰでの経験を生かし、より専門的な支援技術を修得する　　2．個別支援計画に基づいた支援の必要性と具体的方法を修得する			
ディプロマポリシー（DP）	1 教育・保育に必要な専門性　教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力　教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性　教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	―
DPとの関連	○	◎	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	施設実習Ⅰの振り返り	科目担当者
第2回	各実習施設での事例についての考察と支援方法の検討	科目担当者
第3回	施設実習Ⅱの内容の理解と目標設定について	科目担当者
第4回	保育実践力を育成する1　利用者の状態に応じた適切な関わり	科目担当者
第5回	保育実践力を育成する2　保育の表現技術を生かした支援実践	科目担当者
第6回	個別支援計画の理解①支援の全体計画に基づく具体的な計画と実践	科目担当者
第7回	個別支援計画の理解②支援の観察、記録、自己評価に基づく支援の改善	科目担当者
第8回	個別支援計画の理解③支援計画の作成	科目担当者
第9回	実習Ⅱの自己課題の設定	科目担当者
第10回	実習の総括と評価	科目担当者
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○		○		

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	・授業で示す事前・事後学習課題に取り組む・書籍、新聞、インターネット等で各施設、施設に入所・通所する利用者の特徴、課題、現状等について調べ、理解を深める	学習合計時間(h)	15
事後学習	・授業で示す事前・事後学習課題に取り組む・書籍、新聞、インターネット等で各施設、施設に入所・通所する利用者の特徴、課題、現状等について調べ、理解を深める	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	各授業の事前・事後課題に対しては、その後の授業において解説等を行う。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する		
オフィスアワー			

テキスト	『保育実習の手引き』　鹿児島女子短期大学児童教育学科編
参考文献等	『ワークシートで学ぶ施設実習』　和田上貴昭ら編　同文書院　2020年　(ISBN978-4-8103-1494-6)
成績評価基準	到達目標に掲げた3つのテーマについて理解すること。
成績評価の方法	事前・事後課題(100%)で総合的に評価する。
ＧＰＡ基準	
備考	科目担当者：宇都　弘美、平本　譲、松下　茉莉香、内田　豊海

科目名	施設実習Ⅱ	**科目ナンバー**	**J保2312**
担当者	松下　茉莉香		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	実習		
配当年次	2年	**科目群**	専門科目［保育士証］
開講期	前期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	複数
免許・資格情報	選択必修：保育士証		

授業の概要	施設実習Ⅰでの学びを基盤として、以下のことを目標として設定し施設実習Ⅱを行う。1児童福祉施設(保育所以外)・障害者支援施設等の役割や機能について実践を通して理解を深める、2家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う、3保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する、4保育士としての自己の課題を明確化する。			
授業の到達目標	1．子ども・利用者を受容、共感する態度を身につける2．子ども・利用者のニーズ把握、子ども・利用者理解を深める3．子ども・利用者への支援技術及び保護者への支援技術を習得する			
ディプロマポリシー(DP)	1 教育・保育に必要な専門性　教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力　教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性　教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	―
DPとの関連	○	◎	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	施設での生活の意味を深く理解する	科目担当者
第2回	施設での日課・週課・月課などについて深く理解する	科目担当者
第3回	施設の役割について深く理解する	科目担当者
第4回	施設の機能を深く理解する	科目担当者
第5回	子ども・利用者を専門的視点に基づき観察する	科目担当者
第6回	観察をもとに記録を作成する	科目担当者
第7回	個々の特性・背景・状態に応じた援助のあり方について理解する	科目担当者
第8回	子ども・利用者の活動と生活環境について深く理解する	科目担当者
第9回	健康管理・安全対策について深く理解する	科目担当者
第10回	支援計画の意味・役割を理解する	科目担当者
第11回	支援計画の策定方法について理解する	科目担当者
第12回	実際に支援計画案を作成する	科目担当者
第13回	保育士の多様な業務を理解する	科目担当者
第14回	保育士の職業倫理について理解を深める	科目担当者
第15回	保育士としての自己課題を明確にする	科目担当者

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
				○	

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	施設実習Ⅰでの学び、課題を整理する。　また、実習において求められる知識・支援技術等について整理し、理解及び技術の獲得に努める。	学習合計時間(h)	30
事後学習	実習において得られた知識、支援技術等について整理し、新たな課題を見出す	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	・実習後にグループ発表及び全体実習報告会を実施し、実習での学びの共有化、理解を深める・実習終了後に必要と思われる学生に個別の指導を実施する		
質問・相談方法	実習訪問教員、もしくは施設実習指導教員が面接、電話、メール等で質問に対応する		
オフィスアワー			

テキスト	『保育実習の手引き』　鹿児島女子短期大学児童教育学科編
参考文献等	『ワークシートで学ぶ施設実習』　和田上貴昭ら編　同文書院　2020年　(ISBN　978-4-8103-1494-6)
成績評価基準	到達目標に掲げた3つのテーマについて理解すること。
成績評価の方法	実習施設による評価(100%)
ＧＰＡ基準	ＧＰＡ（原則として1.0）
備考	科目担当者：宇都　弘美、平本　譲、松下　茉莉香、内田　豊海

科目名	学校経営と学校図書館	科目ナンバー	J司1350
担当者	堀　正信		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	講義		
配当年次	2年	科目群	資格養成科目
開講期	前期	卒業の選択・必修	―
単位数	2単位	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：司書教諭		

授業の概要	司書教諭の資格を取得するために学校図書館運営の実際と法的根拠について学ぶ。授業では、児童生徒の主体的・自主的学習を多く取り入れた学習を効果的に進めるために、学校図書館や司書教諭はどのような役割を果たせばよいのかを具体的に学ぶ。そこで、学校図書館の歴史から学び、学校における学校図書館の位置づけを明らかにする。さらに、メディアの多様化・高度化、情報メディアを活用した児童生徒の自主的学習を支援する司書教諭の役割など、今日的な教育課題に対応する学校経営と学校図書館の関わりを明らかにし、今後の学校図書館の課題や可能性について講義する。
授業の到達目標	1．学校教育の中の学校図書館の位置づけと教育的意義を学ぶ。2．さまざまな学校図書館の事例を学ぶことで学校司書と司書教諭の果たす役割について関係づけられるようになる。3．司書教諭の仕事について関心を持ち、仕事内容について具体的に説明できるようにする。 4　司書教諭と学校司書の協働の大切さを知る。

ディプロマポリシー(DP)	◎1 教育・保育に必要な専門性及び司書教諭として必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 司書教諭としての課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	―
DPとの関連	◎	○	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	自己紹介　司書教諭になるための学習（授業の進め方と目標）	堀
第2回	学校図書館の理念と教育的意義（学校図書館関係法規・基準等）	堀
第3回	これからの学校教育とあるべき学びの形	堀
第4回	メディアと人間の循環	堀
第5回	学校の中の図書館	堀
第6回	学校図書館の歴史（アメリカ）	堀
第7回	学校図書館の歴史（日本）	堀
第8回	日本の学校図書館の現状	堀
第9回	学校図書館の目的と機能	堀
第10回	学校図書館の図書館サービス	堀
第11回	学校図書館の教育活動	堀
第12回	学校図書館の担当者。司書教諭と図書館司書の協働の大切さ。	堀
第13回	学校図書館のマネジメント	堀
第14回	学校図書館の設計	堀
第15回	学校図書館と司書教諭の役割について今後の課題と展望	堀

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○	○		○

担当教員の実務経験と授業の関連	中学校国語科教員（図書館担当者）・管理職での実務経験を活かして、授業内容が学校及び学校図書館の現状に即したより実務的なものとなるように努める		
事前学習	事前に出された課題は指定された日までに提出する	学習合計時間(h)	30
事後学習	授業内容についてのコメントを課す	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	提出した課題、レポート等は添削の後に返却する。		
質問・相談方法	授業終了後に受け付ける。		
オフィスアワー	金曜日　9:10～10:40　講義室（　未定　）		

テキスト	『改訂 学校経営と学校図書館』　中村百合子(編集)　2022年　樹村房　２３１０円　(ISBN：９７８－４－８８３６７－361－2) その他、講師
参考文献等	『学校経営と学校図書館 改訂二版』　野口武悟(等)　２０２３年　NHK出版　3300円　(ISBN：９７８－４－５９５－３２４２７－７)
成績評価基準	「読書センター」「学習情報センター」としての学校図書館の成り立ちや役割、司書教諭と学校司書の協働について理解した者を合格とする。
成績評価の方法	試験（60%）　レポート等（10%）　出席（30%）で総合的に判断する。
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	学校図書館メディアの構成	科目ナンバー	J司1351
担当者	川戸　理恵子		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	講義		
配当年次	2年	科目群	資格養成科目
開講期	前期	卒業の選択・必修	―
単位数	2単位	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：司書教諭		

授業の概要	学校図書館は、児童および生徒の学習活動と読書活動を行うために活用される場所である。そこで、学校における教育活動に有益な学校図書館を作り上げるため、学校図書館メディアの役割や、必要とされるメディアの種類と特性、整理の方法について理解してもらう。なお、本講義には各回で扱われるテーマについてグループワーク等を行うことがある。			
授業の到達目標	1. 学校図書館メディアの種類・特性と扱い方について理解する　2. 学校図書館メディアの整理について理解する　3. 学校図書館におけるメディアの提供のあり方を理解する			
ディプロマポリシー(DP)	1 教育・保育に必要な専門性　教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力　教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性　教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	―
DPとの関連	◎			
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	学校教育と学校図書館	川戸
第2回	学校教育と学校図書館メディア	川戸
第3回	学校図書館メディアの種類と特性	川戸
第4回	学校図書館メディアの選択・収集	川戸
第5回	学校図書館メディアの整理・保存	川戸
第6回	学校図書館メディアの評価・更新・廃棄	川戸
第7回	学校図書館と図書館の自由	川戸
第8回	学校図書館メディア選択・評価の実際	川戸
第9回	学校図書館メディア装備の実際	川戸
第10回	学校図書館メディアの組織化（目録法の基礎）	川戸
第11回	学校図書館メディアの組織化（目録法の応用）	川戸
第12回	学校図書館メディアの組織化（分類法の基礎）	川戸
第13回	学校図書館メディアの組織化（分類法の応用）	川戸
第14回	学校図書館メディアの組織化（件名法の基礎と応用）	川戸
第15回	総括	川戸

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○			○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	授業内容の理解を深められるように提示された資料をよく読む	学習合計時間(h)	30
事後学習	授業内容を踏まえて知識の整理をする	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、次回以降の授業での解説もしくは求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する。		
オフィスアワー	木曜日　　12:20～13:10　研究室(西館418号室)※その他の時間は事前相談により対応		

テキスト	『学校図書館メディアの構成(探究 学校図書館学 2巻)』　「探究 学校図書館学」編集委員会編著　全国学校図書館協議会　2020年　2,000円(税抜き)　(ISBN978-4-7933-2275-4)
参考文献等	『司書教諭・学校司書のための学校図書館必携 理論と実践　新訂版』　全国学校図書館協議会監修　悠光堂　2021年　4,200円(税抜き)　(ISBN978-4-909348-33-3)
成績評価基準	学校図書館メディアの種類と特性、図書館における組織法について理解すること。学校図書館におけるメディアの提供のあり方を理解すること。
成績評価の方法	受講態度(10%)、授業中に指示した課題の提出(30%)、最終レポート(60%)で総合的に判定する。
ＧＰＡ基準	
備考	講義ではGoogle ClassroomもしくはMicrosoft Teamsを使用する。 1回程度オンライン授業を取り入れることがある。

科目名	学習指導と学校図書館	科目ナンバー	J司1452
担当者	久川　文乃		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	講義		
配当年次	2年	科目群	資格養成科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	―
単位数	2単位	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：司書教諭		

授業の概要	多くの学校図書館が取り組んでいる様々な授業支援のための図書館活用例を参考に、学校図書館と授業(教科支援)にとどまらず「読書センター」「学習センター」「情報センター」の大きな流れの中の学校図書館についてを理解する。司書教諭としての資質や職務内容について学ぶとともに学校図書館と全教科の授業支援の具体的な事例を挙げながら説明し、学校司書との協働についても学ぶ。			
授業の到達目標	1. 学習指導と学校図書館の利活用ついて学ぶ　2. 学習指導(授業支援)と学校図書館をうまくコーディネイトするために、司書教諭が果たす役割について学ぶ			
ディプロマポリシー(DP)	1 教育・保育に必要な専門性　教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力　教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性　教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	―
DPとの関連	◎		○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション　・授業の概要　・司書教諭に求められた資質・能力について	久川
第2回	学校図書館利用指導　1図書館のオリエンテーション	久川
第3回	図書館における分類	久川
第4回	小学校の図書館教育　発達段階に応じたカリキュラム	久川
第5回	中学校・高校の図書館教育　発達段階に応じたカリキュラム	久川
第6回	調べ学習の方法　1図鑑の活用　テーマの決め方	久川
第7回	調べ学習の方法　2百科事典の活用法	久川
第8回	調べ学習演習　本で調べて発表しよう	久川
第9回	読書のアニマシオン　授業と関連したアニマシオン1	久川
第10回	読書のアニマシオン　授業と関連したアニマシオン2	久川
第11回	特別な支援を必要とする児童生徒への学習支援	久川
第12回	ビブリオバトル	久川
第13回	学校図書館を活用した授業支援1ブックトーク	久川
第14回	学校図書館を活用した授業支援2パスファインダー	久川
第15回	学習指導における司書教諭、学校司書の役割と、授業と連携する学校図書館や公共図書館の支援についてｸﾞﾙｰﾌﾞﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝを通して理解を深める	久川

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○	○		

担当教員の実務経験と授業の関連	学校司書(小学校)，公共図書館での実務経験を活かして、授業内容が図書館現場の実情に即したより実務的なものとなるように努める		
事前学習	事前に出された課題は指定された日までに提出すること。毎回授業の感想を提出する。	学習合計時間(h)	30
事後学習	事前に出された課題は指定された日までに提出すること。毎回授業の感想を提出する。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	提出した課題、レポート等は添削の後に返却する。		
質問・相談方法	授業終了後に受け付ける。		
オフィスアワー	授業終了後に受け付ける。		

テキスト	教科書は特に指定しない。授業中に配付するプリントを用いる。
参考文献等	『学習指導と学校図書館』 出版社：学校図書館協議会　2020/9/25　2200円
成績評価基準	学校図書館が取り組んでいる授業支援について現状を学び、これからの学習指導について理解しているものは合格とする。
成績評価の方法	毎回のミニレポートと受講態度(60%)　課題・提出物(30%)　発表(10パーセント)　で総合的に判断する。
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	情報メディアの活用	科目ナンバー	J司1454
担当者	青木　俊介		
科目	—		
施工規則に定める科目区分または事項等	—		
授業形式	講義		
配当年次	2年	科目群	資格養成科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2単位	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：司書教諭		

授業の概要	インターネットの爆発的な普及により、図書館におけるコンピュータとインターネットの役割が大きく変化している。また、モバイル機器やタブレットで写真を撮ったり、音楽や映像を楽しんだりと、情報メディアも多様化している。このような現在において学校図書館で情報メディアをどのように活用すべきか、情報機器演習で培ったリテラシーを基にして考える。			
授業の到達目標	1,情報メディアを活用するときの司書教諭の役割を理解することができる2.情報メディアを活用した学校図書館のあり方について考えることができる3.学校で情報メディアを活用するときの留意点を理解することができる			
ディプロマポリシー(DP)	1 教育・保育に必要な専門性　教育・保育に必要な専門的な指導力を習得するとともに、それらを活用・実践する力を有する。	2 課題解決能力　教育・保育の課題解決に必要な思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・人間関係調整能力等を有し、現場で実践できる。	3 豊かな人間性　教育的な情熱や使命感・倫理観をもち、社会の変化に対応しながら、理想の教育・保育を目指して探究し向上しようとする態度を有している。	—
DPとの関連	◎			
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	情報メディアってなんだろう	青木
第2回	情報化が進展する社会	青木
第3回	教育・学習理論と情報メディアの活用	青木
第4回	教育メディアの歴史	青木
第5回	情報メディアの種類と特性(1)	青木
第6回	情報メディアの種類と特性(2)	青木
第7回	情報メディアの種類と特性(3)	青木
第8回	学校における ICT の活用	青木
第9回	インターネット情報源と情報検索	青木
第10回	児童生徒の情報行動の実態と指導	青木
第11回	情報メディアの活用事例(小学校)	青木
第12回	特別な支援を要する児童生徒への情報メディアの活用事例	青木
第13回	情報メディアを取り巻く連携の事例	青木
第14回	著作権	青木
第15回	まとめ(最終課題レポート)	青木

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○	○	○	○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	・各回の内容について、これまでに身につけている知識を確認し、必要に応じて事前に調べておく。	学習合計時間(h)	30
事後学習	・復習し、理解が十分でなかった場合、受講者相互で教え合ったり、教員へ質問したりする。・最終課題のために総復習をする。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	・毎回の振り返りについてのフィードバックは、次の時間に全体の場で行う。個別に対応が必要な場合、授業支援ツールでの連絡やオフィスアワーを利用する。		
質問・相談方法	・授業の前後やオフィスアワー、授業支援ツールの連絡機能で対応する。		
オフィスアワー	水曜、木曜のお昼休み(12:20-13:14) 研究室(西館417室)		

テキスト	特になし
参考文献等	『情報メディアの活用 (探究 学校図書館学第5巻)』　「探究 学校図書館学」編集委員会　全国学校図書館協議会　2021年　2000円(税抜き) (ISBN：978-4-793-32278-6)
成績評価基準	・情報メディアを活用するときの司書教諭の役割を理解できること　・情報メディアを活用した学校図書館のあり方について考えることができること　・学校で情報メディアを活用するときの留意点を理解できること
成績評価の方法	・授業内課題(60%)と最終課題レポート(40%)で総合的に判断する。
ＧＰＡ基準	
備考	・課題は授業支援ツールを用いて提出すること(提出の仕方は授業で説明を行う)・コンピュータを持参する